

老いて 10 年

丹沢 NOTE

(第3版)



田中文夫

老いて10年 → 丹沢へ回帰

2013年6月9日(67歳) から

腰痛で三ノ塔尾根途中から下山 → 以来、毎週のように丹沢通い！



丹沢山麓山岳文化講座
中村純二先生ご夫妻
水無川・戸沢出合の河原にて



作治小屋の前にて



作治小屋
津々木良助さん
源次郎尾根の草原にて

2023年12月17日(78歳) まで

烏尾尾根を登り仲尾根下降 … 下降する中で満足感を覚え → 18歳から60年間の山登りを終了！

もくじ

プロローグ	・・・	4
丹沢の不思議体験	・・・	8
丹沢山系の超古代物語	・・・	13
作治小屋 太陽光発電と照明	・・・	22
丹沢山麓 山岳文化講座	・・・	26
登山インストラクター顧客転落死 神奈川県警察本部 現場検証と意見書の提出	・・・	41
丹沢登山のイロイロ	・・・	49
表丹沢登山コース俯瞰図	・・・	50
表丹沢登山コース地図	・・・	51
丹沢の動物	・・・	52
鳥・蝶・蛾・ヒル	・・・	56
キノコ	・・・	58
丹沢に咲く花 (2月～11月)	・・・	58
大倉尾根にかかる「虹」 <三ノ塔尾根 → 表尾根 → 仲尾根下降>	・・・	77
55年前 100mの岩壁を登った <地獄ザリ> 崩壊	・・・	78
初心者向沢登り <春の源次郎沢>	・・・	80
<寄 → 鍋割山北東尾根 → 尊仏土ノ平 → 塔ノ岳西尾根 → 鍋割山 → 寄>	・・・	81
2020年2月の丹沢紀行 <烏尾山仲尾根 → 書策新道下降> 小山貴・記	・・・	82
最初に入った <大日鉱山 マンガン坑跡>	・・・	86
<降雪の源次郎尾根> 山の天気は急変する	・・・	88
積雪の <戸沢駐車場 → 仲尾根 → 烏尾山 → 表尾根 → 書策新道 → 戸沢駐車場>	・・・	89
風雪の <烏尾山仲尾根往復> 気温-4℃ 風速≒15m	・・・	90
雨氷の <大倉 → 仲尾根 → 烏尾山 → 三ノ塔 → 三ノ塔尾根 → 大倉>	・・・	91
晩秋の <寄沢 → コシバ沢 → 鍋割山 → マルガヤ尾根 → 大倉>	・・・	92
表丹沢最急登尾根 <二俣 → 本沢 → 本沢界尾根 → 鍋割山稜 → 小丸尾根 → 二俣>	・・・	93

- <県民の森 → マルガヤ尾根 → 鍋割山稜 → 塔ノ岳 → 木ノ俣尾根 → 戸沢> . . . 94
 新緑と花の <マルガヤ尾根 → 鍋割山稜 → 源次郎尾根 → 戸沢> . . . 95
 晩秋と紅葉の <寄沢 → コシバ沢 → 鍋割山 → 林業道 → 寄> . . . 96
 晩秋の <ウシロ沢 → 鍋割山 → 鍋割山稜 → 源次郎尾根 → 戸沢> . . . 97
 冬枯れの <書策新道 → 木ノ俣尾根 → 書策新道> . . . 98

西丹沢 <檜洞丸周辺地図> . . . 99

- 3月 <雨山峠越え ~ 同角山稜 ~ 西丹沢 (1日コース)> . . . 100
 5月 <作治小屋宿泊・ビッグコース> . . . 101
 西丹沢 → 檜洞丸 → 白ヶ岳 → 蛭ヶ岳 → 丹沢山 → 塔ノ岳 → 源次郎尾根 → 作治小屋 (泊)
 作治小屋 → 仲尾根 → 烏尾山 → 三ノ塔 → 三ノ塔尾根 → 大倉
 12月 <寄沢~雨山峠~玄倉林道~ユーシン~同角山稜~つつじ新道~西丹沢> 1日コース . . . 102
 2月 <寄沢 → 雨山峠 → ユーシン → 同角山稜 → 檜洞丸 (青ヶ岳山荘泊)
 青ヶ岳山荘 → 犬越路 → 用木沢 → 西丹沢> . . . 103
 11月 <寄沢 → 雨山峠 → ユーシン → 同角山稜 → 檜洞丸 → つつじ新道 → 西丹沢> 1日コース . . . 104
 9月 <神ノ川 → 犬越路 → 丹沢主脈 → 熊笹ノ峰コル → 矢駄尾根 → 神ノ川> . . . 105
 3月 <箒沢公園 → 石棚山稜 → 檜洞丸 (青ヶ岳山荘泊) → つつじ新道 → 西丹沢> . . . 106

 4月 マルガヤ尾根 <アセビ & ミツバツツジ> . . . 107
 4月 源次郎尾根 <マメザクラ> & マルガヤ尾根 <オオシマザクラ> . . . 108
 9月 秘密の場所 <サガミジョウロウホトトギス> . . . 109
 6月 烏尾山仲尾根に咲く <ヒメウツギ & アゲハチョウ> . . . 110
 5月 春の小丸尾根 <樹・花・茸・イチゴ> . . . 111
 5月 春の源次郎尾根 <草原の展望と花> . . . 112
 1月 留学前の記念山行 <寄沢→コシバ沢→鍋割山→マルガヤ尾根> . . . 113
 4月 早春の <寄沢→コシバ沢→鍋割山→マルガヤ尾根> . . . 114

- 雪の三ノ塔で出会い3ヶ月後 <アメリカ縦断で死亡した森田利佳さん> . . . 115
 <三ノ塔 お地藏様の衣替え> . . . 120
 手術回復~丹沢復帰の日 <丹沢の上高地> . . . 124

エピローグ . . . 125

- 山行記録表と体力データ . . . 126
 奥付 . . . 137

フ ロ ム - グ

私の生誕地、神奈川県中郡大野町四之宮は1956年(昭和31年)に平塚市と合併して平塚市四之宮となった。私の小学5年生の時だった。

生誕地の裏庭に続く芋畑、その真西に富士山が聳え、さらに右手に大山が聳える。

この地は、富士山から日の出方向に広がる丹沢山塊を包んで流れる相模川末端に位置する。

四之宮は、相模國第4之宮「前鳥神社」があることに由来する。相模川を挟んだ対岸には相模國第1之宮「寒川神社」がある。

古代、富士山東面の水が最初溜まる湖を「宇宙湖」と呼び、そこから流れ出る始源の川を「寒川」と称した記録がある。現在その名は「山中湖」、「桂川」と呼ばれている。桂川は相模に流れ込み、相模川となって相模湾に注ぐ。その相模川流末の地に、川を挟んで「四之宮」と「寒川」が対峙している。

四之宮・前鳥神社の紋章が15菊花紋であり、寒川神社の紋章が16菊花紋であることから、天皇家(16菊花紋)との所縁が思い起こされる。

平塚市と合併前の中郡・大野小学校では、夏休みになると学校行事として「大山登山」がおこなわれていた。

学校からバスで大山山麓まで行き、ケーブルカーと徒歩で山頂を巡って帰る一日コース。私が小学校5年生の時、最後の大山登山だった。

身の周りの世界しか知らない小学5年生だった1956年7月、大山登山で山頂に立った。

西方、遙か彼方の雲間に丹沢山塊が浮かび立ち、幻想的だった。そんな山を登ることなど想像もできない、狭き身辺世界の生活だった。

時同じく1956年5月9日、日本山岳会はネパールヒマラヤに残されていた未踏の8,000m峰、「マナスル」登頂に成功していた。

小学6年生になった翌年、『マナスルに立つ』という映画を学校行事として、平塚市街地の映画館まで徒歩で見に行かされた。

ヒマラヤの氷河や氷雪を登る隊員は酸素マスクを着け、この世の世界と実感できなかった。

そう、この頃はテレビがなく、漫画本では「猿飛佐助」などの忍者を扱う時代に、ヒマラヤ登山は宇宙探検のようで、子供心に全く実感が湧かない他人事だった。

戦時中には近くに海軍火薬廠があり、芋畑が広がる中に大野中学校があった。校舎の一部は、海軍火薬廠の防空コンクリート造かまぼこ型兵舎を再利用していた。中学校の校章は芋の葉のデザインであったことから、「イモ中」と呼ばれるほど芋畑が広がっていた。

高校に入り、初めて電車通学をして社会見分が広がった。

バスで平塚駅まで、東海道線で横浜駅に出、東横線に乗り換えて2つ目の東白楽駅で下車。駅前にある県立神奈川工業高校へ通った。

平塚～横浜間は約 40 分かかるので、小説を読んでいた。川端康成が多かった。

卒業まじかに読んだ井上靖の小説『氷壁』は、臆病で小心な少年時代を過ごした私に、青春のロマンを掻き立ててくれた。

“そうだ・・・山へ行こう！！”、と。

卒業式を終えた日の夜、山岳部だった級友とともに山岳部の部室に泊まり込んだ。

神工山岳部は万座高原に山小屋を確保していたから、そこで山岳部の級友から山スキーの手ほどきを受けるためであった。

就職した池上通信機には山岳部があった。高校の一年先輩で山岳部 OB でもあった Y さんと出会い、毎週末、一年間にわたって丹沢沢登りの手ほどきを受けた。

Y さんに連れられ、最初に行ったのが「滝郷沢」。沢の中間部から涸沢となり、右写真のように岩登り基本の「三点支持」と懸垂下降の練習ができた。

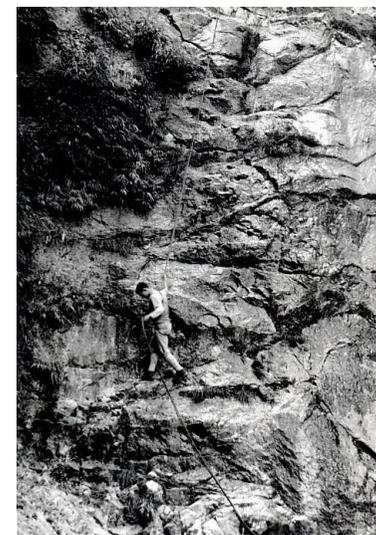
山腹を捲くように降る帰路には茶畑や炭焼小屋があり、情緒豊かで好きだった。



滝郷沢 涸滝 F1 1965.6.27



氷結の円山木沢 1966.2



西丹沢 下棚沢大滝 1966.7.21

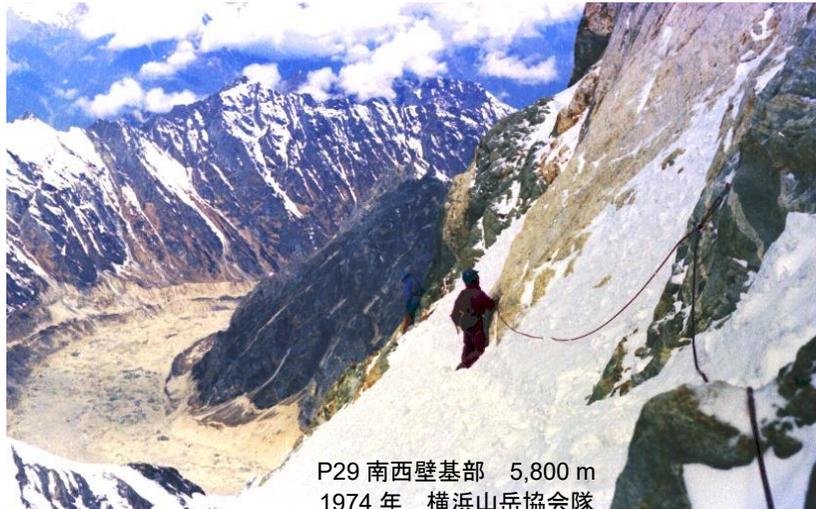
就職して 1 年後、会社を辞めるとともに東京都岳連傘下の社会人山岳会、コンテニユアスクラブに入り、本格的に岩登りを始めた。

主に通ったのは谷川岳一ノ倉沢。土曜日の夜、上野発夜行列車の座席足元に新聞紙を敷き、仮眠する。午前 3 時頃に土合駅へ到着し、我競って一ノ倉沢を目指してダッシュする。夜明けとともに登攀を始め、確保中に居眠りが出る。ハッ気づいて気を引き締めるが、睡魔は常に襲い掛かってきた。

日本の主要な岩場をフルシーズンにわたって登り・・・10 年、28 歳になってヒマラヤの岩壁を目指すまでに成長したが、その分、丹沢にはご無沙汰となってしまった。

1974年3月～5月：春 横浜山岳協会主催のヒマラヤ遠征登山隊へ参加した。

P29 (7815m) 南西壁の基部(6000m)に至るが、春の雪解けによる落石の恐怖で敗退となる。目に見えず、キーンと金属音がすると足元の雪面に穴が開いている。これでは避ける術がなく、ヘルメットも破壊されてしまう。



P29 南西壁基部 5,800 m
1974年 横浜山岳協会隊

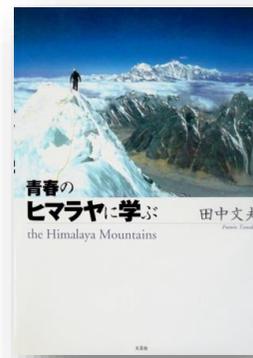
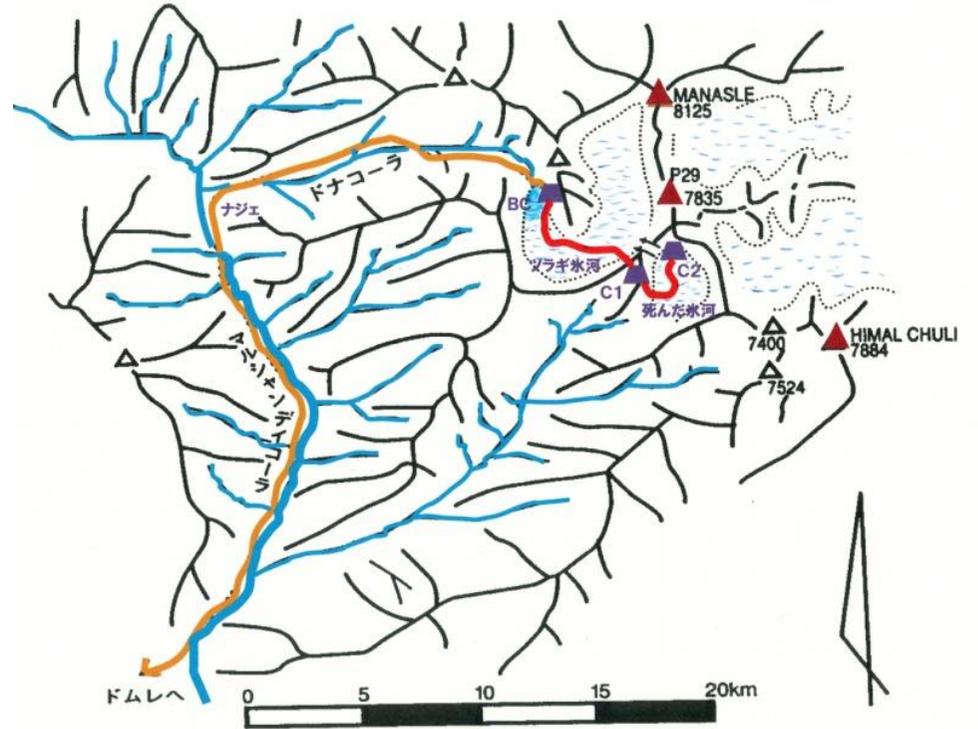
その後 **P29 南西壁**を登るべく仲間を募り、「ツラギの会」を結成して更なる国内トレーニングに励んだ。

1978年8～10月：秋

最初の生還 → 第2の人生

計画通りに進んだ9月14日の昼、2kmに広がる西壁氷河末端が、登攀ルートの南西壁側に崩落。その爆裂風に吹き飛ばされて3隊員死亡。吹き飛ばされた4名の内、なぜか私だけが生存者となった。その詳細は、右の著作とした。

マナスル3山 と キャラバンルート 概念図



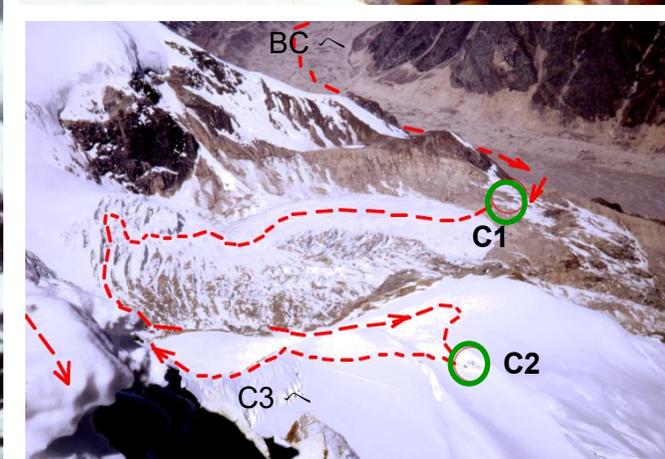
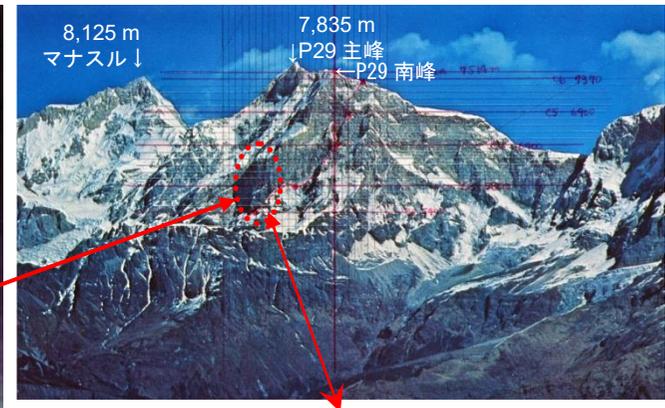
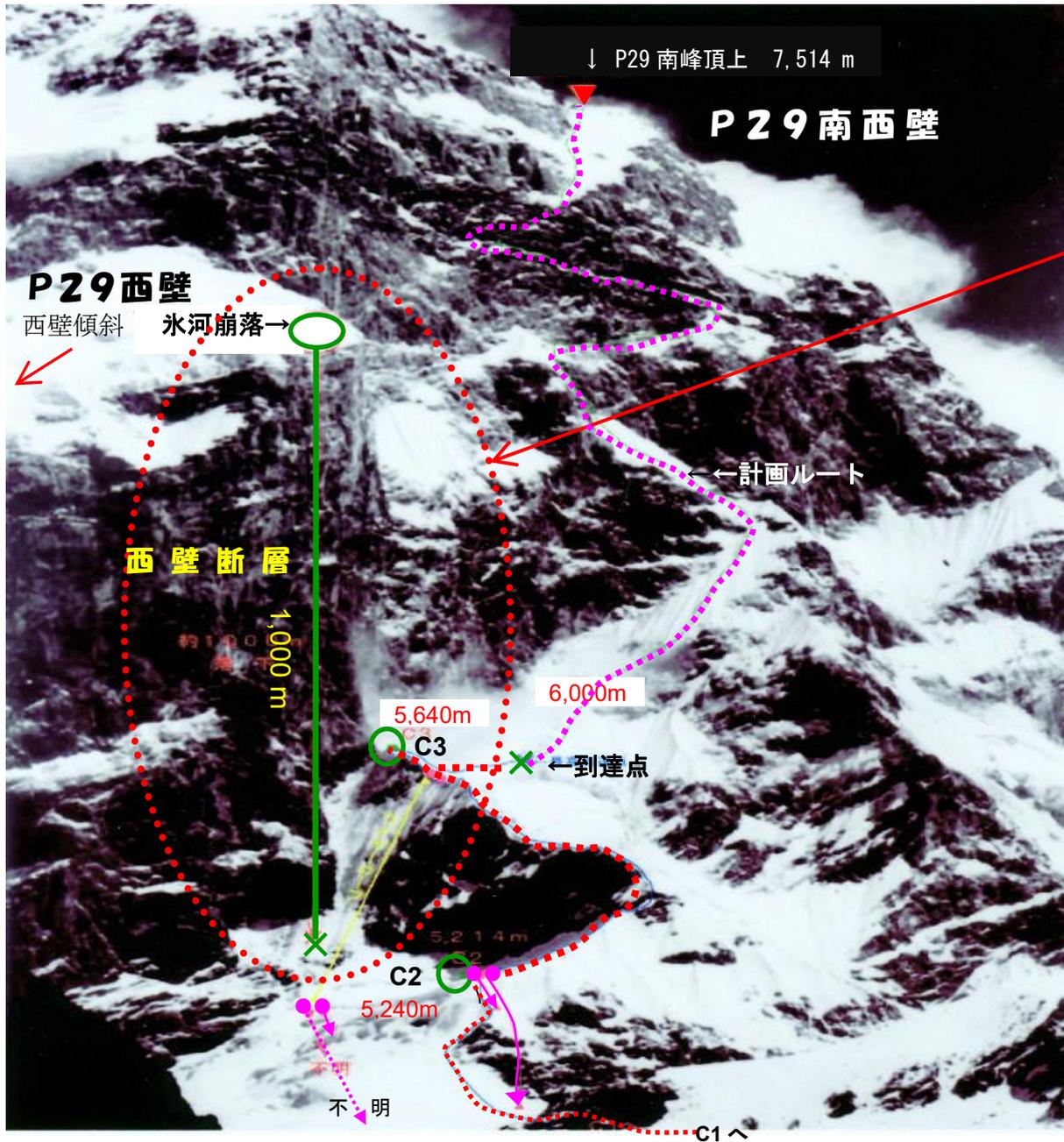
文芸社 2001年出版



日本文学館 2003年出版



ネパール政府：登山許可証



丹沢の不思議体験

(2度目の生還)

2025.10.10 記

2023年11月18日(土)

2年前となる、冬の冷たい偏西風が杉の植林帯を揺らし、茶色く針のように尖った杉の葉を頬に突き刺しながら舞い散る、烏尾根登り口。脊柱管狭窄症による下半身の痛みを鎮痛剤で抑え、五体不満足ながらもストック片手にバランスを図り、ゆっくりと植林帯から尾根道を登って行った。

烏尾山山頂を形成する斜面とのコル(鞍部)の手前に、石像(↓写真)がある。この石像の由緒は調べていないが、古代から丹沢山塊には中国「秦氏」末裔の足跡や、その後の修験道者の足跡などが残されている蓬萊山系である。



登りの呼吸が苦しく、幾度も立ち止まって休みながら、ようやく烏尾山頂へと辿り着く。
山頂から見下ろす西側には、仲尾根の先から富士山までが広がる。



烏尾山仲尾根の登・下降は 100 回以上に及び、もう数えていないが丹沢で一番好きなコースと、一番心安らぐ場所でもある。特に↓写真周辺の草原は、自称“エデンの園”と呼ぶにふさわしいパワースポット！



「エデンの園」を降り、↓写真の道標を左へと曲がる（← 方向）。 曲がらずに直進すると戸沢の枝沢に入り込むので、一般登山者にとっては危険コースとなる。

作治小屋の人達が、入り込まないようにロープを張ってある。道標は鹿にかじられ、すでにギザギザとなってしまった。左折してから直ぐに右折して、岩混じりの小尾根を降るのだが、右折しないでそのまま「新茅ノ沢」側面に至ると、「熊の住処」となっているので危険である。

この付近を通るとき、強烈な「獣臭」が漂うときは要注意！！「獣臭」がしなくても、口笛を吹いたり、歌を唄ったり、人の気配を感じさせながら歩くと・・・良い！



降る小尾根は岩屑の浮石が多いので、浮石に乗って滑らない注意が必要。

そんな岩屑の上に、右上写真の綺麗な幼虫を発見した。体長は5 cm くらい。

これまでの体験から“美しいものには毒がある”と用心し、写真撮影だけにする。



自宅に戻って調べてみたら「リンゴドクガ」だった。

【リンゴドクガ】

- チョウ目、ドクガ科、体長 36～60 mm
- 分布 : 北海道～九州
- 時期 : 成虫は4～8月、蛹（さなぎ）で越冬
- 幼虫 : クリ、クヌギ、コナラ、リンゴ、サクラ、ヤナギ等の広葉樹の葉を食べる
- 毒性 : なし

成虫は

次頁写真のよう・・・(ネット写真引用)
なんと可愛く、不思議な白装束の気配?!
飛び立つ前に身体を震わせ神秘的な様相 (次頁左側写真)



<白装束なリンゴドクガの成虫>

この日は、鳥尾尾根を登って仲尾根を下降し、作治小屋で休憩。この時期の日没は 16 : 30 頃なので、15 : 30 に作治小屋を発つ。

戸川林道を速足で降りた日没 30 分前の 16 時頃、「竜神の泉」を通り過ぎようとしたその時、「泉の水」を手酌ですくって飲む「女性」を見かけた。

その女性は上下“純白のブラウスとロングスカート姿”で幾度も手で水をすくって飲んでいる。少し離れた足元には、旅行用キャリーバッグが立てかけてあった。

その異様さに驚き、カメラを取り出す冷静さを欠いて、急ぎ通り過ぎた！！

「竜神の泉」から大倉バス停まではまだ 30 分ほどかかり、日没前に到着したいと急いでいたから、振り向きもせずを通り過ぎた。しかしその異様さは消しようも無く脳裏に刻まれた。土曜日の夕方なので車もたまに行き交っていたことから、その女性に何かあっても車を止めれば何とかなるだろう・・・と思い、心配はしなかった。

↓の写真は過日（2025.10.05）の写真だが、この下山路を辿って大倉バス停へ急ぐ。



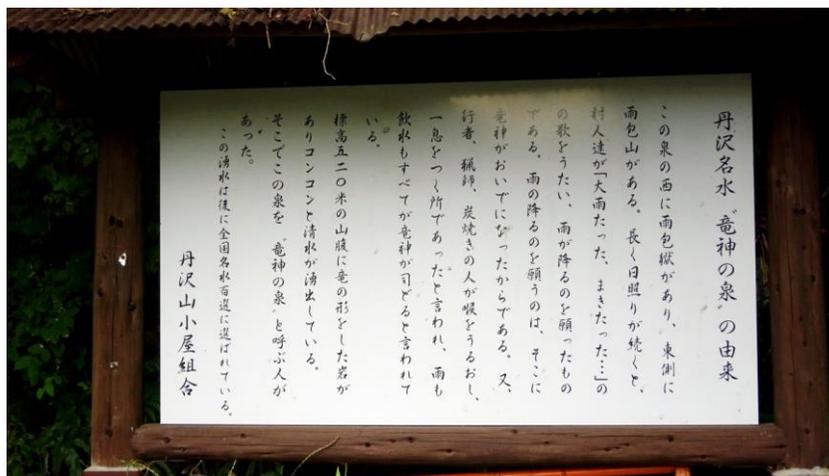
↑の写真は給水口の前に男性が立っているが、2023.11.18（土）午後 4 時過ぎ、（日没 30 分前）同じ位置で給水口に向かい、全身純白衣裳の女性が手酌で水を飲んでいた！！



↓写真 : 「竜神の泉」全景



↓写真 : 由緒書



2023年12月9日 (土)

ふたたび烏尾尾根を登り、仲尾根を下降した。仲尾根を下降しながら、フツと、「丹沢は丸 10 年間歩き続けてきた。18 歳から始めた山登りも、ちょうど 60 年が過ぎたので・・・もうこの辺でお終いにしようかな・・・!」、という気分が湧き立ち、満足感に包まれた!

仲尾根を降り作治小屋に立ち寄ると、小屋の津々木さんから「田中さん、ずいぶん疲れた顔をしているね!」、といわれてしまった。

2023年12月16日 (土)

大倉から戸川林道を作治小屋まで歩き、作治小屋に置いてあった写真や著作物を引き上げ、小屋の人達に別れを告げた。

下山は途中から「表丹沢林道」に入り、「牛首」から三ノ塔尾根末端を辿って大倉へ下山した。「ヒゴノ沢」を渡る橋の手前で烏尾山荘の三木さんに出会い、引き揚げてきた丹沢の写真版を三木さんへプレゼント・・・三木さんは大喜び。

そして年が明け・・・2024年1月以降・・・山を歩く意欲が途絶えた!!!

2024年5月17日 (金)

予約していたクリニックで腰痛検診を受けるため、銀行へお金を下ろしに行こうと電動アシスト自転車で自宅前の坂道を登り切った。平坦路に入り、胸の異常な痛みを察知。山登りの呼吸の苦しさとは異なった胸の痛み、咄嗟に「心筋梗塞」を予感した。

直ぐに自宅へ戻り、しばらく休んでいたら少し良くなる。しか

し再び立ち上がると痛みが舞い戻った。看護師資格を持つ妻がいたので、救急車を呼んでもらい、聖マリアンナ医科大学横浜西部病院へと救急搬送。

「左冠動脈心筋梗塞」(ステージ3)・・・カテーテルによるステント挿入治療。

ICU→1日、HCU→2日間、一般病棟→5日間をすごし、退院。
一命をとりとめた!!!

2度目の生還 → 第3の人生

烏尾山登りで息苦しかった原因は、上記動脈血流不足であったと考えると納得がいく。

もしこのまま無理を推して山を歩き続けていたなら・・・どこか山中で心筋梗塞を発症し、即座に絶命していた可能性が高かった。

そう考えると、**竜神の泉**で出会った「**純白衣裳の女性は竜神様の化身**」だったのか・・・と思えてならない。**竜神様は自然との調和・祈りの姿勢・清浄な心・感謝と祈りの神様!**

さらに同じ日、仲尾根で出会った「**リンゴドクガの幼虫**」も名前に似合わず、後からその成虫の姿を確認したら・・・やはり「**竜神様の化身**」のように見えてくる。

私は生来、無宗教・無神論者であり、科学的思考・理解で生きてきた。**量子物理学**が解明した「**宇宙で物質**」を成す全エネルギーは、**宇宙全体エネルギー**のたった**4.9%**でしかないことを知ると、人間科学で解明できない自然現象の方が多くも知れる。**暗黒物質と暗黒エネルギー**は**95.1%**とされ、人間が観測し、予知・予見・設計できない宇宙の森羅万象は無限。人間科学の限界と、**未知を察知する人間感性**の体験となった。

2025年10月5日 (日)

丹沢復帰の第一歩に、まずは「**竜神の泉**」へお礼参りした!

右脚人工股関節置換手術

25歳の正月合宿準備で腰痛(ギックリ腰)を発症以来、腰痛とは長い、長い付き合いをしてきた。それでも前記正月合宿では前穂高岳屏風岩中央カンテ岩溝ルートを2ビバークで完登した。

28歳から、ヒマラヤ岩壁ルート(P29南西壁・7815m)にも挑戦してきたが、腰痛は上手く乗り越えてきた。

68歳で会社をたたみ、自由の身となって丹沢へ復帰したが、電車やバスに坐ってしまうと、立ったときに腰痛がひどくなり、空席の前でも立ったまま乗車していた。

さらに膝関節痛が加わり、丹沢復帰初回の三ノ塔尾根も登り切れず、途中から下山した。

そんなある日、歯痛で飲んだ鎮痛剤が腰痛や膝関節痛を抑えてくれることを体験した。

そこで歯科医師に鎮痛剤を処方していただき、丹沢山行の度に、一日**3錠**を限度として服用し、丹沢を歩き回ることができた。

しかし**3年**も続けていると効果が薄まり、ようやく整形外科のドアを開いて診てもらった。レントゲン診断の結果、脊柱管狭窄症、股関節摩耗であり、①手術、②強力薬剤治療、③痛みと共生、の選択となった。

②を選択し、第一段階の一週間に治療薬を飲んでみたが自律神経がおかしくなり、第一段階で中止した。

その後は③の痛みと共生しながら、なんとか丹沢を歩き回っていたが、巻頭の「**丹沢不思議体験**」から丹沢歩きを中止。あわせて整形外科を再診してみると、両足股関節の摩耗が激しい。特に右足は末期症状にあり、人工股関節置換手術しかないと診断。

2025年2月18日、国際親善総合病院にて手術。

結果は大変良好で、何の違和感も無く定着。しかし脊柱管狭窄症はそのままであるため、両足腰のシビレや痛みは継続中にある。

朝晩のストレッチや夜間ウォーキングなど継続しているが、最大の障害は、椅子に座り続ける**PC作業**。これは止められない!

丹沢山系の超古代物語

「富士山」は日本一の高さ（3,776m）の独立峰火山。↓



「スメル山」(3,676m) はインドネシア、ジャワ島にあり、姿は富士山と似た独立峰火山。↓



スメル山は古代インドで世界の中心に聳える聖山とされたスメル山（須弥山）に由来しているとされるが、シュメールからスメルへと言葉の転訛をふまえると、ウバイド人、シュメール人の民族移動にともなう文明転訛の結果とも考えられる。

「富士山」の位置は右上図からわかるように、4大陸プレート（ユーラシアプレート、フィリピン海プレート、太平洋プレート、北米プレート）の習合点＝相模トラフの西端に位置する。

この地形から、日本列島最高標高となる富士山頂の天空に、天祖の神々が住む古代神話が語り継がれたことはごく自然な成り行きで、何ら不思議でない。



（日本列島で4大陸が習合・・・そこに富士山が聳える）

「富士山＝不二山」は二つとない唯一の山という意味を帯び、山上に天祖の神々が住まい、ここから世界へと降臨する「不二山神話」が語られたことは、自然である。

「スメル山」はウオレス線（Wallace Line：氷河期の海面低下において、ユーラシア大陸側スンダランドと、オーストララリア大陸側サフルランドを分かち地理的境界）の境界に聳え、世界の中心たるインドの聖山崇拝に由来すれば、この山容を神とする信仰心は自然に芽生えても不思議でない。

それに加えて、「スメル山」の「スメル」は、ウバイド、シュメール（スメル）から発して世界へと広がった、スメル文明の痕跡からも理解できる。

ウバイド⇒シュメール⇒メソポタミア⇒古代イスラエル⇒ユダヤ教⇒キリスト教・イスラム教へと派生する中で、イスラエルとユダヤのシンボルマークが、 $\Delta + \nabla = \star$ ⇒ **ピラミッド** ⇒ **富士山容** ⇒ **スメル山容** へと、類推は繋がる。

世界の基軸通貨となった**ドル紙幣**に印されている↓図の形が表す意味も想像できる。

つまり、天上から現世を見下ろす「**神の目線**」意識であり、世界唯一神を自負する民族意識の象徴的形態（シンボル）ともいえよう。



(ドル紙幣のシンボルマーク)

このように、“神話や伝承”が伝える様々な意味は、**解説者のリテラシー**（解説力）によって多種多様となり、それぞれにとって都合良く**解釈**して“**物語る**”ことができる。

不二阿祖山（富士山）高天原神話

もうこれ以上はない日本根本の秘密 『世界最古 不二阿祖山太神宮』渡邊聖主：著。

著者の**渡邊聖主氏**は不二阿祖山太神宮大宮司であるが、第 52 代・嵯峨天皇の血脈とも記される。

不二阿祖山太神宮・宮司には、「宮下家」か「**渡邊家**」が成るとも記されている。

この著書の記述は、伝承を言語に置き換えた口語文体調となり、「日本語文体＝主語＋述語」形式からみると**主語が抜け落ち**、

論理的に不明確な記述となっている。

しかし古神道概念を理解した読者が読めば、論旨の概要は理解できるので参考となる。

この著書（物語）の**論旨**を以下に挙げてみた。



① ；

太平洋上にあった「**ムー大陸**」は 15,000～13,000 年前に突如陥没し、陸に上がって山に止まった人たちは都をつくり、「**山止**」（ヤマト）⇒「**山都**」（ヤマト）という**和の世界**（大和の国）をつくった。「**無**」から生まれた「**ムー**」は「**母**」を意味する。父は「**エデ**」といい、父の国となる日本は「**エデンの園**」とされている。

② ；

山都（ヤマト）とは「**富士山高天原**」であり、自然を神とする「**唯一神**」＝**宇宙神**＝**元主一神**（トスヅマリカミ）＝「**元旦神**」が山の上に坐した。

山は一座、二座、三座と呼ぶように、「**座＝おわす**」の意味があり、この山は二つとない「**唯一の山**＝**不二**」といい、「**富士山**」を指す。そこに坐する神の名は「**二つとない神**＝**不二太神**」と言い、**富士山**は「**天祖の山**」となる。

そして、富士高天原から九州・高千穂に天孫が降臨する「**おとぎ話**」となる。「**おとぎ話**」という意味は「**王解き話**」として、「**王家の戦い、王家の謎を解く話**」という。

③ ；

天祖の山＝**富士山高天原**から、**ユーラシア大陸原初の神**となる**天祖「伏羲」**（フクギ）が山海夫人とともに大中原に降臨し、「**炎帝神農**」（エンテイシンノウ＝農作比古尊）が産まれた。

炎帝神農は山海夫人を妻として7男・9女産む。長男は中原を治め、2男は東州（東国＝朝鮮方向）を治め、3男は南州（ベトナム方面）を治め、4男は西州（チベット・ヒマラヤ方面）を治め、5男は蓬萊山（富士山）を目指し農立比古尊（国常立尊）となる。6男は北州（モンゴル方面）、7男は戻らぬ5男を追い蓬萊山を目指し農佐比古尊（国狭槌尊）となる。

蓬萊山（富士山）へと戻った農立比古尊（国常立尊）の娘＝伊弉冉尊（イザナミノミコト）と、農佐比古尊（国狭槌尊）の息子＝伊弉諾尊（イザナギノミコト）の子が「天照大神」（アマテラスオオミカミ）となり、天孫＝天皇家の始祖であるとともに不二阿祖山太神宮を創建した、とされる。

④ ；

他方、大陸大中原に降臨した「天祖＝伏羲」の子孫はBC7,000年の頃チベットから崑崙（コンロン）、巨丹（コタン）へと下り、蘇民（スメ）に住まい「崑崙族」（コンロンゾク）となる。

崑崙族は稲作文明をもち、米作であったことから「閩蔑族」（コウメイゾク）と名乗り、BC5,500年頃にパミール高原を越えてベンガル湾へ至り、先住のウバイド人と交雑する。さらにウル地方へ移動し、シュメール人となる。

シュメールの地には北方の牧畜民族も住んでおり、農業・漁労・牧畜の定住生活。BC3,500年頃にウルクへと移動し、人類最初の文明＝メソポタミア文明が華ひらく。

現代文明の始源とされるメソポタミア文明では楔形（クサビガタ）文字が残され、その科学的思考（60進法等）や文化的素養（神話＝ギルガメッシュ叙事詩等）が民族異動にともなって世界へと広がった。

その子孫から「古代イスラエルの民」が派生し、その「ユダヤ教」から「キリスト教」と「イスラム教」が派生した。これらの一神教は世界宗教へと拡大されるが、一神教ゆえの兄弟喧嘩は現在も続き、“世界紛争の根源”となっている。しかしその発祥の祖は「不二太神」であるとする、不二阿祖山太神宮・宮司の主張。

「シュメール」は「スメル」へと転訛され、「スメル」⇒統べる⇒統治する⇒皇族（スメラゾク）⇒「天皇」（スメラミコト）、へと転訛されたとする。

この神話により、天祖発祥は「不二高天原」となり、世界各地にあるピラミッド（△）は日本から行ったとするが・・・ここまで至ると、現代的理解からは疑問が生じてくる。

⑤ ；

この書には「天皇アラブ渡來說」も書かれている。

1万年前、不二阿祖山にいた「神＝人」はチベット、揚子江方面へ降臨した。そして9,000年前、メソポタミア方面へと移動し、やがてシュメール人となって世界文明の祖となるメソポタミア文明を築いた。

さらに6,000年前、「天皇」はアラブ（シュメール）から日本へと戻ってきた、という説を述べる。その根拠として、“DNAハプログループY染色体D型が多いのは、日本、チベット、アイヌであり、ユダヤ人種・古代イスラエル人もD型が多く、身体的形質は日本人に似ている”、としている。

< 私の推考 >

前記①～⑤を踏まえると、拙著『日本文明物語&哲学』において付図とした「古代＝文明・文化の世界展開」に示したよう、民族移動ルート、文明・文化変遷、DNA痕跡等からして、「不二阿祖山高天原神話」から発して世界を経由し、日本列島へと帰着する「ワンワールド物語」は“あながち絵空事でなくなる”。

さりとして科学的実証はできないが、“日本人の特異性を理解するのに役立つ”。それらは人類習合の成果として、「日本国憲法」の二重規範に反映されている・・・①「独立国家憲法」たる文明の相（各条文）②「人類憲法」たる文化の相（前文の思想）・・・と推考できるのである。

では・・・丹沢山系は

富士山、日の出方向（東面）に広がる丹沢山系は、秦の「徐福」伝承では「蓬萊山」とみなされていた。

秦の「始皇帝」から「不老長寿の薬草を探す命」を受けた秦の「徐福」（生没不明）は、童男・童女・100 工人を率いて BC219 年（第 7 代孝靈天皇時代）に九州佐賀地方に渡来してきたとされる。

（佐賀市・徐福長寿館・薬用植物園＝今年が開館 30 周年）以来日本列島を縦断しながら、古代日本文明に多大な影響を及ぼした。

最も顕著に足跡が残るのは京都「太秦」（うずまさ）である。後年（AD603 年）、聖徳太子から賜った仏像（弥勒菩薩）を本尊として、秦河勝が建立した「広隆寺」は真言宗系単立寺院である。近代は東映太秦映画村となり、日本の「ハリウッド」と呼ばれる。

「徐福」は、富士山・日の出方向に広がる丹沢山系を「蓬萊山」とみなし、“不老長寿の薬草を求めた”とされるが、始皇帝は BC210 年に死没してしまったことから徐福たちは帰国せずに富士山麓に住みついて終焉を迎えた。

「徐福」は、富士山にまつわる“超古代富士王朝神話”（不二阿祖山高天原神話）を『徐福伝』として残したとされている。

その富士山麓（富士吉田～忍野）には 4 世紀初め、第 15 代応神天皇第 2 皇子＝大山守皇子が辿り着いた。大山守皇子は皇位継承の兄弟争いに敗れ、死没したとされる。しかし生き延びて富士山麓にたどり着き、「不二阿祖山太神宮」宮司の娘と一緒に、「神宮の下」に住み着いたところから「宮下」を名乗る。そしてこの地で古史古伝を研鑽し、その他を含めて書き残したのが『宮下文書』とされる。



<宮下文書>

さらに大正 10 年、三輪義熙は『宮下文書』のダイジェスト版を『神皇紀』としてまとめ、上程する。「神皇紀」は天の神格＝農作比古尊（高御産巢日神）を始祖とする、「天祖降臨＝天神 7 代」（① 農立比古尊＝国常立命、② 農佐比古尊＝国狭槌命、③ 農斟淳尊、④ 湍土煮尊、⑤ 大戸道尊、⑥ 面足尊、⑦ 伊弉諾尊）、「天孫降臨＝地神 5 代」（①天照御大神、②天之忍穗耳尊、③瓊瓊杵尊、④日子火火出見尊、⑤鵜茅葺不合尊）が織りなす「不二阿祖山高天原神話」である。

第 15 代応神天皇の立太子は第 6 皇子＝菟道稚郎子命（ウジノワキイラッコ）であったが、第 2 皇子＝大山守命（オオヤマモリ）が皇位継承の争いを起こした。第 4 皇子＝大鷦鷯命（オオサザキ）と第 6 皇子＝菟道稚郎子命が手を結び、第 2 皇子＝大山守命を滅ぼしたとされる。大山守皇子は死去したとされるが生き延びて、富士山麓へと至る。立太子だった菟道稚郎子皇子は長兄の大鷦鷯皇子に皇位を謙譲し、第 4 皇子＝大鷦鷯皇子は第 16 代仁徳天皇となる。立太子でありながら、長兄に皇位を謙譲した菟道稚郎子皇子は自害したとされる。“謙譲の美德”と称され、菟道稚郎子皇子は仁徳天皇によって京都・宇治神社に祀られる。



<前鳥神社ものがたり>

しかし伝承では京を出奔し、海路を蝦夷に向かう途上で相模湾に着岸。丹沢山系塔ノ岳を源頭とする水無川→金目川→花水川河口に上陸。陸路を北上するが相模川に行く手を阻まれ、川岸の「崎取」（さきとり）の地が終焉地となる。祀られたのが相模國第四之宮「崎（碕）取神社」、現在の四之宮「前鳥神社」。葬られたのが「真土大塚山古墳」とする伝承。

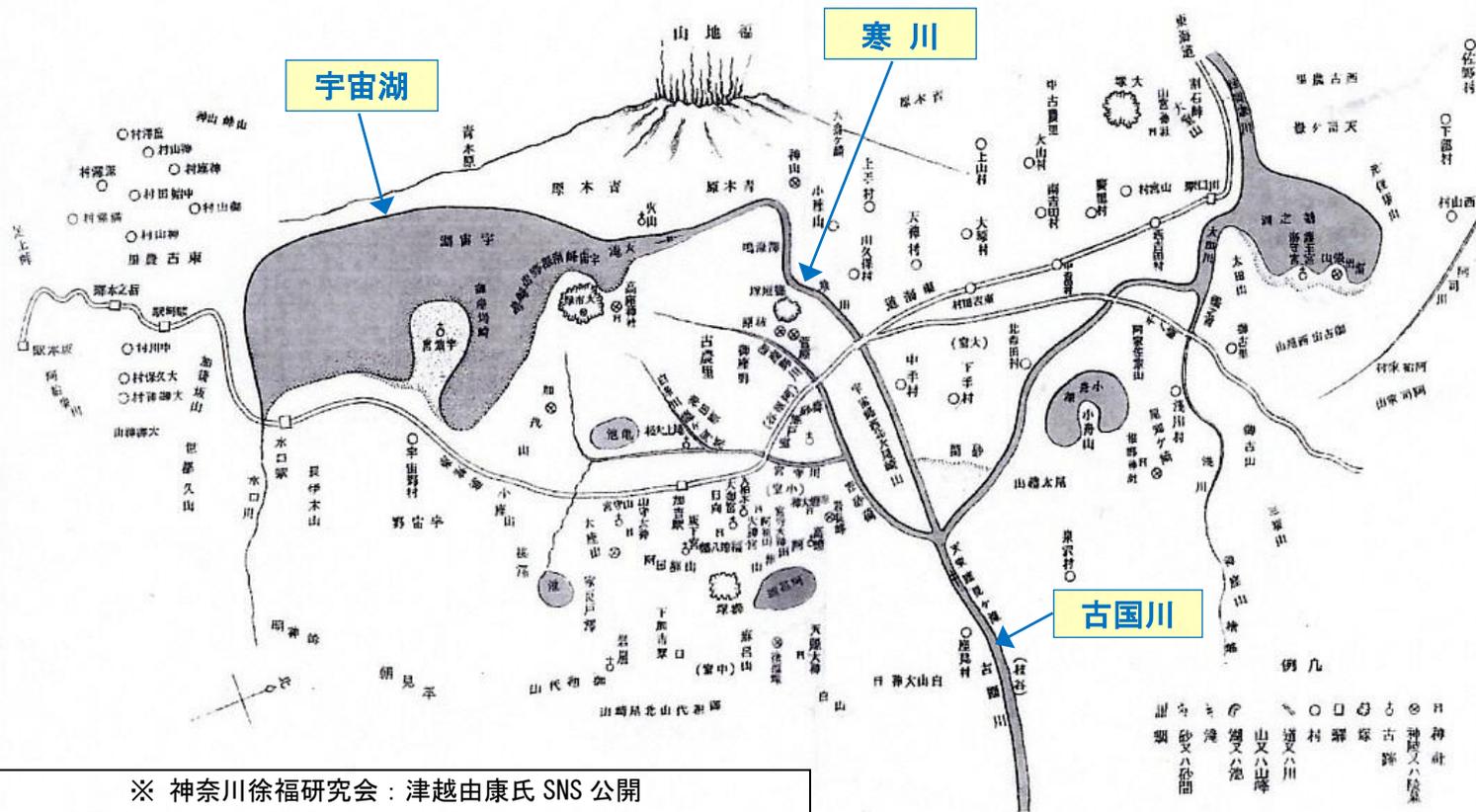
相模川を挟み、「前鳥神社」の対岸にあるのが相模國第一之宮「寒川神社」。

これらの伝承を記録しているのが『前鳥神社ものがたり』。

「寒川」という名は超古代、富士山北東面の水が集まった「宇宙湖」から流れ出る最初の川の名前とされ、『神皇紀』に記されているという。(下図参照↓)

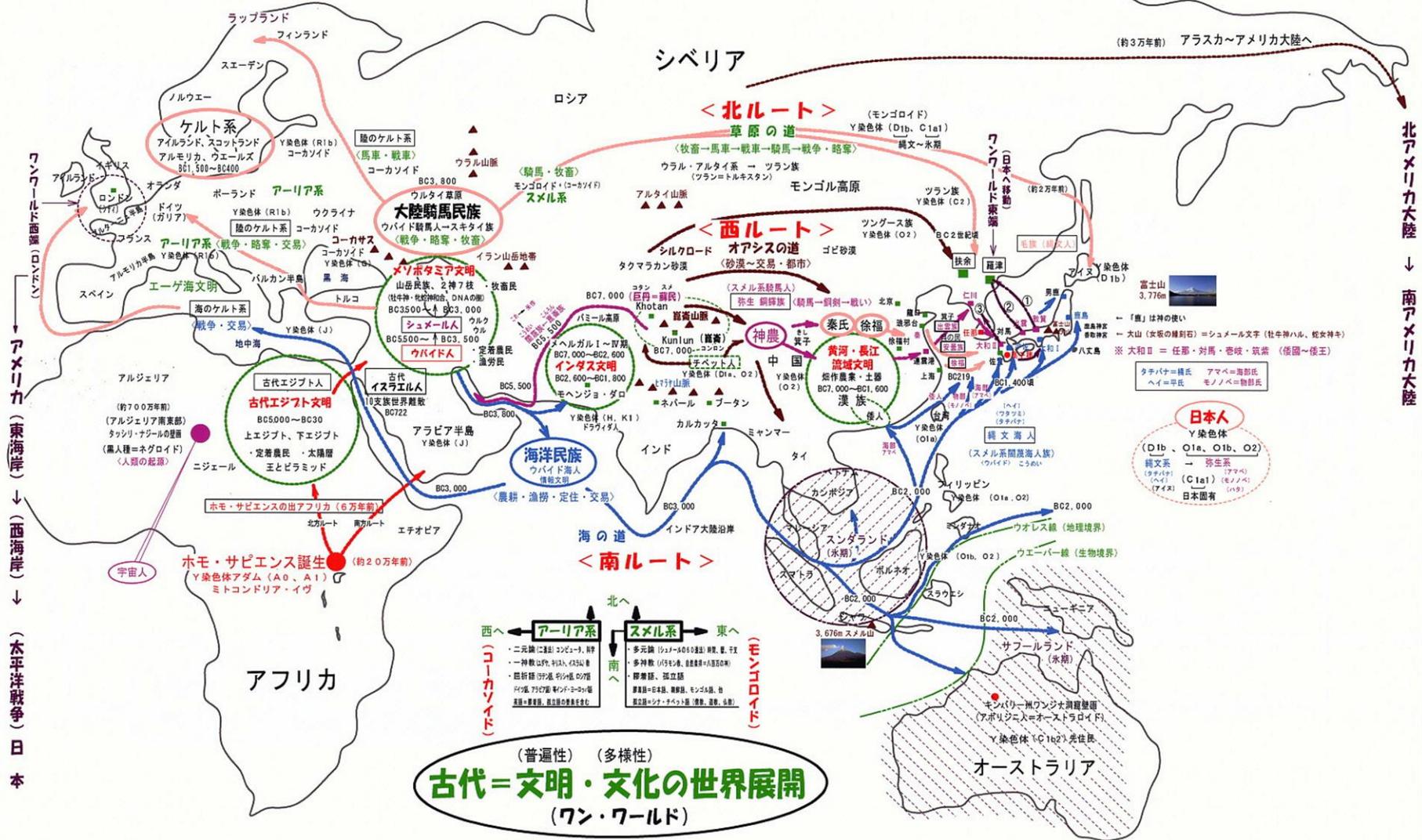
古代、富士山 北東面の水は→ (宇宙湖 → 寒川 → 古国川)
 → 桂川 → 相模川
 現在、富士山 北東面の水は→ 山中湖 → (忍野→富士吉田)
 → 桂川 → 相模川

延暦大噴火前高天原実景古図



※ 神奈川徐福研究会：津越由康氏 SNS 公開
 2017. 10. 18 「神皇紀に記されている寒川神社について」より
 複写・追記加工

延暦大噴火前高天原実景古図 p 330

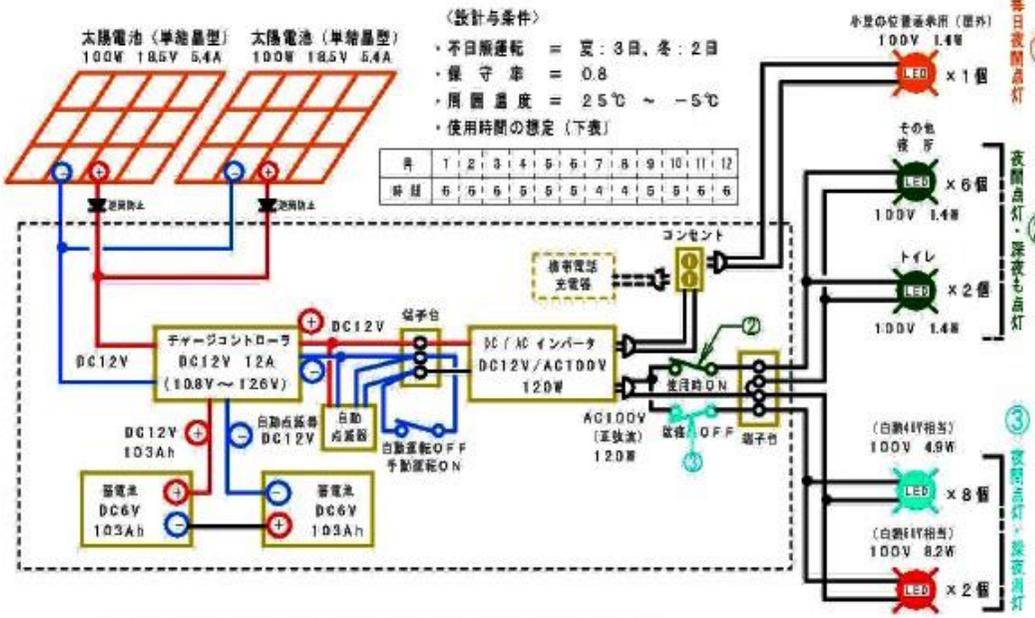


作治小屋 太陽光発電照明

2017年6月設置

18歳で就職して丸1年間、高校の先輩に連れられて毎週末に丹沢の沢を登った。「作治小屋」の前は幾度も通ったが、全てスルー！モミソの懸垂岩で屯す習慣だった。そして社会人山岳会へ入り、丹沢から離れて八ヶ岳、谷川岳ノ倉沢、穂高、剣岳、等々・・・日本の主要な岩壁を登った。プロローグに記したよう、日本の岩場からヒマラヤの未踏岩壁登攀に挑み、子育て前には夫婦でスイスアルプスのマッターホルンやアイガーを登ってきた。そのようなアルピニズム登山にあって「山小屋」利用をすることは無く、常にロープと衣食住（ツェルト、食料、コンロ・携帯燃料）を背負うのが習慣になっていた。

68歳で会社をたたみ、自由の身となって再び丹沢に戻ったが、「作治小屋」の前を通っても習慣でスルーしていた。そんなある日、作治小屋の津々木さんから「中に入ってお茶でも飲んでってよ！」と強く勧められ、何となく小屋に入ってみた。そして相談されたのが・・・エンジン発電機は始動が大変で、太陽光発電にしたい・・・とのこと。「太陽光発電」は、電気設備設計を専門とする私の仕事の一部でもあり、太陽光発電が山小屋に最適なことはすでに10年前、日本山岳文化学会で論文発表をしてきた。津々木さんを除く小屋の人達は反対はしなかったが、小屋に金銭負担をかけないで直ぐに実施した！！



作治小屋 太陽光発電装置電気系統図

「建築士法」において、高度に専門分化された現代は「建築設備士」なる国家資格が創設され、昭和61年に第1回国家試験が実施された。建築設計は大きく分けて、① 建築意匠、② 建築構造、③ 給排水衛生設備、④ 空調換気設備、⑤ 電気設備、⑥ 昇降機設備に分かれる。③～⑥までは「建築設備」と呼ばれる。現在は「設備設計一級建築士」が分化し、建築設備士試験は易しくなった。創設第1回試験で私は受験番号2番、1番が落ちたので合格発表の先頭に名前があった！

太陽電池容量の計算

名称	種類	消費電力	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
夜間点灯(LED)	[W]	4.9	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4.5
深夜も点灯(LED)	[W]	8.2	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	4.5
作業表示(LED)	[W]	1.4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.1
合計	[W]	14.5	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	10.1
一日必要容量	[Wh]	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	20.4
1ヶ月必要容量	[kWh]	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	20.4
1年必要容量	[kWh]	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	14.5	20.4

- ### 蓄電池容量の計算
- 作治小屋 蓄電池容量計算(25℃)
- ① 小屋表示灯
毎日夜間に自動点灯
未明に自動消灯
 - ② 夜間点灯・深夜も点灯
使用日の夜間に手動点灯
未明に自動消灯
 - ③ 夜間点灯・深夜に消灯
使用日の夜間に手動点灯
消灯時刻に手動消灯
 - ④ 小屋の退出時
②③スイッチを「切」にして帰る

名称	消費電力	1ヶ月	年計
T 蓄電池容量	[Wh]	14.5	20.4
T1 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T2 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T3 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T4 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T5 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T6 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T7 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T8 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T9 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T10 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T11 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T12 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T13 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T14 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T15 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T16 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T17 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T18 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T19 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T20 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T21 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T22 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T23 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T24 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T25 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T26 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T27 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T28 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T29 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T30 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T31 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T32 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T33 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T34 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T35 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T36 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T37 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T38 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T39 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T40 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T41 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T42 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T43 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T44 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T45 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T46 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T47 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T48 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T49 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4
T50 1ヶ月必要容量(25℃) (1ヶ月平均)	[Wh]	14.5	20.4

作治小屋太陽光発電照明設置完工 2017. 06. 25



太陽電池 (100W×2連)



完工後 協力者の昼食会

太陽光発電照明設置完工

完工年月 = 2017. 6. 25

作治小屋 = 荒木 英樹

津々木良助

松下 清

高橋八千代

協力者 = 岩桶 岳一

(岩桶電設㈱ 代表取締役)

長坂 太郎

吉原 京子

設計製作者 = 田中 文夫

(建築設備士、JABNICE SENIOR第1回認定)

材料原価 = 約15万円

施工原価 = ボランティア



制御装置 (手製)
出力=AC100V 120W
光センサーによる自動運転



上=制御装置
下=蓄電池
蓄電池=DC6V×2直列=DC12V
103[AH/24h]



台所LED=8.2W



団欒コーナーLED=8.2W



1階就寝室LED=4.9W(写真)
出入口壁=深夜残置灯LED=1.4W(写っていない)



屋外パベキューコーナーLED=4.9W×2灯



左=団欒コーナーLED=8.2W
右=深夜残置灯LED=1.4W



左=団欒コーナー深夜残置LED=1.4W
右=団欒コーナー奥LED=4.9W



手前=1階展示室LED=4.9W
奥=深夜残置灯LED=1.4W

LEDランプに「虫」が寄り付かない原理

虫が感知する光の周波数帯 (右図 - - - -)

LED 電球発光周波数帯 (スペクトル)

白色 LED 周波数帯 (右図 — — — —)

電球色 LED 周波数帯 (右図 — — — —)

双方の周波数帯域がズれているため、
虫はLED光を感知しないのでランプに寄り付きにくい

※人間の目が感知する光の周波数帯 (右図 - - - -)

作治小屋が白熱電球の頃
↓写真の「オオミズアオ」はたくさん来たそうだ！
LED 電球に替えたら、来なくなったという！
(津々木さん：談)



オオミズアオ (大水青)

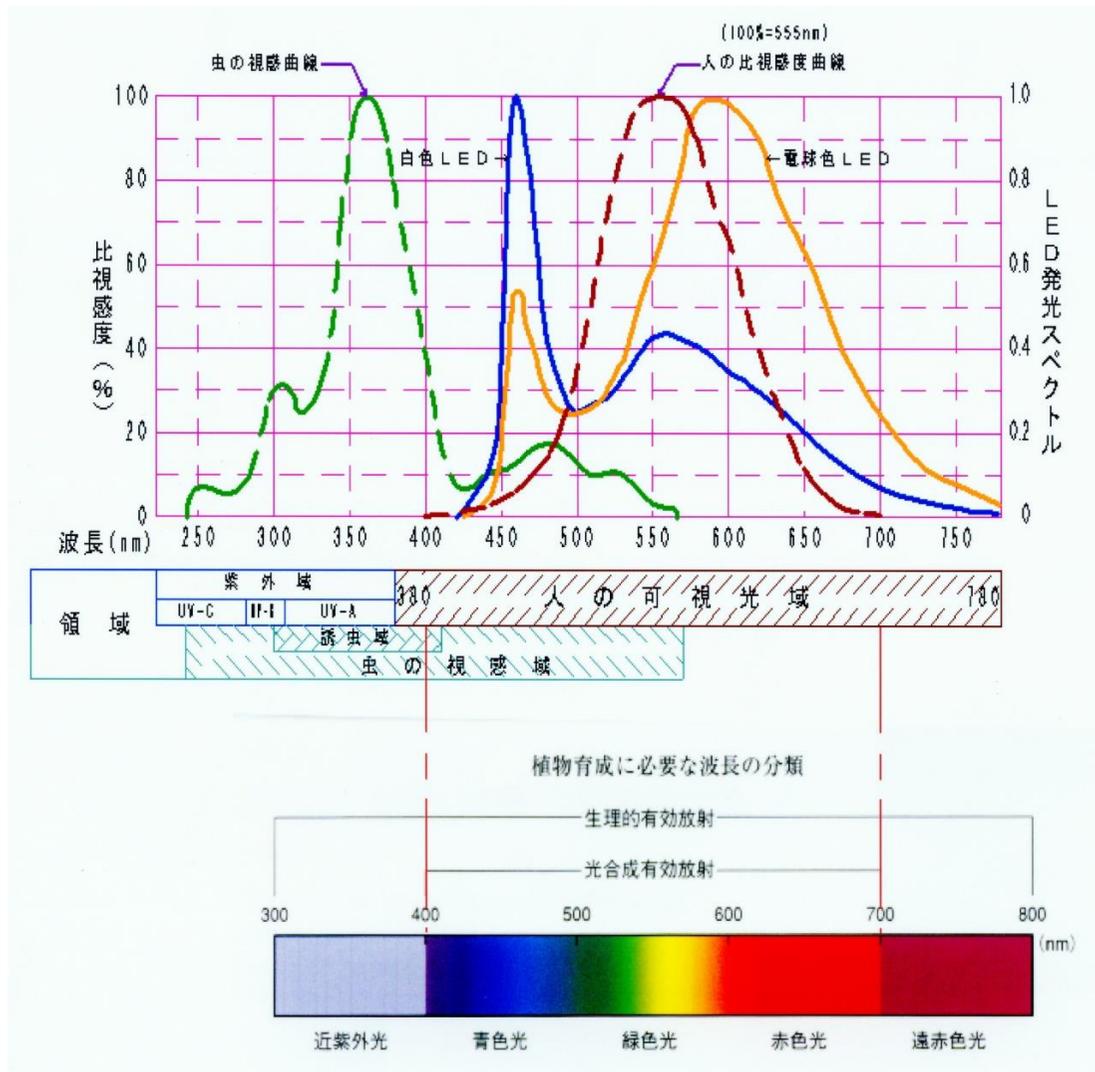
源次郎沢出合 2023.5.5

チョウ目、ヤマムギガ、絶滅危惧種Ⅱ類

学名：アクチュアス・アリエナ (Actias aliena)

別名：ユウガオビョウタン (夕顔瓢箪)

・幸運をもたらす蛾 ・月の女神の使者



日本山岳文化学会の設立は2003年3月8日、東京都内市ヶ谷にある「アルカディア」で創立総会がおこなわれた。

その会場に、私は遅刻となって参加した。すでに会場は満席で、初代会長となられた斎藤一男さんが趣旨説明の講演をされている中だった。

空席は最前列に1席あるのみ。しかたなくその席に座ったが、その席が講演中の斎藤会長の席であったことが知れたのは、講演を終えて斎藤会長が戻られた時。

その時斎藤会長とは初対面だったが、斎藤会長最初の一言は「また、あのような論文を書いて下さい！」と笑顔で話しかけられ、別な席へと移動された。

「あのような論文」とは、1973年9月に発行された『山岳展望 第17号』に私が発表していた「社団法人 日本山岳協会への批判」である。そもそもこの山岳同人誌『山岳展望』発行の主体として「山岳展望の会」を発足させたのは1963年、斎藤一男さんや安川茂雄さんらであり、第12号発行となる1968年において、若手編集スタッフへと切り替わった時節であった。

その若手スタッフの中心でまとめていたのが昭和山岳会・岩崎元郎さんだった。岩崎さんは斎藤さん経営の「岩峰社」という印刷所に就業していた関係からであろう。

岩崎さんと私は、1967年12月29日～1968年1月14日に及ぶ東京都岳連傘下有志でおこなった「韓国遠征登攀」を一緒に、意気投合していた時節であり、岩崎さんの誘いで私も編集スタッフに加わった経緯があった。

その他の編集スタッフには、佐内順さん（グループ・ド・ボエーム）、佐々木誉実さん（東京電力山の会）、柏瀬裕之さん、遠藤甲太さん、杉山美裕さん（横浜蝸牛山岳会）らがあり、新宿駅ガード下のチュー

ハイ屋さんが編集会議場であった。（私だけがウーロン茶）

「社団法人 日本山岳協会への批判」は、登山におけるアマ・プロ問題の扱いを主題として、日本山岳協会を批判した論文である。

当時のヒマラヤ登山において、日本の統括主務組織としての日本山岳協会が推薦状発行をおこなっていた。その推薦基準の一つに、「アマチュア規程」があった。

当代に発足した「社団法人 アルパインガイド協会」会員はプロフェッショナル（プロ）とされ、プロが隊長となるヒマラヤ登山隊へは日山協の推薦状を交付できない・・・とされた扱いがあった。

しかしこの日山協の拡大解釈は憲法違反であり、むしろ未踏なヒマラヤに挑む登山者こそは、心技体においてプロフェッショナルであるべきだ・・・とする批判論旨であった。

さらにこの考えは『登山の生態分類（学）』としてまとめ、2016年に冊子製本して、現在も国立国会図書館で公開されている。

1973年に発表した「日本山岳協会への批判」は全く反響がなかった。しかしある岳友（朝霧山岳会）から、「読んでも人は、読んでもヨ！」という手紙をいただいた。

まさに30年後・・・2003年、日本山岳文化学会創立総会での斎藤会長からの「また、あのような論文を書いて下さい！」は、確かに読んで下さった方がいたことの証明であった。

しかも斎藤会長は、日本山岳協会第7代会長（1991～1995）を歴任され後で、「山と文化」にこだわり「日本山岳文化学会」を立ち上げられた方でもあった。（第9代会長＝田中文男氏は別人で間違われる）

「社団法人 日本山岳協会」は、2度目の東京オリンピックへ参加するために「公益社団法人 日本山岳・スポーツライミング協会」へと組織替えしたが、「登山と山岳スポーツは一線を画する」とした論旨は、『登山の生態分類（学）』で詳述してある。

「日本山岳文化学会」創立における役員編成で、斎藤会長から「理事」への就任要請をいただいた。当時の私は残業・徹夜で設計業務が忙しく、とても理事は務まらないがゆえに「評議員」としていただいた。（代わりに、元社員であった鈴木弘子さんが理事となった）

そして最初の役員会でお目にかかったのが、中村純二先生であった。中村先生は私たちのヒマラヤ遭難事故をご存じの様子で、「あの田中さんですか！」の一言で、全てを受け入れて下さったように思え、2020年にご逝去されるまで、親しくご指導いただける幸運に巡り会うこととなった。

中村先生は、東京大学名誉教授、宇宙光学博士、第1次～3次南極観測隊員（オーロラ担当）、東京大学スキー山岳部長、日本山岳会副会長、日本山岳文化学会理事、等々を歴任され、2020年10月、97歳でご逝去された。

2014年2月19日、雪の日本庭園「おおすみ山居」に↓写真の通り、日本山岳文化学会会員が集った。唯一の非会員は私の次男で（前列向かって左）中村先生のご自宅車送迎を担当してくれた。



以来、以下の通り中村先生ご夫妻を中心に、「丹沢山麓山岳文化講座」を繰り広げ、南極からヒマラヤまで存分にお話しいただくことができた。

そして ⑩ は、中村先生生涯最後のご講演となった。

①	2014.02.19	雪の日本庭園「おおすみ山居」集会
②	2014.11.05	紅葉の「おおすみ山居」集会
③	2015.04.11	「幻のほうおう座流星群観測余話と南極オーロラ観測」講演会
④	2015.11.04	「ポルトガル紀行」講演会
⑤	2016.04.09	「チャラクサ氷河探索の旅」講演会
⑥	2016.11.02～03	「北海道の山・今昔」講演会
⑦	2017.07.22～23	「中村先生を囲む会」LED照明設置祝い
⑧	2017.04.01	「第1～3次南極観測と丹沢」講演会
⑨	2018.04.07～08	「山岳文化講座 in 作治小屋-1」講演会
⑩	2018.10.20～21	「山岳文化講座 in 作治小屋-2」講演会

上記の詳細は A5 版 3 冊とし 2018 年国立国会図書館蔵書にて公開中
書誌 ID : 029361640 、029361651 、029361661

※共同著者＝中村純二、中村あや、岩楯岳一、岩楯志帆、田中文夫

さらに 2021 年 4 月、1 冊にまとめた自費出版冊子製本 50 部作成。

- ・関係各位へ無償配布。
- ・秦野戸川公園パークセンター図書コーナーにて閲覧可能。



雪見の抹茶と生菓子



A5 版、534 頁 カラー印刷

秦野戸川公園 20周年記念 特別講演会

主催：日本山岳文化学会有志

2017年4月1日

2017年4月1日（土）、天候を読み違えた3月末の寒波に、まだ蕾のチューリップ畑と、枯れ木のようなソメイヨシノの秦野戸川公園、開園20周年記念特別講演会にご参集いただき、誠にありがとうございました。

小雨まじりの中、出足に躊躇された方も多かったのではと思われませんが、やがて熱気を感じず視聴の雰囲気にも包まれ、①登山と山岳スポーツのちがい（田中文夫）、②スカイランニング世界選手権報告（岩楯夫妻）、③第1次～第3次南極観測と丹沢（中村純二）、3題の特別講演を56名の方々に視聴していただくことができました。

チューリップ鑑賞がままならない中、風の吊橋を渡った日本庭園「おおすみ山居」で、ゆったりと仕出し弁当と抹茶や生菓子をご賞味いただきながら、しばし談笑することもできました。

今年94歳を迎えられる中村先生の、なお衰えを見せられぬ探求の道すがらを、後進の我らにお示し続けられますように・・・！ご参加下さいました皆さまに、諸事御礼申し上げます。

2017年4月吉日：日本山岳文化学会有志代表幹事・田中文夫



中村先生ご夫妻と聴講の皆さま：パークセンター2階



秦野戸川公園・森 園長 開始のご挨拶



聴講の方々とチューリップ鑑賞



聴講の皆さま：パークセンター2階

山岳文化講座 in 作治小屋 -1

主催：日本山岳文化学会有志

2018年4月7～8日

山岳文化講座 in 作治小屋 - 1

① 講師 = 田中 文夫

- ・ 登山の分類と山岳スポーツのちがいがい
- ・ 太陽光発電とLED照明～作治小屋
(日本山岳文化学会 評議員 10年)

② 講師 = 岩楯岳一、 志帆

- ・ スカイランニングについて
(日本山岳文化学会 会員)

③ 講師 = 中岡 久

- ・ 今年2～3月の
アンナプルナ・トレッキング
(日本山岳文化学会 事務局長)

④ 講師 = 酒井 國光

- ・ 昨年7月の
チベット・トレッキング
- ・ 締めのご挨拶
(日本山岳文化学会 会長)

LED 照明下の一夜をまたぐ、山岳文化講座と懇談会へのご参加をいただき、誠にありがとうございました。

突然の中村先生体調不良による講演辞退がありました。皆様のご理解で一人も欠けることなくご参加下さり、誠に感謝に堪えません。

中村先生ご長男・透さんから講演辞退のお電話をいただいた時は、一部の方と電話協議し、皆様へはお知らせしないつもりでした。

しかし冷静に考えると、中村先生を尊敬される方々の集まりですから、重要な内容変更となり

りますので、お知らせせずに隠蔽することは、主催者の信義にかかわることとなります。お知らせした結果で参加者が半減したとしても、それはその時に対応策を考え直せば良い・・・と割り切ることができました。参加者の皆さまへは誠意をもって事実を伝え、その結果に負える責任は素直に負えば良いと考えると、力みが抜けて自然体になれます。

「田中流＝リスク・マネジメント」、おかげさまで前記の通り欠けることなくご参加下さり、嬉しいかぎりでした。

参加できなかった中村先生には、解散後の夕刻に小泉義彦さんにより、お土産の「三色餅」を届けていただきました。

「知り合いがたくさんいるのに、出席できなくて残念！」、と先生はおっしゃっておられたと、小泉さんからのメールでした。

ご長男＝透さんからストップが掛からなければ、先生お一人でも参加すると言っておられました。しかし長男としてストップをかけられた透さんのご判断は、適切なものであったと理解できます。(リスク&クライシス・マネジメント)

また、参加数日前に家の中で転倒し、頭部12針を縫う負傷をされて不参加となった細坂さんへは、小泉さん奥様が「三色餅」を届けていただき、フォローの大切さを実践されました。細坂さんからは、「参加できなくて残念！」のメールをいただきました。

なによりも、中村先生奥様のご回復が、一番の良薬と思います！
(代表幹事＝田中文夫・記)



< 参加者の声 >

(K・K)さま

(ヤマケイ登山総合研究所所長)

最近の丹沢は日帰りが多かったので、今回の勉強+懇談で静かな夜を過ごし、翌朝の陽射しも感じられ、若い頃に山へのめり込むきっかけとなったこの地が、さらに好きになりました。

講座では、田中さんの多岐にわたるお話を聞いて、いろいろ知識を深めたい気持ちになり、岩楯さんからは「スカイランニング」の将来に向けて、真摯に取り組んでいらっしゃる方々のことを学び、中岡さん、酒井さんのお話や画像から、彼の地への夢をふくらませることができました。

懇親会でもご参加の皆様方から面白く、かつ示唆に富むお話を聞かせていただき、感謝しております。

翌朝の餅つきは20年振りぐらいの体験でしたが、毎年暮れとお盆に郷里の土間で、家族一緒に餅つきした情景や、味噌などを仕込んだ記憶なども、懐かしく蘇ってまいりました。

勤務先の神田神保町へ通うのも、今年いっぱいなので、毎日昼休みには古書店の悠久堂へ通い、まだ手元にない山の本を少しずつ買いそろえることが、最近の楽しみとなっています。今日はさっそく、丹沢関係の歴史の本などを購入してきました。今後とも、よろしく願い申し上げます。

(K・S)さま

今回参加させていただいたきっかけは、仕事および野遊び仲間であるKさんからの誘いだったのですが、いつも彼の行動力に引き付けられながら、新しい体験をしています。

この正月、元旦から青森の八戸～久慈まで「みちのく潮風トレイル」と呼ばれる、環境省がすすめる三陸復興事業の一環であるトレッキングコース（八戸～相馬）を歩いていたら、同時期に丹沢を登っているKさんより、以下のショートメールが突然入りました。

「・・・13日丹沢山小屋一泊、シロコロホルモン焼き新年会予定しています。楽しい出会いがありましたので・・・」

よほど気に入ったらしいことが、そのメールから読み取れましたが、今回同行して、すっかり作治小屋に馴染んでいる彼に、驚いてしまいました。彼の好奇心と、人のつながり方の上手さに、改めて感心してしまいました。

あまりにも専門的な方々の集まりで、私のような素人が参加してもいいものだろうかと不安だったのですが、皆さまフレンドリーな方々ばかりで、何の心配もなく楽しいひとときを過ごすことができました。

しかしながら、講座を拝聴するに至っては、案の定なんとも凄い方々ばかりで、そのスケールの大きさに圧倒されっぱなしというのが、偽らざる感想です。場違いをひしひしと感じながらも魅力的な方々に直に接することができて、本当に幸せな時間でした。

山や自然に向き合うスタイルはとても真似のできるものでありませんが、皆様のポリシーや自然に対する姿勢を参考に、自分なりに自然との関わり方を探っていけたらと思います。

野歩きとともに、先々で見かける神社にも多少興味があり、田中さんの雑学をはるかに超えた資料を拝見し、私には大変な驚きとともにまた一度、神社のお話を聴けたらと願っております。

本当にありがとうございました。

(S・K)さま

今回の「山岳文化講座と作治小屋の夜」では、楽しい時間を過ごすことができました。また集合写真の送付、ありがとうございました。

このような会を催すに当たって企画のきめ細かい準備、また終了後の参加者、欠席者へのフォローもすばらしく、感服しました。

中村先生ご夫妻の一日も早い完治を願い、できますれば継続して会が開催されることを願っております。

(O・M) さま

皆さまの献身的なサポートのおかげで、私は何もすること無く、ただただ心地よい時間を過ごすことに専念できました。申しわけない気持ちと、感謝の気持ちで一杯です。

※餅つきで頑張っていましたヨ！（T）

田中さんの講演を聴き、「生活」という言葉が気になり、**Wikipedia** で検索してみました。

「衣食住」の基本は、人が生活していく上で必要な、食（食事）、衣（衣服）、住（住居、雨風をしのげる寝場所）の確保である。

「衣食住という普段何気なく使っている言葉の奥深さ、重さ、を再認識しました。

(N・C) さま

おかげさまで久しぶりに「山小屋」の雰囲気^{おっ}を満喫した一夜となりました。普段は人気の少ない山に単独で入ることが多いのですが、こんな「ヒュッテン・レーベン」も、乙ですね。シシ鍋やお餅など、大変美味しくいただきました（勿論、お酒も）。集まった皆様や小屋の方々のお人柄が、このような雰囲気をもたらせているものと思います。

中村先生ご夫妻のご復帰を、心より願う次第です。

解散後しばらく、河原（丹沢の上高地！？）でボーッと過ごし、その後道草を食いながら戸川公園まで下りました。トウゴクミツバツツジは風でだいぶ散ってしまったようですが、ヤブツバキやモミジイチゴ、マムシグサの仲間等を見てきました。あとはスギ、ヒノキの生木の香り。

戸川公園、それはもう半端ない人出でしたね。そこで昼食。角煮入りチマキとピーナツ（秦野産）入りのコッペパンは、安くて美味しかった。渋沢駅まで歩くことも考えましたが、出ようとする頃にバスが2台到着。バス停はもう、長蛇の列。続行する臨時便に乗車できました。

渋沢駅北口のデッキから、富士山が見えるのですね。少し雲は多めでしたが・・・。

これからは、山行の方も少しずつ復帰したいと思います。

(小泉・記)

作治小屋では楽しく、有意義な2日間をありがとうございました。感謝いたします。高島車での帰り、中村先生宅にお寄りしようとしたのですが連絡つかず、4時過ぎに連絡できました。昼間は病院に、透さんと行かれました。

5時過ぎにお伺いし、三色餅と出席者名簿、集合写真をお渡しできました。名簿をご覧になり、「知り合いがたくさんいるのに出席できなくて残念」、とおっしゃっていました。「次回はぜひ出たい」、とのこと。お餅の1袋は明日、病院に持って行くそうです。

家内が細坂さんを訪ね、三色餅を渡しました。目の上と顎を怪我し、病院以外への外出禁止とのことでした。

(S・S) さま

中村先生ご夫妻が不参加になられても、皆さん大勢集まれたのは、準備での誠実な対応が良かったからだと思います。

また、作治小屋愛好会の皆さんにも、頭が下がります。

田中さんの天皇系図や文明の流れの研究は、興味がありました。さらなる深化を期待します。天気が良く、解散後は5人で楽しく山歩きができました。塔ノ岳は21回目、12年振りでしたが、変貌ぶりに驚きました。

(I・K) さま

皆も驚く一つ一つに行き届いたご準備と、素晴らしい人々との出会いに、充実した2日間でした。先に過去の資料を送って下さる事前情報や、車でお迎えの手配など、人見知りで対人関係が苦

手な私には、同乗者の方々と先に接する機会を持って、話もしやすい環境づくりでした。

中村先生のご自宅での表情は穏やかな笑顔で、素適ですね。奥様のご自宅お戻りになることで、先生も回復されることを願っております。そのような現実、私の周りでも起こっているの、きっと・・・と信じております。

2018. 4. 6 中村あや

此の度はいろいろ御骨折りいただき、皆様とお話しできる機会をつくっていただきましたのに、誠に残念で申しわけなく思っております。

主人には、足下もあぶないし、疲れるからそんなに来なくていいというのですが、毎日通って来てくれます。

同じことを繰り返し言ったり、言ったことを忘れてりの症状は、私の入院による生活の激変が大きくひびいていると思われま。

来週中には退院となり、つつじヶ丘で二人で暮らすという、主人の夢はかないそうですが、「二人でやってゆけるのかそれが心配だ」、とお医者様には言われます。

私にも、わかりません。

ただ今なら、主人を正気の世界に引き戻せるのではないかと、^{いち}縷の望みを抱いています。

お詫びを申し上げるつもりが、勝手なことばかり書き連ねました。お許し下さい。

庭のチューリップが、きれいだそうです。



ご自宅でくつろがれる 中村純二先生



講演 1 = 田中文夫

- 日本山岳文化学会 評議員 10年間
- ・登山の分類と山岳スポーツのちがい
- ・太陽光発電と LED 照明～作治小屋



講演 2 = 岩楯岳一、志帆 夫妻

- 日本山岳文化学会 会員
- 日本スカイランニング協会 会員
- ・スカイランニングについて



講演 3 = 中岡 久 さま

- 日本山岳文化学会 事務局長
- ・アンナプルナ・トレッキング



講演 4 = 酒井國光 さま

- 日本山岳文化学会 会長
- ・チベット・トレッキング



聴講の皆さま



日本山岳文化学会 酒井会長 講演



山岳文化講座 in 作治小屋 - 2

2018年10月20~21日

山岳文化講座 in 作治小屋 - 2

- ① 講師 = 中村純二、あや
・ムスタンの旅
・父の思い出 金森徳次郎
憲法担当国務大臣
- ② 講師 = 岩楯岳一、志帆
・2018年スコットランド
世界選手権の結果と
スカイランニングの紹介
- ③ 講師 = 田中文夫
・『日本文明物語』
2018年著作の解説

本講演は、東京大学名誉教授、第1次~3次南極観測隊員（オーロラ担当）、東京大学スキー山岳部長、日本山岳会副会長、日本山岳文化学会理事、等々を歴任された、中村純二先生と、令夫人・あや様のご講演となります。

中村先生は2020年10月、97歳でご逝去されました。本講演は中村先生最後のご講演となりました。

今年4月の山岳文化講座では、中村先生と奥様の体調不良により、講演予定だった「ムスタンの旅」は急遽中止となりました。代わりに、日本山岳文化学会=酒井國光会長の「チベット・トレッキング」と、中岡久事務局長の「アンナプルナ・トレッキング」のご講演をいただき、参加者はヒマラヤの山々を堪能することができました。

それから毎月一度は“茶飲み話”をと、中村先生のご自宅を訪問し、今回の講演につながる「日本文明」の話を続けてきました。その中で、4月にできなかった「ムスタンの旅をふたたびお話ししたい」・・・となり、9月に入ってからの急な案内となりました。

10月は、体育、行楽、文化のオン・シーズンであり、皆さまの多くがすでに予定をお持ちでした。少人数でも良いから実施する決断は簡単なのですが、中村先生と奥様の体調が整うか、心配は尽きません。それでも直ぐに、15名ほどの参加返信をいただきます。

しかし実施すべきか、中止すべきか、大いなる悩みは尽きません。10月の初旬、先生のご自宅を訪問し「講演会を中止しましょうか！」と、ふたたび問いかけました。しかし先生のご意思は固く、“実施する”ことで、腹を決めます。

9月18日は中村先生の95歳の誕生日で、小泉義彦さんが中心となって沼津の山小屋に宿泊されたことから、・・・10月ならば大丈夫だろう・・・と、察することができました。

今回は倉金徹夫さんの乗り心地良い車がリザーブでき、倉金さんも張り切っていたことから、作治小屋での宿泊を無事乗り切ることが、最大な課題と受け止めます。



行楽シーズンで東名高速は低速道路。30分遅れて「おおすみ山居」で昼食。圓山さんの仕出弁当は奮発された豪華版。村上社長のお母様は93歳。昨春は中村先生の南極講演会に参加され、「感激と元気をいただいたから！」と。

すでに過去2度、中村先生ご夫妻は作治小屋にお泊りになっていたため、小屋の津々木さんも要領を心得ています。布団の配置、ポータブルトイレ、お手拭き、個室状仕切り、等々。加えて今回は、フェイスタオル、マスクを用意しましたが、眠れぬ夜を過ごします……。歓談中に強い雨が降ったものの、深夜の空にはオリオン座が見事に輝き、晴天を約束してくれます。

21日朝、06:30頃、快晴の塔ノ岳を見上げる屋外テーブル付近に先生のお姿を見かけたとき……。ホット安堵!!!

今回も多くの方々にご協力いただきました。中村先生ご夫妻を送迎された倉金さん。岩楯さんご夫妻には、PP映像装置のセットや渋沢駅への送迎、食材調達から調理までの全てを。「皆さんが喜んで食べていただけるのが、とっても嬉しい」と岩楯夫人。スカイランニング大会で、50食以上をサット用意している実力は～恐るべし！走るだけでない、“プラス・アルファの余力こそが文化の力”効果といえます。写真撮影が大好きな小泉さんは、一人黙々と、知らぬ間のスナップ撮影。極め付きは、以前に中村先生が意識を失われた時、知らぬ間に撮影されていました。集合写真撮影時に、タイマーをセットしてから三脚を蹴飛ばさないか……。いつもヒヤヒヤしています。

藤原ゆり子さんには受付・集金をお願いしました。16年前に発足した日本山岳文化学会、設立当初から理事の一角で受付や庶務・雑務をこなされた実力が、最近ではスカイランニングに向けられ、今年にはスコットランドの世界選手権に個人でオープン参加された行動力。かつては南米のアコンカグアや北米のマッキンリー、フランスのモンブランなどを登り、本講座の翌日はトランポリン

大会競技委員長代理を務めるなど、小柄な身体のどこに、そのエネルギーが蓄えられているのでしょうか？

スカイランニングの技術指導をされている岡島さんは、元＝山学同志会の一員。“同志会”と略称され、小西政継氏を中心に戦後の優れたクライマーを輩出しています。その小西氏も、最後はマナスルで遭難死されましたが、“山学”の“学”は、同会設立代表だった斉藤一男さんが、日本山岳協会会長職の後に立ち上げた「日本山岳文化学会」で、初代会長になられて実践されます。このような背景にあって岡島さんは、「仲尾根エデンの園でギター演奏をしてみたい！」と、ギター教室も主宰されています。作治小屋でギター教室生徒さんたちとのバーベキュー計画が、台風25号到来で中止。かすると……。数日後にはインドからのメールが届きました。

秋田県出身の川浪さんは、お小遣いをためてヨーロッパ・アルプス登攀に度々出掛けています。今夏も出掛ける計画が、台風で飛行機が飛ばず、あえなく断念！日頃は丹沢を歩き廻り、作治小屋で、布団干しや薪割の手伝い。今回は小屋のスタッフが津々木さん一人だったため、皆様が気づかないところで働いていました。

同様に小学校教諭の佐藤幸子さんも、布団敷きや雑用で、小屋のスタッフの代役を努めて下さいました。今夏は一人で穂高へ出かけ、涸沢～奥穂～前穂～岳沢を踏破、南アルプスも一人で踏破した飛躍の年になったようです！

荒井隆之君は私と高校同級生。富士通で携帯電話等の移動体通信の技術開発に携わり、今では圧倒的多数が所持する携帯電話・スマホ等、影の立役者です。荒井君は高校で山岳部、私は高校でサッカー部、その二人が28年後の1992年、エベレスト・トレッキングに出掛けました。エベレストが正面に見えるホテル・エベレストビュー、このホテル設計は高校山岳部先輩である熊谷義信さん。熊谷さんは当時(株)国設計の所員。

今回参加の小林茂さんは、現在も国設計で構造設計を担当して

います。私も国設計の電気設備設計を、30 年余にわたっておこなってきました。代表作品は、神奈川県立歴史博物館復元です。この建物外壁は重要文化財ですが、明治維新で外国取引決済を一手におこなっていた“横浜正金銀行”を神奈川県が買収し、博物館へ転用した積石造建築です。

21 日朝から参加した鈴木盛彦君、平塚市内で外科・内科の開業医をしています。20 日は医師会のイベントがあって参加できませんでした。私と中学校同期（違うクラスで学級委員）、東京医大山岳部 OB です。1975～76 年にわたり、エベレスト山麓のペリチェにあった東京医大高山医学研究所に勤務した経験もあります。東京医大は上高地にも診療所を持ち、鈴木君は岳沢ヒュッテにも通っています。20 日の夜、もし彼が同宿してくれたら心強いので、宿泊要請したいと念じていましたが、それぞれにはそれぞれの事情があることから、ぐっところえます。

下野さん、豊田さん、江部さんとはまだお話が足らず、コメントできない失礼をお許し下さい！

作治小屋＝津々木さんは孤軍奮闘となりましたが、後日の電話で「80 歳まで小屋を護ると言っていたけど、中村先生に接して前言撤回し、もう年のことは言わないようにする！！」と、中村先生ご夫妻からパワーをいただいた様子。津々木さんは私よりも 4 歳年上の 76 歳。今回は参加できなかった小屋の松下さん、荒木さんは私と同年の 72 歳、安瀬さん、八千代さんは 2 歳年上、会長の下坂さんは 80 歳（？）・・・と、全員高齢者。小屋は存続の危機にあります。が、“作治小屋は丹沢の上高地”、登山者が佇む淀みの中にこそ、人生の英知を見出すことができます。

出来る人が、出来る時に、出来る事を、出来る範囲で、・・・やる（しかし、出来ないことの方が多い）・・・そしてちょっとだけ無理をする・・・！！！！

そんな意識をもっておこなった、「山岳文化講座 in 作治小屋」でした。

前記のよう、参加者全員のご協力、ご助力により、楽しいひとときを分かち合うことができました。

帰り際、中村先生奥様のお言葉＝「まだ帰りたくない・・・！！」の一言に、全てが凝縮されていました。

————— 皆さま、ありがとうございました！！ —————

鳥尾山仲尾根登山の参加希望者は、小林茂さんだけでした。



21 日（日）は雲一つない快晴の丹沢に行かない手はありません！今年の丹沢週末は曇り～雨が多かった。私の仲尾根登山は 47 回目。週末テニスで運動している小林さんも調子良く、三ノ塔尾根を下山してから「おおすみ山居」でクールダウン。公園まつりで賑わっていましたが、抹茶と生菓子、最後はおまけのアイス・コーヒーまで！

「おおすみ山居職員の方々」にも、大変お世話になりました。ありがとうございました。

2018.10.24（日本山岳文化学会有志 代表幹事＝田中文夫・記）

※ 上記は終了後に参加者の皆様へ配布した報告書



パワーポイント画面をプロジェクターに写して説明



↑夜の懇親会↑



↓中村先生ご夫妻



パワーポイント画面をプロジェクターに写して説明



↑作治小屋別館



↓塔ノ岳方面説明：公認山岳ガイド岡島さん





秦野戸川公園内日本庭園 おおすみ山居 正門前



日本庭園を鑑賞しながら抹茶と仕出し弁当

2018年10月20日 作治小屋講演を前に昼食と休憩で立ち寄り
車送迎=倉金徹夫さん

秦野戸川公園内 日本庭園
おおすみ山居



京の味・圓山さん発奮の仕出し弁当





石曳手打蕎麦「さか間」で懐石蕎麦

東京大学スキー山岳部で、中村純二先生に次いで部長を務められた日江井榮二郎先生ご夫妻と、中村先生奥様（あや様）&ご長男を誘っての丹沢紅葉鑑賞会。車送迎は高島健三さんのご厚意で実現！

大倉バス停前にある石曳手打ち蕎麦「さか間」にて「ミニ懐石蕎麦」で腹ごしらえ。（↑写真）

パークセンターを見学してから「おおすみ山居」でお抹茶を飲みながら紅葉鑑賞と戸川公園内散策！

日江井榮二郎先生＝東大名誉教授、明星大学元学長、国立天文台名誉教授、東大スキー山岳部長、太陽物理学

おおすみ山居の紅葉鑑賞

2021年11月19日





おおすみ山居の紅葉

2023年11月26日



2020年11月、突然に神奈川県警松田警察署から電話があり、標記事件に対する「有識者意見」を依頼された。警察を語る不審電話が多い昨今、改めて松田警察署へ依頼者の実在を確認した。

2020年11月20日；神奈川県警捜査1課警部補と松田警察署担当者の自宅来訪を受け、概要説明と刑事事件として「山岳有識者意見」を依頼される。

2020年12月16日；県警捜査1課長代理（警視）を含む警察スタッフと現場検証。現場確認と写真撮影

2020年12月21日；松田警察署長宛、「最終意見書」提出。

A4版75頁、内容＝意見本文、写真解説、制作図解

2021年3月8日；警察＝書類送検、NHK-TV報道

2021年9月29日；横浜地方検察庁小田原支部：担当検事・事務官と警察スタッフによる「現場見分」に帯同

2021年12月22日；横浜地検小田原支部訪問・担当検事の質疑・解答、さらなる衛星写真に行動図解した資料を提出（検事から拙宅訪問のアポイント電話があったが、暇な当方から支部訪問）

2022年3月30日付、田中宛「通知書」受領→「不起訴」裁定



「山上の掟」からの判断＝当然ロープ確保をおこなうべき箇所でおこなわなかった業務上過失は明瞭

田中は「日本山岳文化学会・元評議員」の肩書としていたため、「学会会長止め」として逐一報告していた。

「不起訴裁定」の結果を受け、田中は日本山岳文化学会として再検証を提案したが、理事会にて「個人でどうぞ！」の見解通知。

「そんな学会であるなら会員でいる意味が無い」と理解し、即座に「退会届」を提出・・・受理。

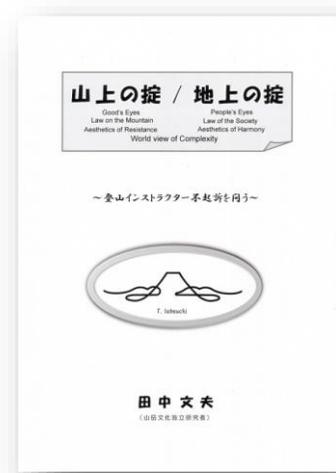
以降、独立研究者として同件を再考察し『山上の掟 / 地上の掟』A5版266頁をまとめ、国立国会図書館蔵書となり、公開中。

併せて、同書を以下へ送付したが、返信・音信は今も無い。

- ・日本インストラーズ協会＝岩崎元郎・理事長
- ・日本山岳ガイド協会＝板垣禎一・会長

「山と文化のホームページ」<http://mountain-culture.com> を開設HP公開にて読むことを可能とした。

※いろいろな立場から考え、「登山の安全確保」について、登山者の知見・意識が向上することを望みます！！



国立国会図書館蔵書 A5版266頁

NHK-TV 「おはよう日本」7:15頃
TVK 13:27

NHK NEWS WEB
神奈川 NEWS WEB

2021年（令和）

登山滑落死で案内役を書類送検へ

03月08日 06時47分

去年3月、神奈川県山北町の山中で登山中の46歳の女性が滑落して死亡した事故で、警察は、案内役だった男性が危険性のあるコースを通る際に安全管理を怠ったとして、8日、業務上過失致死の疑いで書類送検する方針を固めました。

去年3月、神奈川県山北町にある丹沢山系の山の尾根で、神奈川県秦野市の46歳の会員の女性が登山道から滑落して死亡しました。捜査関係者によりますと、当時、民間の団体が認定する「登山インストラクター」の59歳の男性が女性のガイド役を務めていて、警察が詳しく調べたところ、予定より遅れたため事前の計画を変更し、危険性があるコースを通過していたことがわかったということです。

その際、男性はザイルを使うよう指示するなどの安全管理を怠っていたということで、警察は、こうしたさまざまな対応が事故の原因になったとして、8日、男性を業務上過失致死の疑いで書類送検する方針です。

これまでの調べに対し男性は「亡くなったことに責任を感じている。女性の技術を過信して、対策を怠っていたかもしれない」などと話しているということです。



提出：意見書 A4版75頁



神奈川県警 現場検証要項メンバー

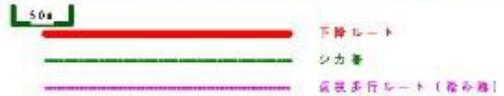


横浜地検 小田原支部 田中宛：不起訴決定通知書

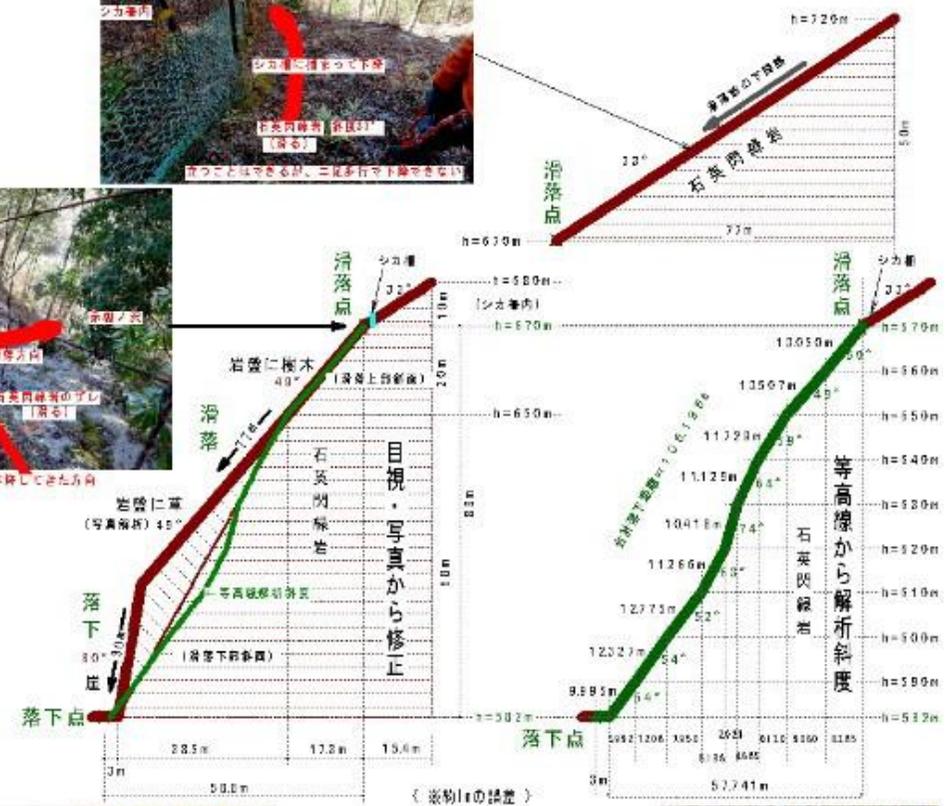


Google Earth 画像取得日: 2020/12/23 以降 < 行動ルート俯瞰写真図 > 100 m カメラ: 771 m
 Landsat / Copernicus Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO Data Japan Hydrographic Association Data IDEF0-Columbia, NSE, NOAA

下降ルート地形図

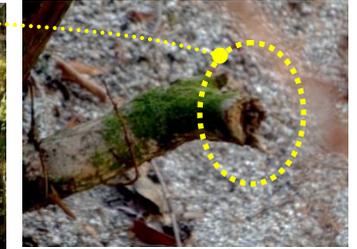


転落断面推計図





ロープ確保無しで金網につかまりながら各自下降



折れたアセビの枝 支点としたために転落



赤棚ノ沢底まで転落



現場検証のため シカ柵内を登る警察官



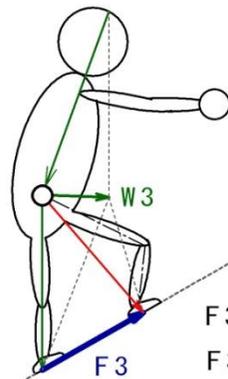


石英閃緑岩とザレ

※摩擦抵抗を極めて低減させる（滑り易い）

シカ柵外部下降斜面約 30°
登るより
降る方が難しい(ロープ確保)

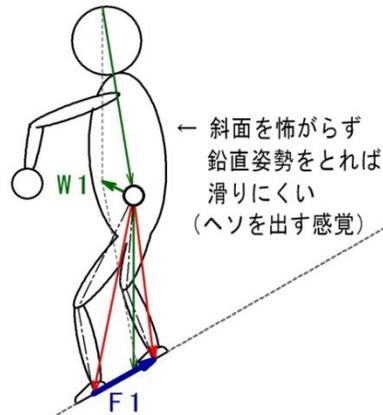
〈 二足登高 〉



$\theta = 30^\circ$ と仮定

$F3 > W3$ ←登れる
 $F3 < W3$ ←登れない

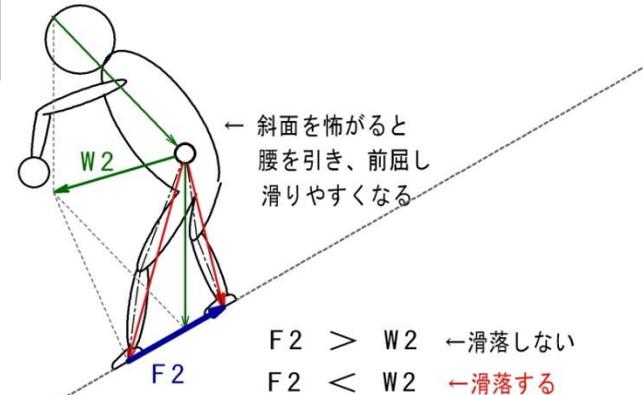
〈 二足下降 〉



← 斜面を怖がらず鉛直姿勢をとれば滑りにくい(ヘソを出す感覚)

$F1 > W1$ ←滑落しない
 $F1 < W1$ ←滑落する

〈 二足下降 〉



← 斜面を怖がると腰を引き、前屈し滑りやすくなる

$F2 > W2$ ←滑落しない
 $F2 < W2$ ←滑落する

〈 赤柵ノ沢側傾斜感 〉



シカ柵外

シカ柵

F = 筋力と摩擦力の合成力
摩擦力は足元の岩や土質と靴底の材質との摩擦力の相関で大きく変わる

W = 身体重心方向

(作図=田中文夫)



木ノ又尾根ザレ斜面の降り 2018.12.1

丹沢でロープ確保の実例



地獄ザリ急斜面のトラバース 2020.4.25



鍋割山北尾根、旧鍋割峠への下降と登り 2020.2.1

クライミングの基本

★ロープワークで落下安全確保技術の習得

アンザイレン

★落ちる前に結ぶ！
(下手は共連れの危険)

コンテニューアス登攀

★ロープをむすんだまま連続行動
(比較的容易だが、万一の落下に備え安全確保)

スタッカト登攀

★一人一人が行動と確保を交互に繰り返す
(落下危険個所の安全確保)



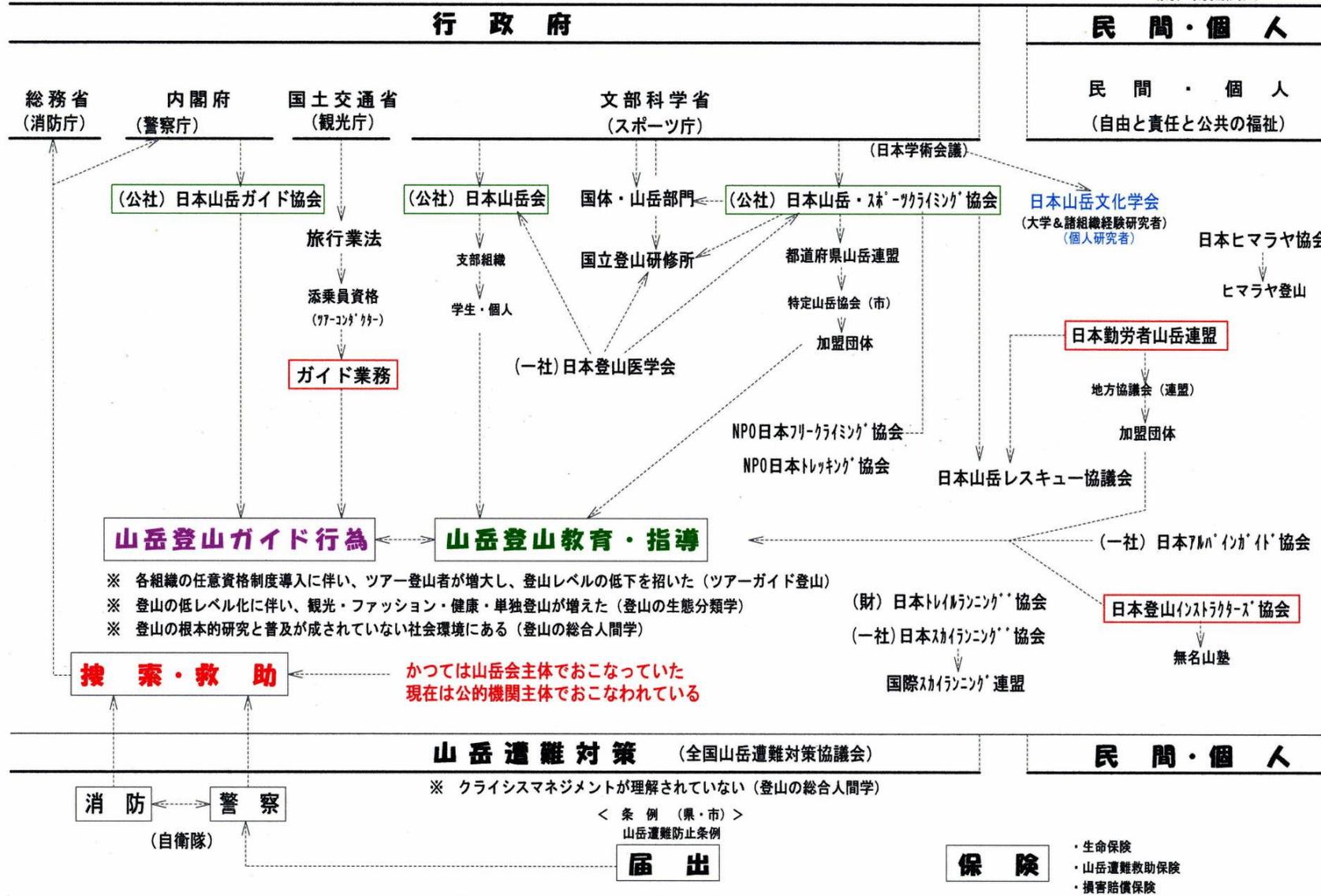
本沢左俣からマルガヤ尾根側面の登り 2020.4.6

現行の山岳組織

日本国憲法

(第11条) 基本的人権の享有と、侵すことのできない永久の権利
 (第12条) 憲法が国民に保障する自由及び権利の保持と濫用の防止と責任
 (第13条) 生命、自由、幸福追及の権利と、公共の福祉に反しない限りの尊重

(公社) 公益社団法人
 (一社) 一般社団法人
 (財) 財団法人



【研究著作】

老いた 10 年余は人生集大成の研究著作にて、販売を目的とせず（非売品）、国立国会図書館に作品を残す！

発行日	著書名	版・頁	発行	国立国会図書館
2014.06.10	老いの道標	A5版 218頁	私製版	
2014.08.15	若き日の山々	A5版 162頁	私製版	
2015.12.07	登山の総合人間学	A5版 266頁	私製版	蔵書
2016.08.30	登山の生態分類(学)	A5版 133頁	私製版	蔵書
2017.01.16	山の空気 森のざわめき	A5版 155頁	私製版	蔵書
2017.11.24	山と美の終焉	A5版 282頁	私製版	蔵書
2018.07.07	烏尾山仲尾根物語	A5版 108頁	私製版	
2018.06.07	日本文明物語	A5版 230頁	私製版	蔵書
2018.12.03	丹沢山麓 山岳文化集	A5版 534頁	私製版	蔵書
2020.02.27	日本文明物語&哲学(和文)	A4版 209頁	私製版	蔵書
2020.11.15	A JAPAN CIVILIZATION STORY & PHILOSOPHY (同上英文対訳)	A4版 222頁	私製版	
2022.07.08	これでいいのか 登山インストラクター	A4版 224頁	私製版	
2023.02.08	山上の掟 / 地上の掟	A5版 268頁	山岳文化研究所	蔵書
2024.02.03	つながる生命の物語	A5版 221頁	山岳文化研究所	蔵書
2025.09.20	人類習合の物語と宇宙則	A4版 237頁	山岳文化研究所	
2025.11.27	老いて10年 丹沢NOTE (第2版)	A4版 122頁	山岳文化研究所	蔵書
<以前の出版>				
2001.01.01	青春のヒマラヤに学ぶ	B5版 268頁	文芸社	蔵書
2003.08.15	頂きのかなたに	B6版 375頁	日本文学館	
1999.03.25	頂きのかなたに(配本停止:廃棄処分)	B6版 213頁	文芸社	蔵書

丹 沢 登 山 の イ ロ イ ロ

表丹沢登山コース俯瞰図と平面地図

動物・蝶・蛾・ヒル・キノコ

丹沢に咲く花 : 2月～11月

登山コース上のイロイロ

表丹沢登山コース俯瞰図

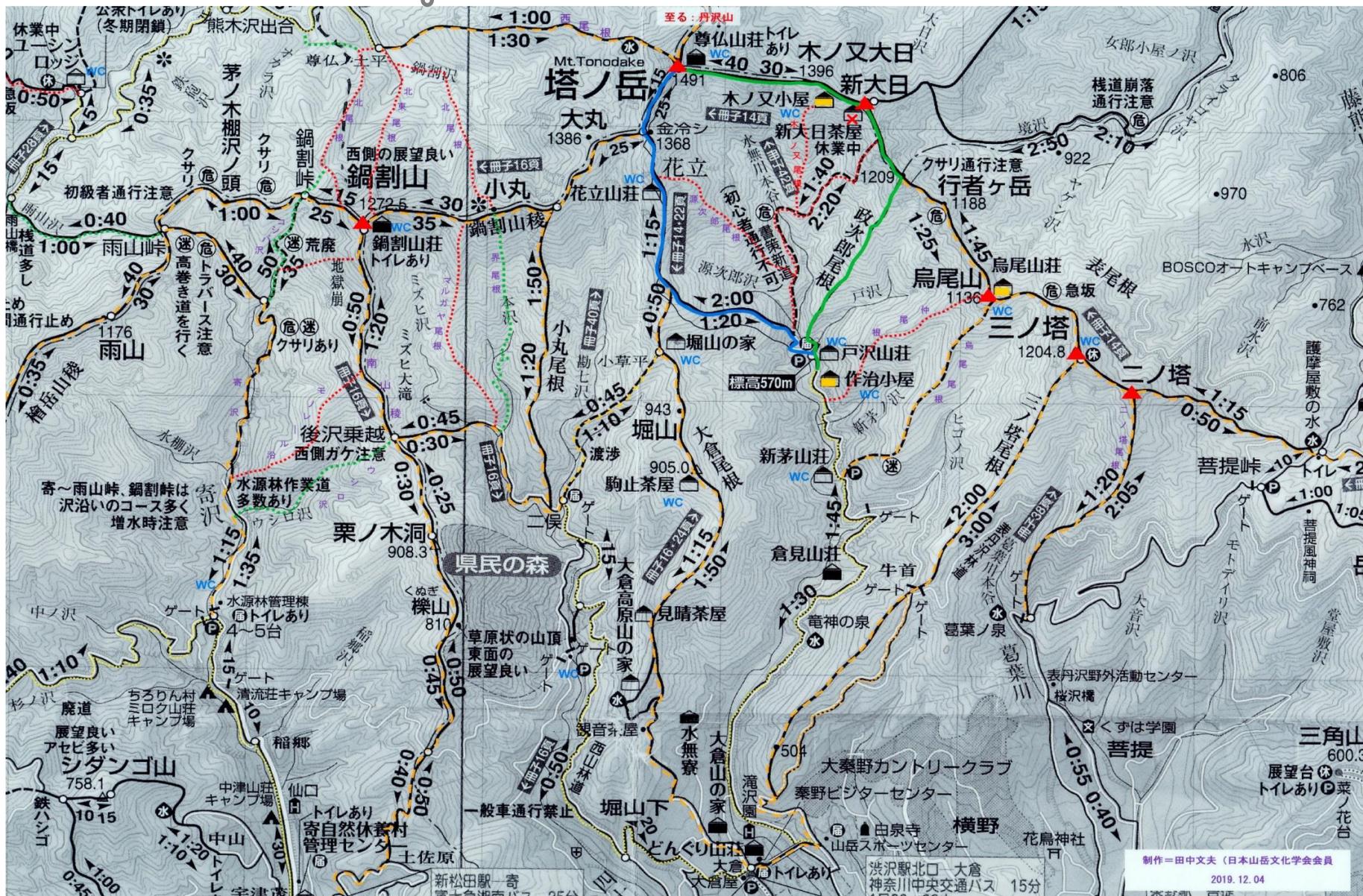
ルート記載 = 田中文夫



Google Earth 画像取得日: 2020/11/04 以降 **丹沢山塊俯瞰図** 1,000 m カメラ: 4,669 m 35°25'12"N 139°10'39"E 64

表丹沢登山コース地図

ルート追記 = 田中文夫





寄沢の日本カモシカ 2017.4.15 (3mほどの距離)

丹沢の動物

3年後
同一個体



寄沢の日本カモシカ 2020.4.25 (触れる近さ)



書策新道 (本谷 F5 右岸枝沢) の日本カモシカ 2018.4.12

日本カモシカ
①

3年後
同一個体



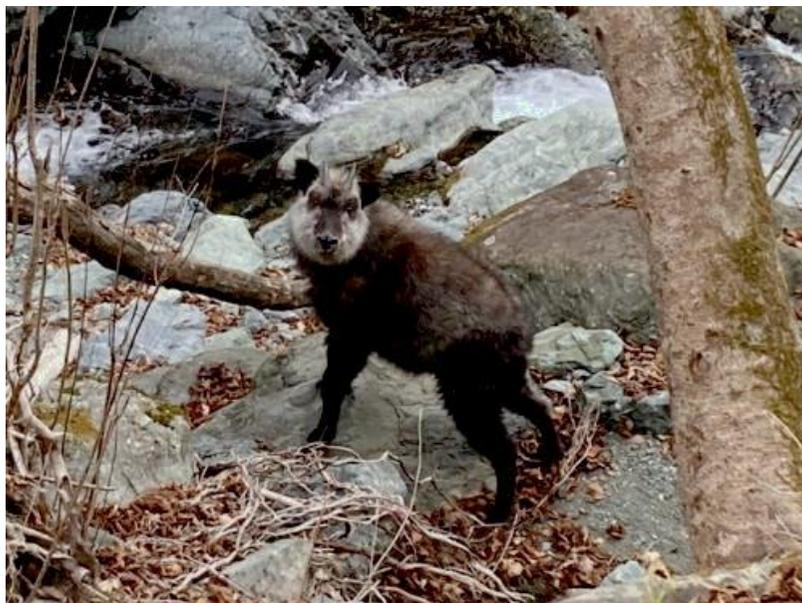
書策新道 (本谷 F5 右岸枝沢) の日本カモシカ 2021.2.5



書策新道の日本カモシカ (本谷 F5 下部) 2015.3.28



鍋割山北東尾根の日本カモシカ 2020.3.7



源次郎沢出合の日本カモシカ 2021.12.22



戸川林道の日本カモシカ 2014.4.5 (道端の至近距離)

日本カモシカ ②

シカを救出

2021. 2. 28

表丹沢林道終点近傍
ヒゴノ沢沿道側溝

戸川林道を下山し、ヒゴノ沢出合を通り過ぎようとした時、若き女性から「手を貸して下さい」と声を掛けられた。

表丹沢林道を散策中の若きカップルが、林道側溝の溝にはまった「シカ」を発見。助け出すために手を貸してほしいと！

戸川林道から烏尾尾根を捲くようにして7~8分入った側溝に、シカは仰向けで溝にはまって動けなくなっていた。

どうしてそんなスッポリと背中が溝にはまってしまったのかを考えるのは後にして、まず救出を試みる。

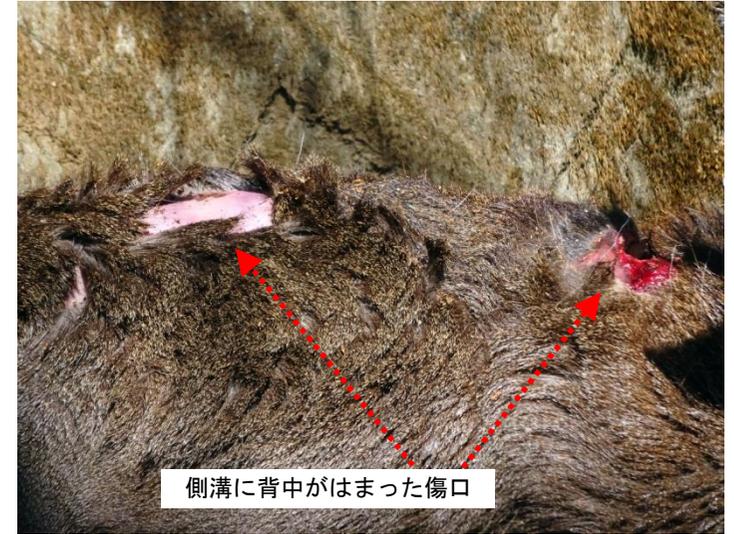
シカはだいぶ時間を経たようで、暴れる力を失って静か。

若者男性が足を持ち、私が頭部の角を持ち、「よししょ！」と簡単に引き上がった。

引き上げたシカはしばらく横たわっていたが、やがて起き、そしてヨロリ・・・と立ち上がったが、直ぐには動けない。

持っていた枝豆を手のひらに乗せて差し出すと、シカは威嚇のポーズをとる。シカの足元にばら撒いて、「食べな！」と声をかけて放置した。

一週間後に出向くと、すでに痕跡は消えていた。



アナグマ 2017.4.3 戸川林道

ケガをしているようで、呼んだら近寄ってきた「ウシ型結核菌」を媒介することで知られ、触れない！雑食性で胎生は2~5月にかけ、2~6頭の幼獣を産む。作治小屋でも捕獲されたが、引き取り機関がなく、ふたたび山へ放たれた。戸川林道下山中、車に轢かれたばかりの死骸を石積みにして、路傍に葬ったことがある。



熊の糞 2021.9.26
仲尾根上部



熊の糞 2021.5.15
仲尾根上部

● 熊撃退スプレー



熊の糞 2021.8.11
鍋割山稜縦走路脇

2020年7月2日13時頃、仲尾根草原（エデンの園）を熊が横断しているのを、20m程離れて目撃した方がいる。その方が戸川林道へ降り立った時に出会い、「今、熊を見た」と聞いた。（草原の新芽ノ沢側に「熊の住処」あり＝津々木さん）

2020年10月21日13時頃、砂川さんと「木ノ又尾根」を下降して「書策新道」に合流。降り始めてすぐの枯れた枝沢で「血の滴ったシカの延髄（骨）」を跨いで通った。すぐ脇には血も乾かない「シカの死骸」が横たわっていた。おそらく熊に延髄を噛み砕かれたばかりだったのだろう！近くに熊がいるだろうから、大声を出しながら水無川 F5 上部へと急いで降った。以来「熊撃退スプレー」をネット購入し、ザック背負帯の胸元に常備している。

ウシガエル 2021.4.15

鍋割山稜縦走路

西山林道、玄倉林道でも見かけた
外来種、肉食性、水中・水面・陸上で捕食活動
5～9月にかけて4000～40,000個の卵を産む
食用とされるが日本では定着しなかった



テンの糞？（テンは木ノ又尾根で見た）



イタチの糞？



ウシガエル

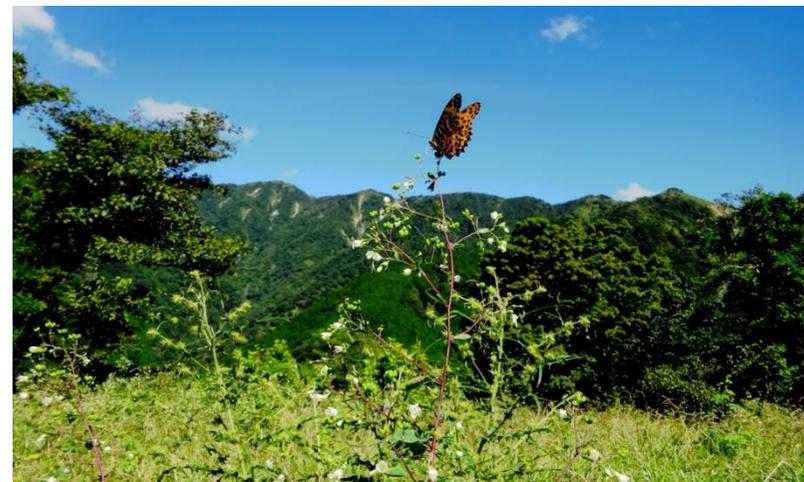


ヤマドリ 2023.9.16 戸川林道で近寄ってきた
 キジ目、キジ科、ヤマドリ属、全長≒125cm
 雑食性=葉、花、果実、種子、昆虫、クモ、ミミズ、甲殻類



オオミズアオ 2023.5.5 源次郎沢出合
 チョウ目、ヤママユガ科、絶滅危惧種Ⅱ類
 雑食性=葉、花、果実、種子、昆虫、クモ、ミミズ、甲殻類
 毒は無く、幸運をもたらせるとされるが、追い求めると火傷を負う
 別名=ユウガオビョウタン (夕顔瓢箪)
 夕顔のように白く、瓢箪のように薄緑、「月の女神の使者」とされ、
 魂と結びつくスピリチュアルで、再生、変身、復活の象徴とされる

鳥・蝶・蛾・ヒル



ヒョウモンチョウ 2021.8.11 仲尾根
 写真を撮ろうと構えたら、「撮ってくれ」とばかりに留まった！



カケス 2020.3.7
 鍋割山北東尾根



ヒメシロチョウ 2018.10.7
 仲尾根



ヤマガラ 2020.3.15
 (新茅荘の水飲みステージ)



首筋のヒル痕
 (4時間後)



靴についたヒル 2018.10.7
 (いたるところ)



タマゴダケ 2020.9.29 仲尾根、他にいたるところ
 テングタケ科、テングタケ属
 食用=高級フランス料理食材、ホイル焼、スープ、炊き込みご飯
 最初はタマゴのよう



ドクツルタケ 2021.8.11 小丸尾根
 テングタケ科、テングタケ属
 殺しの天使=最も危険な毒キノコ



サルノコシカケ 2019.9.21
 マルガヤ尾根
 サルノコシカケ科、タマチョレイタケ属
 キノコ狩りの対称にされない
 この木は腐って朽ちてしまった



アカモミタケ 2022.9.22
 マルガヤ尾根、ベニタケ科、チチタケ属
 食用=シチュー、バター炒め、炊き込み



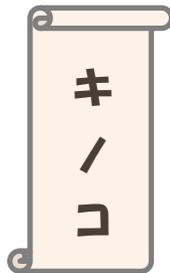
ハナピラダクリオキン 2021.4.15
 アカキクラゲ科、アカキクラゲ属
 源次郎尾根、針葉樹倒の木に群生



ヒメカバイロタケ 2022.9.21
 キシメジ科、ヒメカバイロタケ属
 マルガヤ尾根、針葉樹の朽ちた根本に群生



ヒトクチタケ
 2021.5.29
 小丸尾根
 サルノコシカケ科
 コフキタケ属
 非食用 (まずい)



カワラタケ 2021.8.11 小丸尾根
 タマチョレイタケ科、カワラタケ属
 非食用、薬用成分 (抗癌剤) 含む



コフキサルノコシカケ 2022.6.1
 マルガヤ尾根
 マンネンタケ科、コフキタケ属
 煎じて咽頭痛の民間薬として
 利用されたこともある (抗癌剤)

丹 沢 に 咲 く 花

- 1月
- 2月 ミチノクフクジュソウ、ロウバイ、紅梅、白梅
- 3月 コブシ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、チューリップ、トサミズキ、ヒトリシズカ、ハクモクレン、ヤマブキ、ミミガタテンナンショウ、ヤマツツジ
- 4月 タンポポ、スマレ、ケマルバスマレ、タチツボスマレ、エイザンスミレ、キジムシロ、ツルキンバイ、ミヤマキケマン、バイケイソウ、キブシ、ミツバツツジ、マメザクラ、シャガ、ムラサキケマン、オキナグサ、クサイチゴ、ギョイコウサクラ
- 5月 ウツギ、ニシキウツギ、シロヤシオ、カマツカ、サラサドウダン、フジ、シロバナフジ、ジシバリ、ウマノアシガタ、ヤマツツジ、モミジイチゴ、コケリンドウ、ムラサキゴケ、クサイチゴ、フタリスズカ、ササバギンラン、ヒメレンゲ
- 6月 ノイバラ、ヤマボウシ、ヒメシャラ、ヒメウツギ、コメウツギ、ミズキ、ヤマオダマキ、ニガナ、ミミガタテンナンショウ、バライチゴ、ネジバナ、ギンリュウソウ、ハンショウヅル、
- 7月 ヤマユリ、ツルアジサイ、ホタルブクロ
- 8月 シモツケ、タテヤマギク、マルバダケブキ、アキノタムラソウ、ウツボグサ
- 9月 サガミジョウロウホトトギス、ホトトギス、ヤマホトトギス、ゲンノショウコ、フジアザミ、ウマバチソウ、コフウロ、ヨウシュヤマゴボウ、ビランジ
- 10月 アキノキリンソウ、イワシャジン、センブリ、シロヨメナ、リュウノウギク、ダイヤモンドソウ、リンドウ、ハハコグサ、シロバナホトトギス、シラヒゲソウ
- 11月 サザンカ、フクジュソウ、ミツマタ
- 12月

2月



ミチノクフクジュソウ <おおすみ山居>
キンポウゲ科、フクジュソウ属
花言葉=永久の幸福
準絶滅危惧種



ロウバイ <寄>
ロウバイ科、ロウバイ属
花言葉=ゆかしさ、慈しみ、先導、先見



紅梅 <秦野戸川公園>
バラ科、サクラ属
花言葉=優美、艶やか



白梅 <秦野戸川公園>
バラ科、サクラ属
花言葉=気品

3月



コブシ <大倉>
モクレン科、モクレン属
花言葉=友情、歓迎



ハクモクレン <大倉>
モクレン科、モクレン属
花言葉=高潔な心



ヤマザクラ <戸川林道>
バラ科、サクラ属
花言葉=美麗、純潔、あなたに微笑む



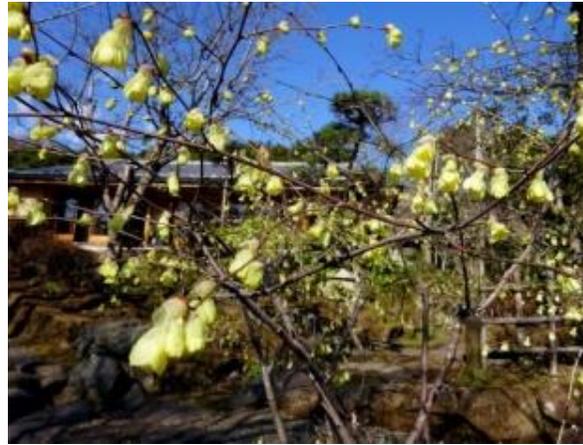
ソメイヨシノ <秦野戸川公園>
バラ科、サクラ属
花言葉=優れた美人、純潔



チューリップ <秦野戸川公園>
ユリ科、チューリップ属
花言葉=赤：愛の告白、白：失われた愛
黄：望みの無い故恋、ピンク：愛の芽生え
紫：不滅の愛、全般：理想の恋人



ヒトリシズカ <おおすみ山居>
 センリョウ科、チャラン属
 花言葉＝隠された愛、愛に応じて
 静御前が源義経を想って一人舞う姿を連想



ミチノクフクジュソウ <おおすみ山居>
 マンサク科、トサミズキ属
 花言葉＝優雅、愛



ヤマブキ <いたるところ>
 バラ科、ヤマブキ属
 花言葉＝気品、崇高、金運



ヤマツツジ <本沢>
 ツツジ科、ツツジ属
 花言葉＝燃える想い、努力



ミミガタテンナンショウ <戸川林道>
 サトイモ科、テンナンショウ属
 花言葉＝壮大な美

4 月



タンポポ <いたるところ>
キク科、タンポポ属
花言葉=愛の神託、幸せ、真心の愛、別離



スミレ <いたるところ>
スミレ科、スミレ属
花言葉=謙虚、誠実



ケマルバスミレ <書策新道>
スミレ科、スミレ属
花言葉=控えめ、誠実、無邪気な愛、謙遜



タチツボスミレ <仲尾根、書策新道>
スミレ科、スミレ属
花言葉=小さな幸せ、つつましい幸福



エイザンスミレ <書策新道>
スミレ科、スミレ属
花言葉=茶目っ気



キジムシロ <書策新道>
バラ科、キジムシロ属
花言葉=明るく輝いて



ツルキンバイ <雨山峠>
バラ科、キジムシロ属
花言葉=?



ミヤマキケマン <書策新道>
ケシ科、キケマン属
花言葉=戦い



ミツバツツジ <鍋割山稜>
ツツジ科、ツツジ属
花言葉=節制、抑制の効いた生活



マメザクラ <鍋割山稜>
バラ科、サクラ属
花言葉=優れた美人、純潔、淡白



キブシ <仲尾根>
キブシ科、キブシ属
花言葉=待ち合わせ、出合



バイケイソウ <鍋割山稜> 有毒

ユリ科、シユロソウ属
花言葉=勝利への誓い、率直、
あの方が気がかり



ジャガ <大倉>

アヤメ科、アヤメ属
花言葉=反抗、友人が多い



ムラサキケマン <大倉>

ケシ科、キケマン属
花言葉=喜び、あなたの助けになる



クサイチゴ <いたる処>

バラ科、キイチゴ属
花言葉=誘惑、甘い香り
赤い果実=食用=酸味は少なく甘い
俳句季語：春=草莓の花、夏=草莓の実



御衣黄桜 <おおすみ山居>

(ギョイコウサクラ)
バラ科、サクラ属
花言葉=永遠の愛、優美、心の平安



翁草 <おおすみ山居>

キンボウゲ科、オキナグサ属
花言葉=奉仕、何も求めない、清純な心
有毒：皮膚炎、腹痛、嘔吐、血便、心停止
漢方薬（根を乾燥）：下痢、閉経

5 月



ウツギ <戸川林道、いたる処>
アジサイ科、ウツギ属
花言葉=古風、風情、秘密



ニシキウツギ <戸川林道>
スイカズラ科、タニウツギ属
花言葉=移り気



シロヤシオ <戸川林道>
別名=ゴヨウツツジ
ツツジ科、ツツジ属
花言葉=愛の喜び、上品



カマツカ <源次郎尾根>
バラ科、カマツカ属
花言葉=真心、真実、愛嬌
枝は鎌の柄（つか）になる硬さ



サラサドウダン <仲尾根>
ツツジ科、ドウダンツツジ属
花言葉=明るい未来、節制、
控えめな愛（幸せ）



シロバナフジ <戸川林道>
マメ科、フジ属
花言葉=可憐、歓迎、恋に酔う



フジ <戸川林道>
マメ科、フジ属
花言葉=君の愛に酔う



ジシバリ <源次郎尾根、仲尾根>
キク科、ニガナ属
花言葉=束縛する(シバル)、
人知れぬ努力、忍耐



ヤマツツジ <仲尾根>
ツツジ科、ツツジ属
花言葉=燃える想い、努力



ウマノアシガタ <表尾根>
ピンポウゲ科、キンポウゲ属
花言葉=子供らしさ、榮譽、栄光



コケリンドウ <源次郎尾根>
リンドウ科、リンドウ属
花言葉=秘めた想い



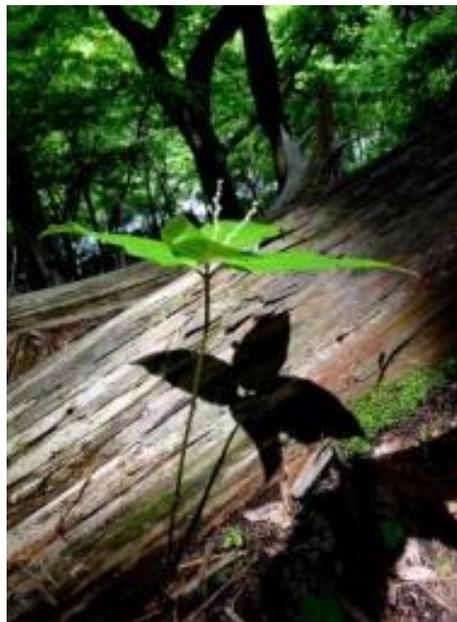
モミジイチゴ <三ノ塔尾根>
バラ科、キイチゴ属
花言葉=いつも愉快、愛情、嫉妬、
後悔、うらやむ
黄色い実は食用=ジャム等



クサイチゴ (実)
<いたる処>
バラ科、キイチゴ属
花言葉=永遠の愛、幸福な家庭、
尊重と愛情、誘惑
赤い実は食用=酸味が少なく甘い



ムラサキゴケ <源次郎尾根>
ゴマノハグサ科、サギゴケ属
花言葉=信じる愛



フタリシズカ
<書策新道>
センリョウ科、チャラン属
花言葉=いつも一緒に
(静御前の面影)



ササバギンラン
<戸川林道>
ラン科、キンラン属
花言葉=そっと見守って下さい



ヒメレンゲ <源次郎沢出合>
ベンケイソウ科、マンネングサ属
花言葉=私の心は燃えている

6月



ノイバラ <いたる処>
バラ科
花言葉=上品な美しさ、純朴な愛、
孤独、才能、詩
実は漢方に処方=便秘、利尿、脚気の浮腫



ヤマボウシ <いたる処>
ミズキ科、ミズキ属
花言葉=友情
秋の赤い実=食用、果実酒



ヒメシャラ <大倉>
ツバキ科、ナツツバキ属
花言葉=愛らしさ、謙虚



ヒメウツギ <仲尾根が特に美しい>
アジサイ科、ウツギ属
花言葉=古風、風情、秘密、謙虚



コメウツギ <表尾根>
バラ科、コメウツギ属
花言葉=鋭い感性、運の強い人



ミズキ <仲尾根>
ミズキ科、ミズキ属
花言葉=成熟した精神、耐久



ネジバナ<いたる処>
ラン科、ネジバナ属
花言葉=思慕



ニガナ <仲尾根>
キク科、ニガナ属、花言葉=質素
万能薬=風邪、解熱、胃腸薬、他



ヤマオダマキ <仲尾根>
キンポウゲ科、オダマキ属
花言葉=断固として戦う



バライチゴ <いたる処>
バラ科、キイチゴ属
花言葉=可憐な乙女



ハンショウヅル <小丸尾根>
キンポウゲ科、センニンソウ属
花言葉=感謝、心の美しさ



ギンリュウソウ <マルガヤ尾根>
ツツジ科、ギンリュウソウ属
花言葉=そっと見守る、はにかみ



ミミガタテンナンショウ
<戸川林道、いたる処>
サトイモ科、テンナンショウ属
花言葉=壮大な美

7月



ヒツゴー沢の流れ

ツルアジサイ <政次郎尾根>
アジサイ科、アジサイ属
花言葉=強い愛情



ホタルブクロ <政次郎尾根>
キキョウ科、ホタルブクロ属
花言葉=忠義、正義



ヤマユリ

<戸川林道、他多方面>
ユリ科、ユリ属
花言葉=荘厳、威厳、純潔、飾らぬ愛、
美、高貴な品性、
神奈川県シンボル花
食用=ユリ根として多糖類の一種、
縄文時代から食される
生薬=鎮咳、強壮、口腔内・
胃粘膜の保護



8 月



シモツケ <大倉尾根>
バラ科、シモツケ属
花言葉＝無駄、無益、儂さ、自由気まま



タテヤマギク <鍋割山稜>
キク科、シオン属
花言葉＝別れ、しばしの憩い



アキノタムラソウ <小丸尾根>
シソ科、アキギリ属
花言葉＝善良、
自然のままのあなたが好き



ウツボグサ <表尾根>
シソ科、ウツボグサ属
花言葉＝優しく癒す、協調性
薬効＝消炎作用、腎臓炎、口内炎



マルバダケブキ <源次郎尾根>
キク科、メタカラコウ属
花言葉＝先見力、純情



9 月

サガミジョウロウホトトギス

(相模上臈杜鵑)

絶滅危惧種

<秘密の場所>

ユリ科、ホトトギス属

花言葉＝永遠にあなたのもの
秘めた意思





← **ホトトギス**
 <表尾根>
 ユリ科、ホトトギス属
 花言葉=秘めた意思



→ **フジアザミ**
 <三ノ塔>
 キク科、アザミ属
 花言葉=おしゃべり
 食用=根 (富士ゴボウ)



ヤマホトトギス <コシバ沢>
 ユリ科、ホトトギス属
 花言葉=優柔不断



ゲンノショウコ <いたる処>
 フウロソウ科、フウロソウ属
 花言葉=心の強さ、憂いを忘れて
 漢方薬=整腸



コフウロ <いたる処>
 フウロソウ科、フウロソウ属
 花言葉=純潔、繁栄



ウメバチソウ <表尾根>
 ウメバチソウ科、
 ウメバチソウ属
 花言葉=いじらしさ

10月



シロヨメナ <いたる処>
キク科、シオン属
花言葉=隠れた美しさ、丈夫



センブリ <いたる処>
リンドウ科、センブリ属
花言葉=義侠の愛、安らぎ
生薬=整腸、健胃、育毛



アキノキリンソウ <鍋割山西山稜>
キク科、アキノキリンソウ属
花言葉=予防、用心、警戒、励まし



ダイモンジソウ <いたる処>
ユキノシタ科、ユキノシタ属
花言葉=自由、好意、情熱、節度、不調和



イワシャジン <コシバ沢>
キキョウ科、ツリガネニンジン属
花言葉=感謝、誠実



リュウノウギク <いたる処>
キク科、キク属
花言葉=無常の美、忠誠心
生薬=冷え性、リュウマチ、神経痛



リンドウ <いたる処>
リンドウ科、リンドウ属
花言葉＝勝利、正義感、他
漢方薬（根）＝排尿を良くする



ハハコグサ <いたる処>
キク科、ハハコグサ属
花言葉＝温かい気持ち、無償の愛、他
食用＝七草粥 薬用＝咳止め、去痰



シラヒゲソウ <檜洞丸>
ウメバチソウ科、ウメバチソウ属
花言葉＝愛情の絆



シロバナホトトギス <大倉・おおすみ山居>
ユリ科、ホトトギス属
花言葉＝秘めた想い、永遠にあなたのもの

11月



サザンカ <西山林道>
ツバキ科、ツバキ属
花言葉=困難に打ち克つ、ひたむきさ



ラショウモンカズラ <大倉・さか間>
シソ科、ラショウモンカズラ属
花言葉=個性、謎めいた魅力、知恵、挑戦、
幸せを招く、復讐



← **ミツマタ**
<つつじ新道>
ジンチョウゲ科
ミツマタ属
花言葉=強靱、壮健
皮=和紙や紙幣の原材料

フクジュソウ →
<大倉・おおすみ山居>
キンボウゲ科、フクジュソウ属
花言葉=幸せを招く、幸福、
長寿



有毒=嘔吐、呼吸困難、
心臓麻痺

大倉尾根にかかる「虹」 < 三ノ塔尾根→表尾根→仲尾根下降 >

2021.9.7



大倉尾根

大倉尾根にかかる 虹

三ノ塔尾根から写す



ホトトギス



サガミジョウロウホトトギス



丹沢の貴婦人



↓オニアザミ



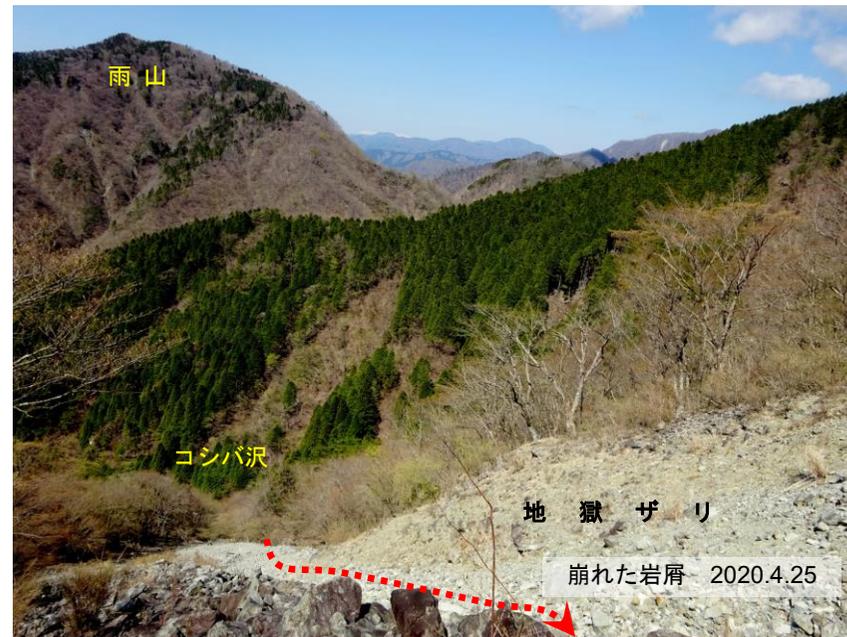
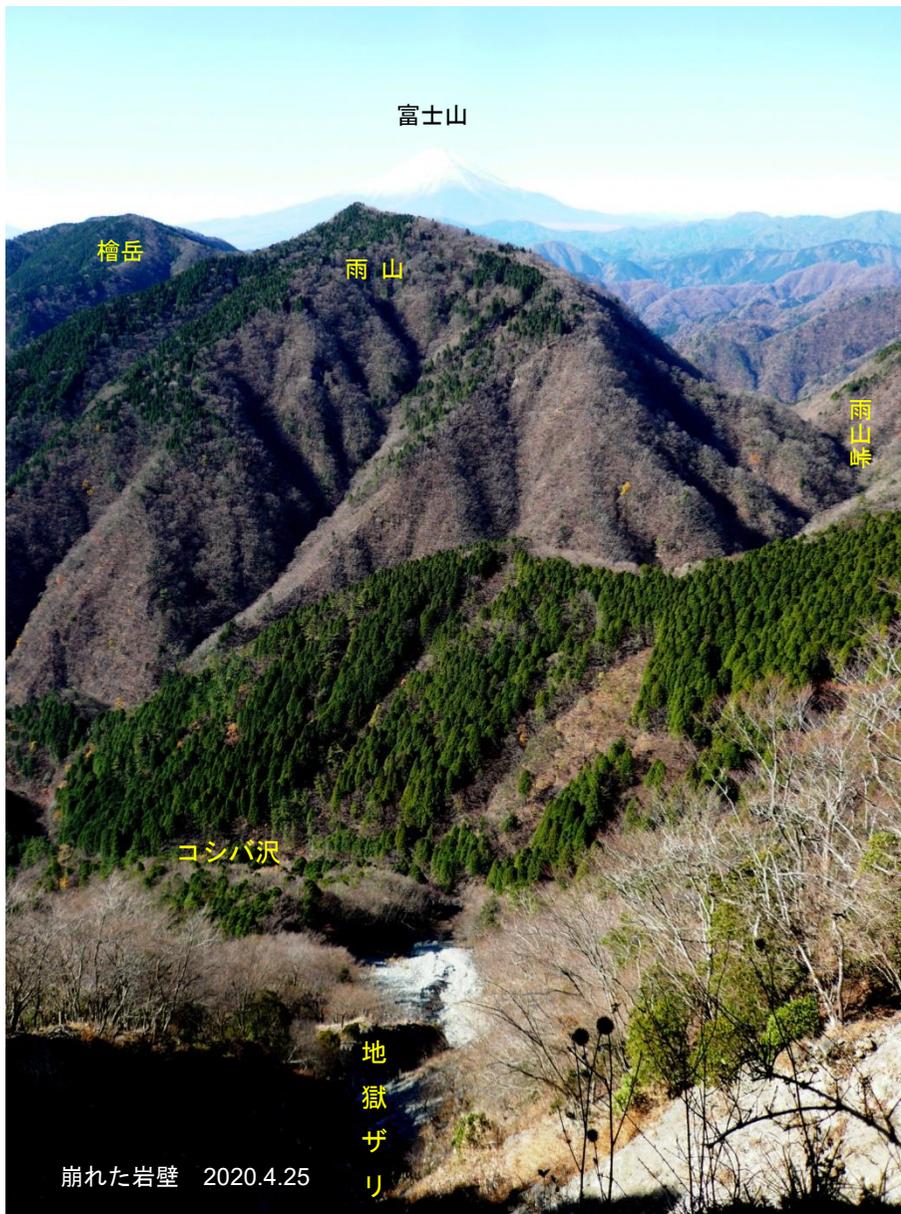
↓リンドウ



烏尾山仲尾根の草原
(エデンの園)

55年前 (1965.9.26) 100mの岩壁を登った < 地獄ザリ > 崩壊

2020.4.25



地獄ザリ
↕

55年前 (1965.9.26) 100mの岩壁を登った <地獄ザリ> 崩壊

2020.4.25



崩れた岩壁 2020.4.25



1965.9.26 タイム・メモ

8:50	到着
10:20	地獄ザリ出合
11:00	右フェイ基部・昼食
11:30	登攀開始
12:30	終了
12:50	縦走路・装備はずす
1:05	鍋割山頂着
1:30	下山
2:40	花立
3:10	大倉



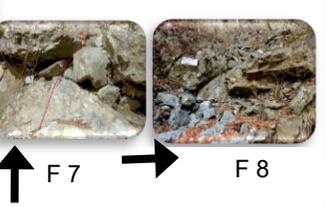
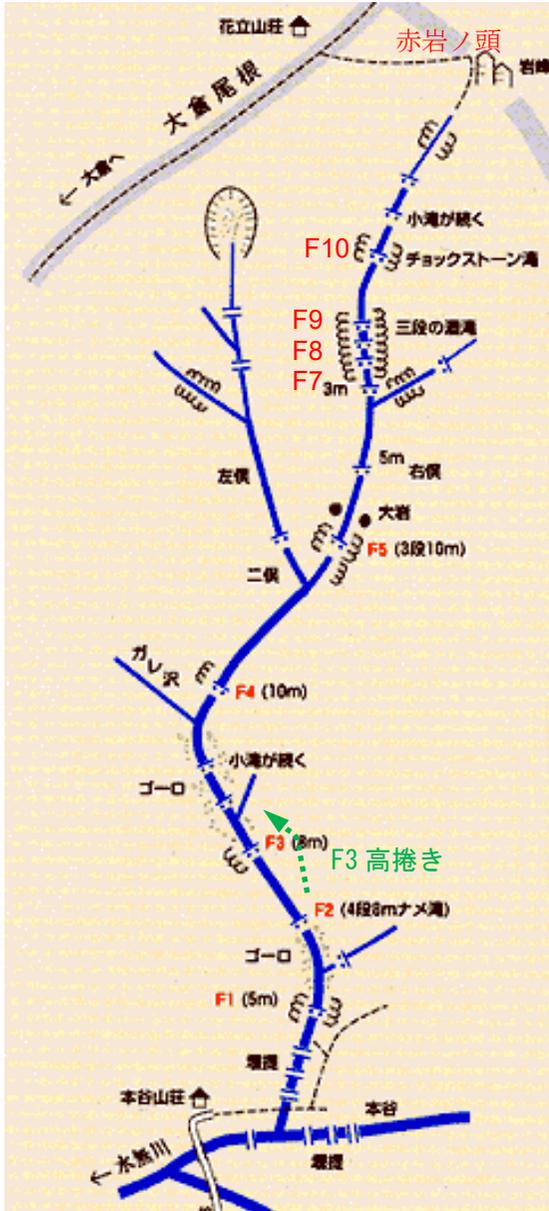
崩れた岩層 (ザリ) 2020.4.25



崩れた岩層 (ザリ) 2020.4.25

初心者向け沢登り < 春の源次郎沢 >

2020.3.21



〈 寄→鍋割山北東尾根→尊仏土ノ平→塔ノ岳西尾根→塔ノ岳→鍋割山→寄 〉 2020.3.7



← ヤマザクラ



2020年2月13日(木):記

小山 貴

京都大学医学部放射線診断科教授

2020年2月の丹沢紀行

< 烏尾山仲尾根～書策新道下降 >

10日(月)から、11日(火)にかけては冬型の気圧配置となり、関西では山の上で1mほどの積雪が見られたものの、週半ばからは気温が上がり雨も降るので、せっかく積もった雪も瞬く間に融けてしまうことが懸念される。

14日から東京で出張の予定があったので、出張の前日は休みをとり田中師匠に丹沢のバリエーション・ルートをご一緒に歩かせて頂くことをお願いしていた。問題は天気である。直前の予報で、午前中は雨が残る予報であったが、午後からは晴天が見込まれる。

13日、朝の新幹線で東に向かうと静岡の駅まではかなりの集中豪雨であったが、静岡を過ぎると雨も止み、雲の合間には青空も見え始める。しかし、車窓のすぐ左手に見える筈の富士山には山麓に至るまで厚く雲がかかっている。小田原からは小田急線で渋沢に向かうところでも雨が上がったところのようだが、やはり丹沢の山々は雲の中だ。

渋沢の駅ではタクシーが1台しか停まっていない。先刻までの降雨でタクシーを利用する客が多かったようだ。運転手に作治小屋までと告げると、「戸川林道は他の車なら入れると思うんですが、この車では入ってはいけないと会社に言われているので」と運転手は申し訳なさそうに云う。見ると確かに車高が低い。しばらく待つうちにトヨタのクラウンが駅前のロータリーに入ってくる。「作治小屋まで行けますか?」とお願いすると嫌な顔一つせずに二つ返事で引き受けてくれる。

大倉の風の吊橋を過ぎて戸川林道に入ると車は大きく揺れ始める。随所に水たまりがあり、車は相当に汚れることになるだろう。しかし、こちらに気を遣ってのことだろうが、運転手は「この道を運転するのは嫌いじゃないのです」と云う。

40分ほどかかり、作治小屋に到着する。

準備を整えて出発したのは丁度11時であった。作治小屋からわずかに林道に戻ったところで仲尾根に取り付く。最初は霧の植林の中をジグザグと急登を登る。

道が尾根芯を辿ると、斜面の左手の自然林の中からおぼろげに現われる樹々のシルエットが幻想的だ。登るにつれて霧は急速に晴れ上がる。

植林地はすぐにも終わり、樹々がまばらな草原の尾根が始まった。尾根上には枝ぶりの大きなアカマツの樹が存在感を誇る。背後を振り返ると谷には雲海が広がっている。

尾根が大きく東に方向を転じるとさらに樹木の少ない草稜となった。エデンの園と呼ばれるところのようだ。



仲尾根中間部 落葉樹林帯の終わり



エデンの園から大倉尾根～塔ノ岳方面



エデンの園から見上げる

尾根の先には青空も広がり始め、左手には行者岳から鞍部を挟んで政次郎の頭へと続く表尾根の稜線が姿を現す。雲も上がり、雲海の向こうには相模湾が見え始めた。

やがて尾根の上部では枯れたカヤトの中を進むようになり、まもなく烏尾山に飛び出した。先ほどは青空を背景にすっきりとその姿を見せていた表尾根の稜線は完全に霧の中である。風はあるが妙に生暖かい。田中師匠の温度計を確認すると14℃であった。

表尾根は登山路の雪が溶けたせいで泥濘みが激しい。なるべく水溜まりや泥濘みを避けて歩くものの、瞬間に足回りは泥だらけになる。

尾根には存在感ある山毛櫨の樹々が随所に現れる。霧の中では山毛櫨の樹々のシルエットが一層、印象的に感じられる。

行者岳の山頂は、頂きらしからぬ通過点のような殺風景なところだ。鎖場を降りて再び登り返すと、本来は展望のよい筈の政次郎の頭に到着する。

書策新道への分岐点を目指して表尾根を登っていくと、右手の斜面で何かの気配がする。檜の植林の中を覗き込んでみると立派な角を生

やした一頭の鹿が、霧の中からジッとこちらを見ているのだった。動く気配がしたので視線を向けると、すぐ下にはもう一頭、小ぶりの角を戴いた別の鹿もいるのだった。

書策新道の分岐は、かつて書策小屋があったところらしい。小屋跡のベンチで休憩すると、いよいよ書策新道へと入る。

薄い踏み跡を辿って、最初は表尾根から南に延びる支尾根を下る。政次郎の頭の上では青空が広がり始める。やがて尾根を離れ、荒れた右手の枝沢の斜面をトラバースしてセドノ沢左俣へと下ってゆく。

沢沿いに下り、途中で右岸の斜面を登ると、小さな支谷の突き当たり大きな岩壁が現れる。その岩壁にはあたかも大きな二つの穴が穿たれ、そこから絶え間なく水が流れ出している。かつての大日鉦山マンガン坑の跡だ。岩に穿たれ



表尾根・霧の中のブナ



表尾根・霧の中の鹿



セドノ沢左俣を下降



仲尾根上部のカヤト
2022年、雑草に覆われ消滅

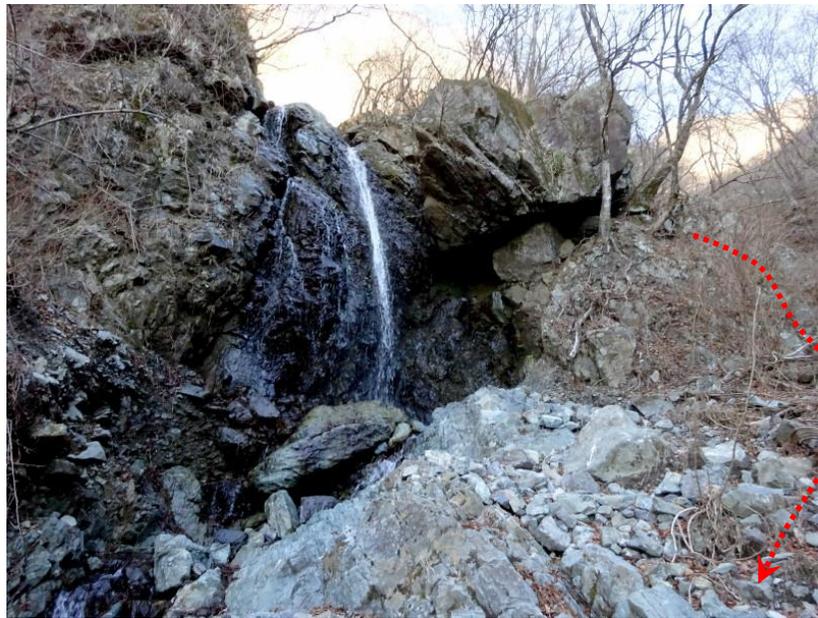


大日鉱山マンガン坑跡

た大きな穴はあたかも怪物の目のようにも思われ、なんとも異様な迫力を醸し出していた。

右手の斜面から穴の中に入ってみる。穴の奥では光が差し込むところだけ鮮やかな緑色の苔が目に入る。坑道の中は意外と奥行きが狭かったが、絶え間なく流れ落ちる水の音は、この山奥の急峻な岩壁で営まれた採鉱作業に郷愁を感じさせるのには十分であった。

再び沢沿いに下ると右手の沢から流れ落ちる一筋の滝がある。白竜ノ滝と呼ばれる滝らしい。



白竜ノ滝

滝を過ぎると沢を離れ、右手の斜面へ入ってゆく。

木ノ又尾根を横切ると、尾根の下部は平坦な草原が広がっている。

田中師匠がここは鹿の遊び場だと教えてくださる。確かにあたりには鹿の糞が多い。谷の下部には作治小屋が目に入る。

ここからは右手の本谷へと下る。沢の周囲は前回、木ノ又尾根を下ってここを通過した時よりも崩落が目立つ。昨年の台風による崩落のようだ。しかしほとんどの危険箇所にはロープが渡してある。

谷の右岸の崩落地を過ぎると、後は植林地の中の明瞭な作業道を下る。

戸沢出合に降り立つと、パトカーが3台停められており、植林地の急斜面では神奈川県警が山岳救助の訓練をしているところであった。前回、ここを通った時にもやはりここで県警が救助訓練をしていたことを思い出す。



セドノ沢右岸をトラバース



本谷 F5 上部を渡渉して右岸へと登る



本谷 F5 右岸の崩壊地をトラバース
※死亡事故を生じる場所



作治小屋



丹沢の上高地 = 作治小屋からの展望

作治小屋から表尾根を振り返ると山の上からは雲がとれてすっかり青空が広がっている。ここから大倉まで1時間10分ほどの長い林道歩きとなる。

大倉に到着すると温度計は20°Cを超えているようだ。おおすみ

山居の南側の梅林では梅の花が花盛りであり、あたりは梅の花の芳香に満ちている。

20年余前、神奈川県体の時に作られた「風の吊橋」を渡って大倉の戸川公園に着くと、河津桜が咲いている。まだ咲き始めだが今週の陽気で、週末には一気に開花するだろう。

丁度、西の空から陽が沈むところであり、日没と同時に桜の花を照らしていた夕陽が消えるのだった。

渋沢駅のホームに立つと、西の空には残照を背景に、富士山の大きなシルエットが線路の上に浮かび上がっていた。

【秦野戸川公園・梅林】



白梅



紅梅

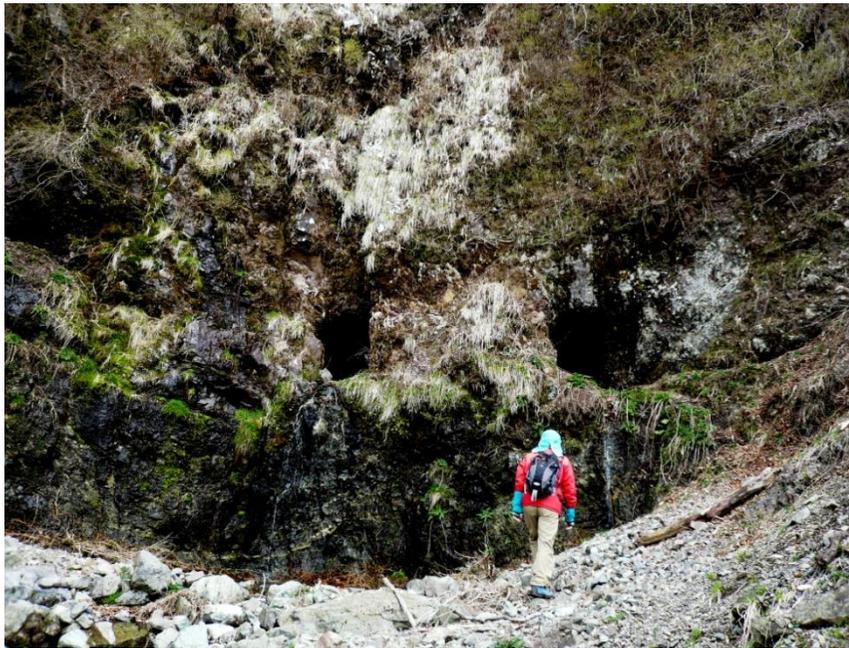


蠟梅



最初に入った < 大日鉱山 マンガン坑跡 > 2015.4.18

同行者：川浪雅明 氏



マンガン坑道正面

噂だけを頼りに川浪さんと探し回り、ようやく発見した。
鉄にマンガン鉱を混ぜると強度が増すことから、満州事変後の1933年（昭和8年）に掘削許可となる。しかし品質が粗悪で1949年（昭和24年）廃坑。
周辺には試掘跡や石積み跡が点在している。
鉱山の廃道を再整備したのが**渋谷書策**さんで、「書策新道」として現在は踏み跡を歩く。

「書策新道」は崩壊地のトラバースがあり、初心者には危険なルート。木ノ又尾根中腹部で「熊」に襲われて死んだ直後の「鹿」をまたいで通ったこともある。(2020.10.21)



鉱石



坑道最奥 水が湧き出している



書策新道「白竜ノ滝」上部の水源が坑道跡



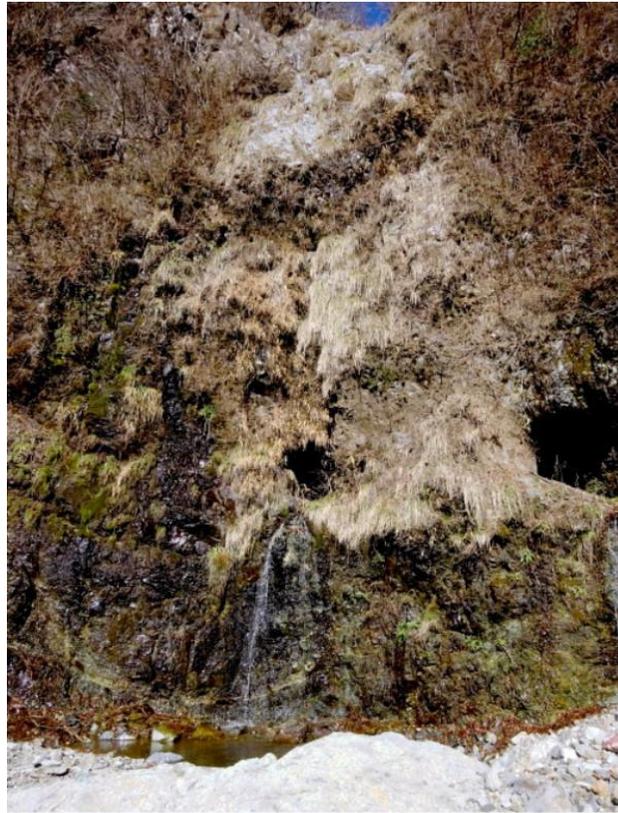
坑道入口



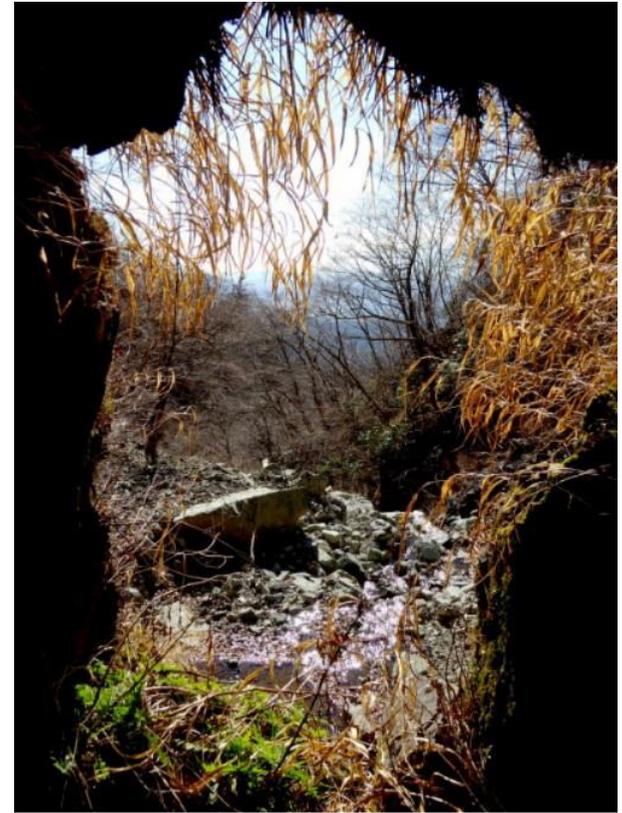
坑道中間部 水が流れている



↑正面 ↓坑内



↑正面 ↓坑内



坑内から望む外の景色



＜ 降雪の源次郎尾根 ＞

晴
7:30

→ 山の天気は急変する → 降雪

2020.3.15

9:00



積雪の <戸沢駐車場→仲尾根→烏尾山→表尾根→書策新道→戸沢駐車場 > 2019.2.2



仲尾根エデンの園



仲尾根 上の植林帯



仲尾根 上部



仲尾根 頂上直下



表尾根鎖場の下降



書策新道マンガ山鉱山坑道内から



書策新道上部の下降



書策新道上部の下降



書策新道上部の下降



烏尾山頂上から塔ノ岳方面



書策新道マンガ山跡正面



書策新道白竜ノ滝付近



本谷 F5 右岸の崩壊地トラバース



雪面につけた等身跡

風雪の〈烏尾山仲尾根往復〉

気温 - 4℃、風速 ≒ 15 m/s

2020.1.19



↑ アプローチの戸川林道



降雪の作治小屋



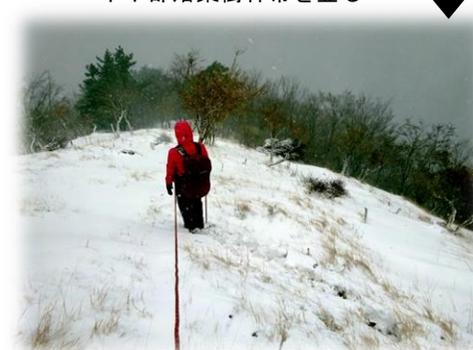
↑ 下部落葉樹林帯を登る



↑ エデンの園から塔ノ岳方面



↑ 上部植林帯入口



↑ エデンの園を降る



↑ 上部落葉樹林帯を登る→



烏尾山荘

← 烏尾山頂

雨氷の <大倉→仲尾根→烏尾山→三ノ塔→三ノ塔尾根→大倉 >

2016.1.31

雨氷 (うひょう)

0℃以下でも凍っていない過冷却状態の着氷性雨が、地面や木のような物体に付着することにより、透明な氷となる着氷現象。(ツララに似ている)

雲や霧を構成する数百μmの水滴では、-20℃程度まで過冷却状態で存在することが知られる。この過冷却状態の雨を「氷着性の雨」という。



↑ 仲尾根上の植林帯入口から塔ノ岳



↑ 仲尾根上部尾根



↑ 仲尾根上部 自分の足跡



↑ 表尾根稜線の雨水樹



↑ 烏尾山頂から三ノ塔への降り



↑ 仲尾根 雨水樹で通れない



↑ 仲尾根 雨水で折れた枝



↑ 表尾根 三ノ塔への登り



↑ 表尾根 三ノ塔山頂直下



↑ 三ノ塔山頂直下のお地藏様



↑ 三ノ塔尾根の降り

晩秋の < 寄沢→コシバ沢→鍋割山→マルガヤ尾根→大倉 >

2019.11.17



寄沢の紅葉



コシバ沢の紅葉



コシバ沢



コシバ沢 山腹トラバースへの取り付



マルガヤ尾根から富士山



マルガヤ尾根無木立広場



鍋割峠からの富士山



コシバ沢源頭の登り



マルガヤ尾根急斜面の下降



マルガヤ尾根急斜面の下降



マルガヤ尾根 細尾根



マルガヤ尾根 下部植林

表丹沢最急登尾根 <二俣→本沢→本沢界尾根→鍋割山稜～小丸尾根→二俣>

2022.4.8



本沢出合



本沢堰堤の高捲



本沢 F1 左岸尾根取付き



本沢界尾根取付の岩場



本沢中間部の河原に降りる



本沢 F1 左岸枝尾根の急登



本沢界尾根取付へ



本沢界尾根下部の急登



本沢界尾根中間部の急登



本沢界尾根 コケリンドウ



小丸尾根から



本沢界尾根終了点直下



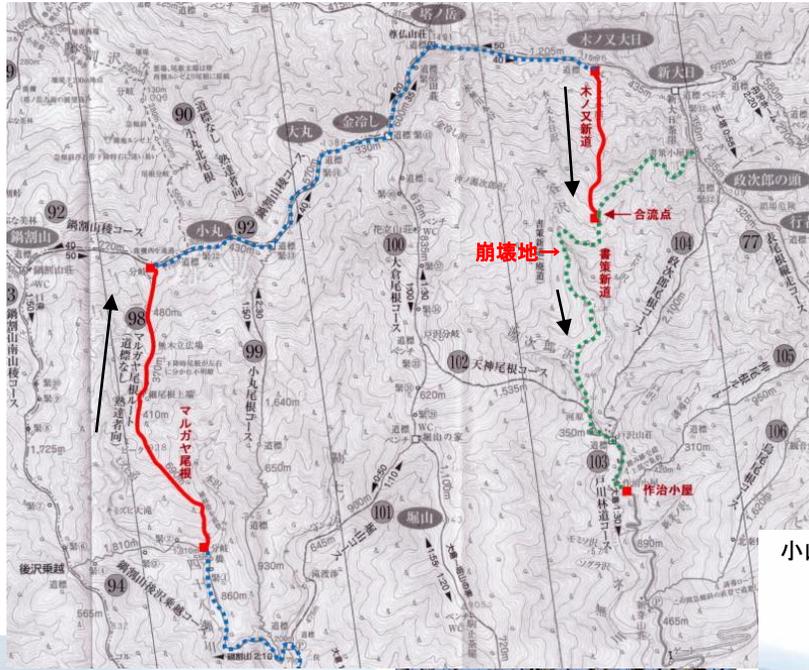
本沢界尾根最上部松並木



本沢界尾根上部

＜ 県民の森→マルガヤ尾根→鍋割山稜→塔ノ岳→木ノ又尾根→戸沢 ＞

2018.4.20



書策新道崩壊地



書策新道崩壊地



崩壊地手前の沢の中
書策新道日本カモシカ



拡大

小山 貴：京都大学医学部教授を案内



塔ノ岳山頂



木ノ又尾根



木ノ又尾根



↓マルガヤ尾根終了点↑



鍋割山稜



マルガヤ尾根



マルガヤ尾根



マルガヤ尾根



マルガヤ尾根登り口

新緑と花の < マルガヤ尾根 → 鍋割山稜 → 源次郎尾根 → 戸沢 > 2023.4.23



↑マルガヤ尾根 928mピーク



↑マルガヤ尾根 アセビのアーチ



マルガヤ尾根



ミツバツツジ・アセビ (黄・橙・深緑) ↑↓



↑マルガヤ尾根 タチツボスミレ



↑マルガヤ尾根
オオシマザクラ



↑マルガヤ尾根
ミツバツツジ



マルガヤ尾根急斜面



マルガヤ尾根 アセビ



↑マルガヤ尾根 オオシマザクラ



戸川林道
フジ



↑源次郎尾根下降口 マメザクラ



↑源次郎尾根 崩壊地の最上部



マメザク



オオシマザクラ



書策新道↑フタリシズカ



↑戸川林道 ウツギ

晩秋と紅葉の < 寄沢→コシバ沢→鍋割山→林業道→寄 >

2019.11.9



寄 沢



寄沢の渡渉



寄沢の崩壊地



コシバ沢入渓点



↑ コシバ沢の紅葉 ↓



コシバ沢山腹



地獄ザリ出合



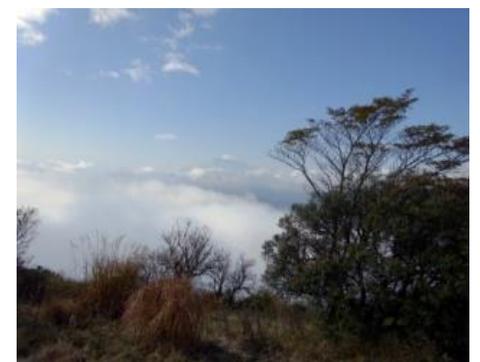
コシバ沢



鍋割峠の道標



鍋割峠から蛭ヶ岳方面

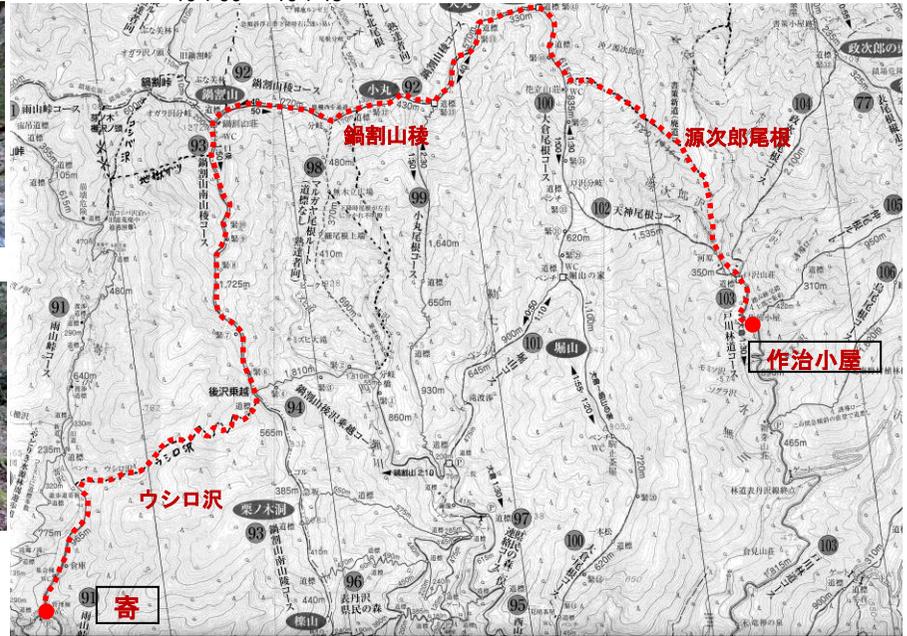


鍋割山頂

晩秋の < 寄 → ウシロ沢 → 鍋割山 → 鍋割山稜 → 源次郎尾根 → 戸沢 > 2017.11.12
 7:00 8:50 - 9:00 10:00 - 10:45 11:06



↑ウシロ沢出合



ウシロ沢 遊行



↑源次郎尾根 上の草原



↑源次郎尾根 赤岩ノ頭



↑鍋割山稜からの蛭ヶ岳方面



↑鍋割山南山稜稜線



↑鍋割山南山稜出口



冬枯れの < 書策新道→木ノ又尾根→書策新道 >

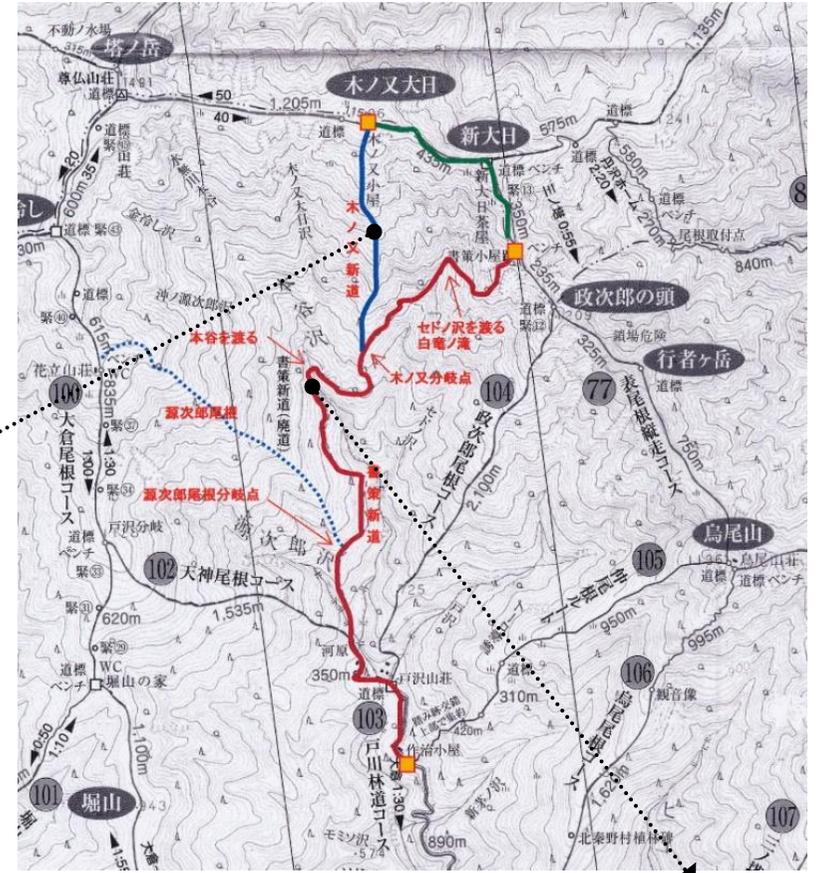
2015.3.25



↑ 書策小屋跡



↑ 木ノ又上部



↑ 木ノ又尾根中間部崩壊尾根



↑ 木ノ又尾根上部急斜面トラバース



↑ 木ノ又尾根中間部



↑ 木ノ又尾根下部



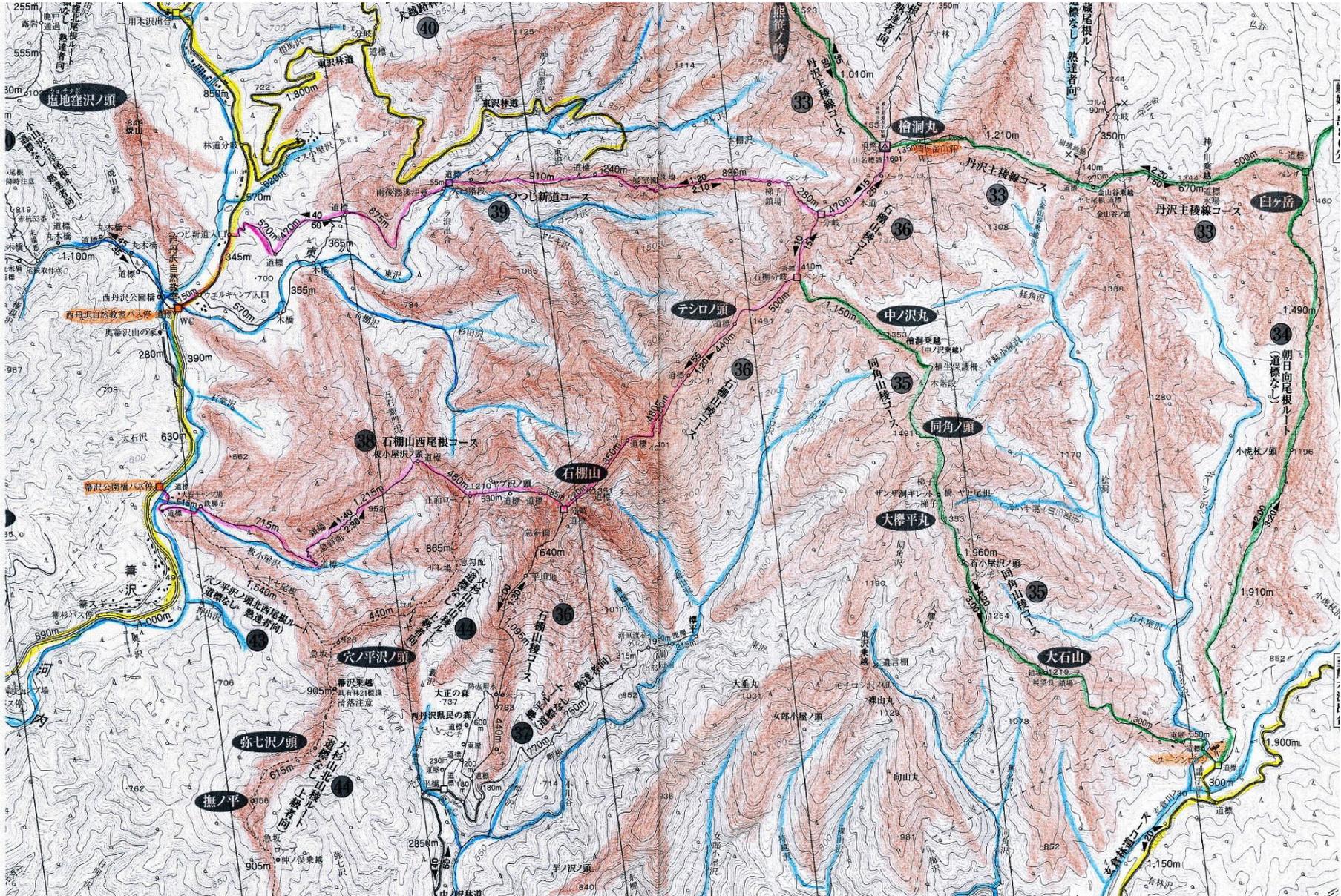
↑ 書策 / 木ノ又 分岐点

← 様相は常に変化している

→ 書策新道 崩壊地横断



西丹沢 < 檜洞丸周辺地図 >



雨山峠越え～同角山稜～西丹沢 (一日コース)

2017年 3月25日 = 寄沢～雨山峠～ユーシン～同角山稜～石柵山稜分岐～つつじ新道～西丹沢

06:50 渋沢駅からタクシー (約3,000-) 15:00 新松田行バス = 15:40発

くがんばんりコース (約17km)

積雪=5cm
チェンソークチェーン装着

4月15日に会った日本カモシカ

新松田行バス = 15:40発

つつじ新道からの富士山
 つつじ新道
 熊笹ノ峰 1523
 大弁 1288
 小弁 1238
 熊笹ノ峰 1523
 大弁 1288
 小弁 1238

白ヶ岳を過ぎ神ノ川方向
 白ヶ岳 1460
 神ノ川

白ヶ岳から蛭ヶ岳方向
 蛭ヶ岳 1673
 蛭ヶ岳山荘

丹沢山
 丹沢山 1567.1
 丹沢山荘

塔ノ岳
 塔ノ岳 1386
 塔ノ岳山頂

源次郎尾根
 源次郎尾根

三ノ塔
 三ノ塔 1204.8
 三ノ塔山頂

作治小屋
 作治小屋

熊木沢を見下ろす
 熊木沢

仲尾根草付から塔ノ岳方向
 仲尾根草付

仲尾根から大倉尾根越しの富士山
 仲尾根

仲尾根草付上部 (後方: 大倉尾根)
 仲尾根草付上部

作治小屋を出発 (後方=塔ノ岳)
 作治小屋

仲尾取付植林帯を抜ける
 仲尾取付植林帯

三ノ塔山頂望台
 三ノ塔山頂望台

大倉からバス
 大倉

2017年

5月4日=西丹沢~檜洞丸~白ヶ岳~蛭ヶ岳~丹沢山~塔ノ岳~源次郎尾根下降~作治小屋 (泊)
 08:40 丹沢湖
 18:20 作治小屋

5月5日=作治小屋 (泊) ~仲尾根~鳥尾山~三ノ塔~三ノ塔尾根下降~大倉
 09:00 作治小屋
 14:00 大倉



2019年12月4日

寄沢 ~ 雨山峠 ~ 玄倉林道 ~ ユーシン ~ 同角山稜 ~ つつじ新道 ~ 西丹沢
 (6:45) (8:45) (9:35~45) (14:00) (16:05)



＜ 寄沢→雨山峠→ユーシン→同角山稜→檜洞丸（泊）→犬越路→用木沢→西丹沢 ＞ 2019.2.10～11



寄沢



雨山沢下り



ユーシンロッジ



大石山から同角方面



青ヶ岳山荘



檜洞丸山頂



同角の下り



大石山の下り



青ヶ岳山荘



檜洞丸下り



熊笹ノ峰下り



犬越路へ



用木沢下り

＜ 寄沢→雨山峠→ユーシン→同角山稜→檜洞丸→つつじ新道→西丹沢 ＞ 2019.11.30



雨山峠



荒れた玄倉林道



ユーシンロッジ



大石山登り



同角の下り



同角ノ頭



大石山



大石

大石山の
大石



石棚山稜合流点



つつじ新道



ゴーラ沢出合の渡渉点



ミツマタの蕾

〈 神ノ川→犬越路→丹沢主脈→熊笹ノ峰コル→矢駄尾根→神ノ川 〉 2017.9.3



神ノ川 → 犬越路



神ノ川 → 犬越路



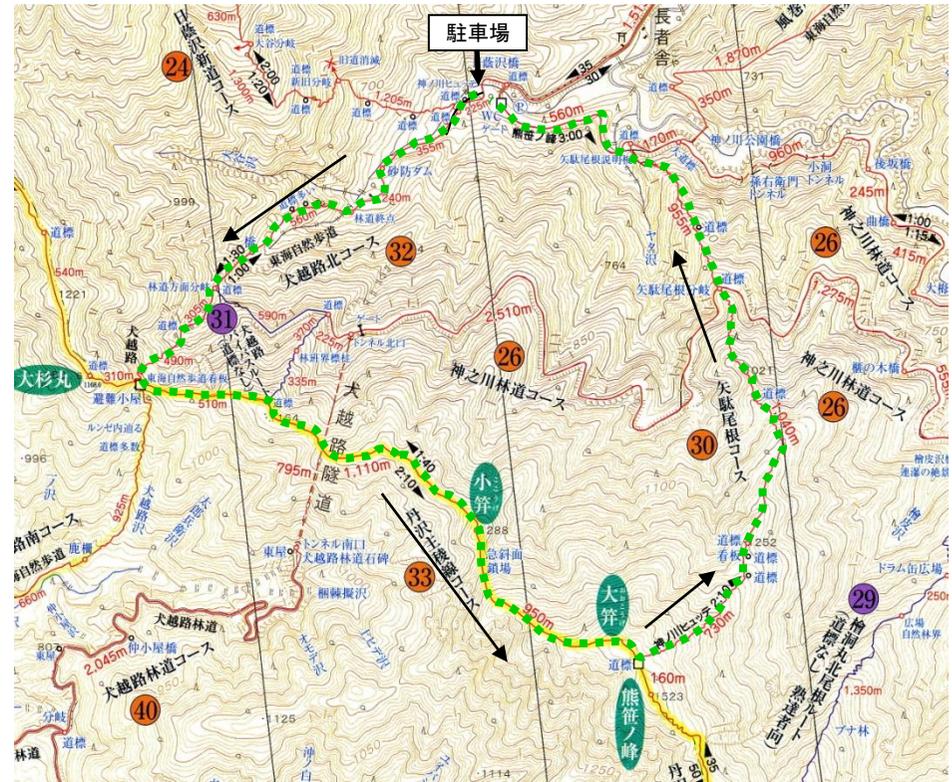
犬越路



主脈縦走路：小箕～大箕周辺の鎖場



矢駄尾根



〈 箒沢公園→石棚山稜→檜洞丸 (青ヶ岳山荘泊) →つつじ新道→西丹沢〉 2017.3.19 - 20



青ヶ岳山荘からの日の出



つつじ新道からの富士山

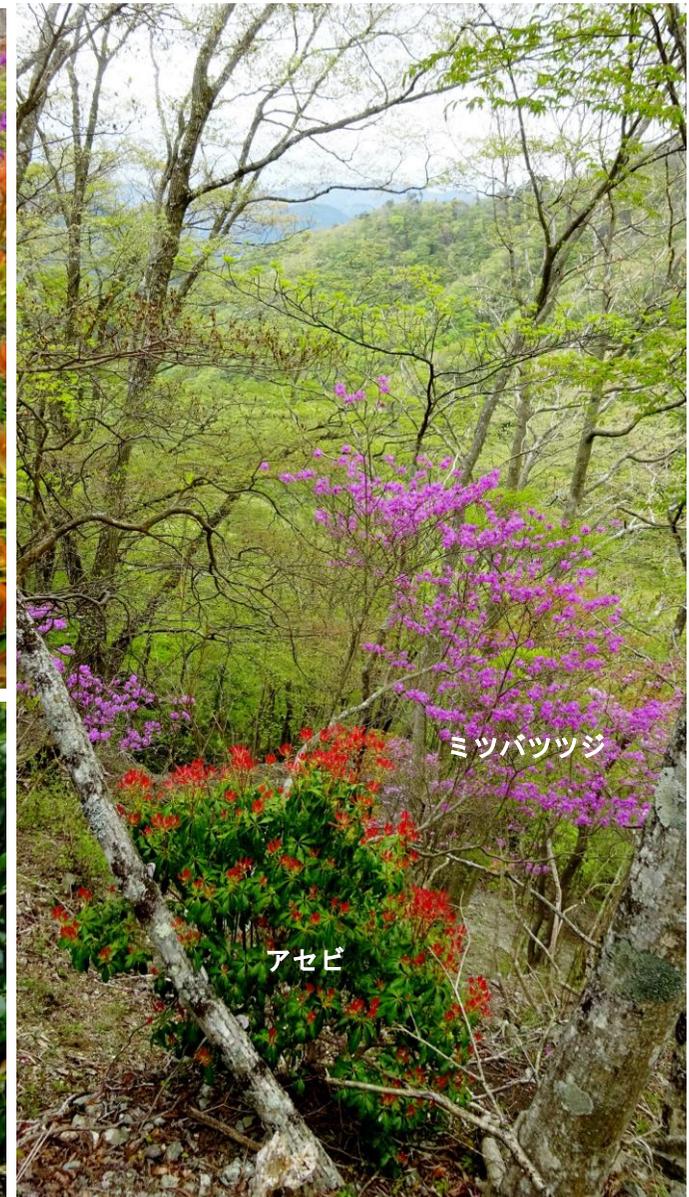


ブナの大木 (ブナ科、ブナ属、落葉広葉樹)



石棚山稜

マルガヤ尾根 <アセビ (馬酔木) & ミツバツツジ > 2023.4.23



源次郎尾根 <マメザクラ> & マルガヤ尾根 <オオシマザクラ>

2023.4.23



表尾根

政次郎尾根

マメザクラ

木ノ又尾根

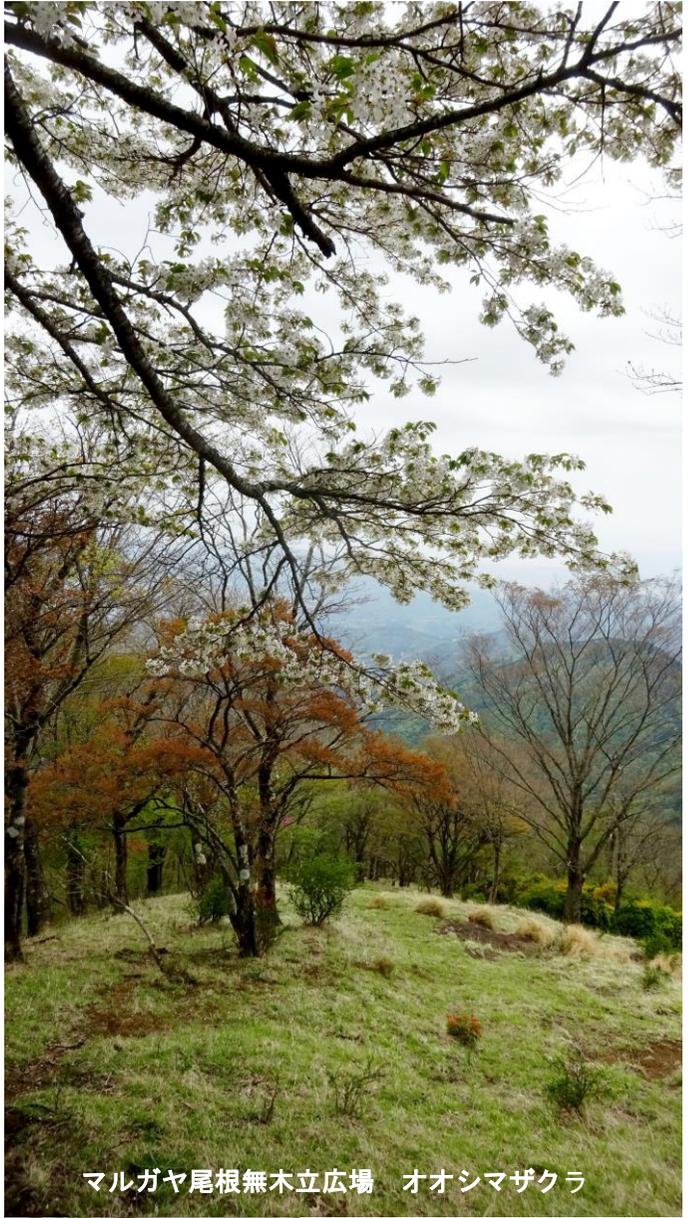
源次郎尾根赤岩ノ頭



マメザクラ



オオシマザクラ



マルガヤ尾根無木立広場 オオシマザクラ



丹沢の貴婦人

絶滅危惧種 I B 花言葉＝あなたの声が聴きたくて

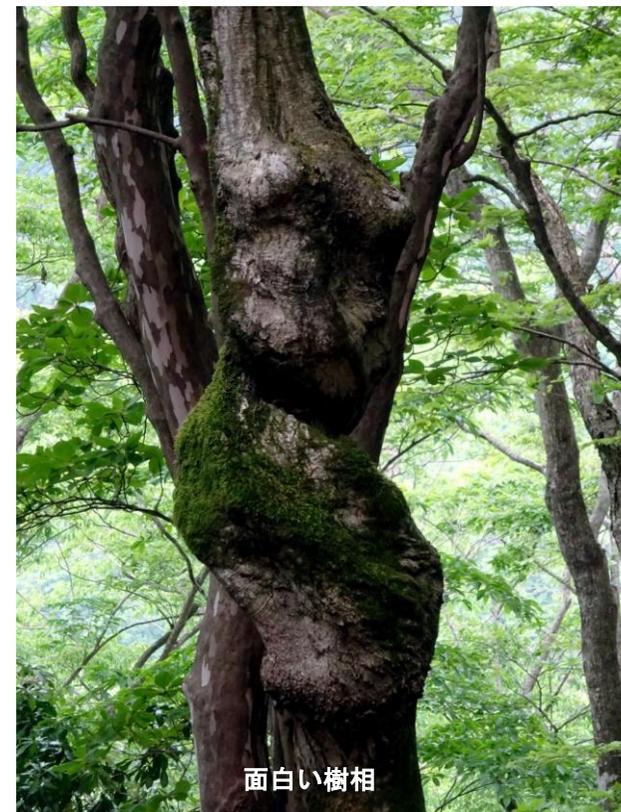


烏尾山仲尾根に咲く <ヒメウツギ&アゲハチョウ >

2021.6.13



春の小丸尾根 < 樹・花・茸・イチゴ > 2021.5.29



← ヤマボウシ
→ ミツバツツジ



← ヒトクチャタケ
→ クサイチゴ



春の源次郎尾根 < 草原の展望と花 >

2021.5.29



三ノ塔

三ノ塔尾根

政次郎尾根

烏尾尾根

仲尾根



ヤマツツジ



コケリンドウ



ジシバリ



カマツカ



ムラサキサギゴケ



↑ 寄沢を離れてコシバ沢へ向かう
↓ 鍋割山頂からの展望



↑ 鍋割峠からコシバ沢側の展望



↑ 鍋割峠の道標



早春の < 寄沢→コシバ沢→鍋割山→マルガヤ尾根 > 2021.4.27



コシバ沢入溪 (滝はない)



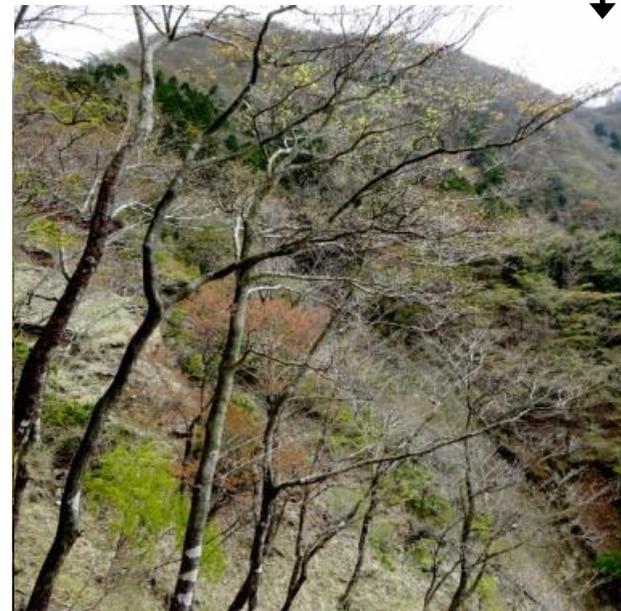
地獄ザリ出合 (知る人ぞ知る!)



コシバ沢山腹ルート取り付き (踏み跡あり)



鍋割峠からの西丹沢方面



コシバ沢上部から鍋割山方面



沢の中に咲く ミヤマケン

雪の三ノ塔で出会い3ヶ月後 < アメリカ縦断途上で死亡した森田利佳さん > 2017.4.3

拙著『烏尾山仲尾根物語』より

2017年7月27日の国内TVは、NHKをはじめとした各局一斉に、「森田利佳さんアメリカでの死亡」を報じました。

電子新聞が、その後を追います。

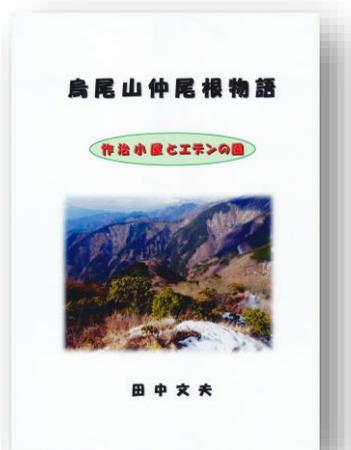
2017年7月24日、アメリカ・カリフォルニア州・キングスキャニオン国立公園内の標高約3,000mの川で、ハイカー・グループにより、川で沈んでいる遺体が発見された、と報じたのです。パシフィック・クレスト・トレイルを歩いているさなか、誤って川へ転落したらしく、事件ではなく、事故らしかった報道に、ほんの少しの安堵を覚えます。
(犯罪に巻き込まれたのではなさそうだから)

森田さんは約半年をかけてアメリカ縦断を計画され、5月16日に日本出発、11月3日に帰国する予定でした。

出発が夕刻（アメリカン航空16:25羽田発～サンディエゴ行き）のため、昼食を有楽町交通会館の回転展望レストランでご馳走し、わずかな饞別を渡します。

「海外に出て、一番大切なのは生命、二番目がパスポート、その次はお金」・・・と言って！

※現在も「追悼」として残されています



森田利佳さんに出会ったのは2017年4月3日(月)

雪の三ノ塔から烏尾山へ降る途中でした。雪がふくらんだ曲がり角に、一人ボンヤリと立ちつくしている姿に不安を覚えます。初春とはいえ、ドカ雪がしっかりと残る表尾根に、一見、高校生かと思間違うような装いが気になり、声を掛けてみます。

返事の概要は、①＝アメリカ縦断のためにトレーニングで、大阪から来て赤羽に泊まっている、②＝表尾根を塔ノ岳まで登り、大倉尾根を降る予定、③＝雪山は八ヶ岳を登った経験があるが、丹沢は初めて、④＝山のほかにトレイルランニングの大会に出たことがある、⑤＝ヘッドランプ、ピッケル、ストックはなく、軽アイゼンだけの軽装備で、食料も少ない・・・等です。



当日の三ノ塔から烏尾山～表尾根～塔ノ岳～大倉尾根方面
(稜線は吹き溜って、膝下ラッセル程度)

3月末に降ったドカ雪は、丹沢の稜線に冬場よりも多く残り、水気が多くて重たい雪質です。出会った時刻は10:40頃、これから塔ノ岳～大倉尾根は夕暮れが予想されます。天候と、途中からのエスケープルートを知らない彼女に、私は次の提案をします。

「私は次の烏尾山から仲尾根を下りますが、よかったらご一緒にどうですか・・・」と。

彼女は素直に受け入れます。三ノ塔から烏尾山への降りは急斜面のため、いつも私がザックに携えている6Φ10mロープを彼女に結びます。さらにアイスパイル(ピッケル+ハンマーの短いもの、次の写真で手にしている)を彼女に持たせ、私が先導して降ります。

平日で月曜日のために、烏尾山荘は閉鎖。休むことなく、仲尾根へと分け入ります。

ルートを熟知している私が先頭で降ります。最初は膝までもぐる雪の急斜面ですが、体幹バランスが良い彼女は、難なく後ろに続きます。

さしたる困難もなく、雪がまばらとなった“エデンの園”に到着。私が丹沢で一番好きなパワースポット！



三ノ塔降り口にあるお地蔵さま





雪がまばらな“エデンの園”に立つ、手にしているのがアイスバイル



“エデンの園”に立つ私と降り方向（撮影＝森田）

当日は月曜日なので、作治小屋は閉まっています。“丹沢の上高地”を見上げる外のテーブルに、残りの食料を出し分け合って食べます。

森田さんはグラフィックデザインを8年続けたが、適性とは思えず悩み続け、思い切って会社を辞めて、単身でアメリカ縦断に向かう決断をしたと話します。

私はお節介ではありませんが、いろいろとあった私の人生経験談を、短い時間で彼女に語りました。

デザイン＝設計のこと、離婚と再婚、ヒマラヤ遭難死亡事故、リスク・マネジメントとクライシス・マネジメントとのこと、子供たちへ伝えたいこと・・・等々。（拙著『頂のかなたに』）

途中から、涙を流して聞き入る彼女の姿からは、素直さと純真さが伝わってきます。

そういえば、まだ残されていたフェイスブックの「お気に入り」欄に、“孤高”を好む気質を見つけて、納得できました。

～～～ それゆえに悩み、会社を辞め、アメリカ縦断に出掛けたのですね！

一期二会でしかなかった森田さんとの交流でしたが、“真に幸せになってほしい”と願う女性でした！自分探しの旅の途上で逝去されてしまった彼女の丹沢足跡の一つを、実名と顔写真をマスキングすることなく、私の責任で開示しました。

作治小屋から大倉に向かう戸川林道の路傍に、足が傷ついたアナグマがいました。逃げようとしたのですが、声を掛けるとこちらに向きを変え、警戒しながら近づいてきました。



アナグマ（撮影＝森田）



帰りの秦野戸川公園チューリップ畑にて



《2017.04.03 22:08 森田さんからのメール》

偶然の出会いにもかかわらず、田中さんの優しさに感動しました。一日で色々な学びをさせていただきました。リスクをちゃんと考えた行動を心掛けます。両親にもこまめに、計画をしっかりと話していきたいと思います。

《2017.04.04 15:47 田中の返信メール》

私の雑多な話の中で、しばし涙されていたあなたを見ると、女性らしい優しさの一面が垣間見られ、ぜひ幸せになってほしい人だと感じました。短い時間の中でいろいろな話をしましたが、アメリカ縦断に際しては、あなたの直感を第一に信じて行動、判断されることを願うものです。

私が最初にヒマラヤへ出掛けたのは28歳の時(1974年)でした。この時は、私の妻も一緒に、夫婦で本格的ヒマラヤ登山は日本人で初と、朝日新聞が全国報道をしました。しかし終わって帰国したところ、妻からは「離婚してほしい」という、思いもしない言葉でした。

私は登山に集中していましたが、妻は私と別な夢を見ていたようです。最初のヒマラヤ登山体験は、私の頭をすっかりクリアーにさせ、理性、感性ともに極めて高揚した時であり、私は妻の申し出を冷静に受け入れました。

その哀しみの中から湧き出した勇気が、4年後(1978年)の再挑戦へとつながります。

32歳でふたたび同じコースに挑戦しましたが、今度は3隊員死亡という、遭難体験でした。

そんな哀しみの中で行ったエベレスト・トレッキング(私はコンダクター)で出会ったのが、現在の妻と難波康子さん(1996年エベレスト日本人女性二人目の登頂者、下山中死亡)でした。難波さんも、33歳のあなたと同じ時節の“自分探しの旅(ワンダラー)”でした。

それから約40年が過ぎた昨日、あなたと雪の丹沢で巡り会いました。同じような年頃で、未知なる体験を求めて旅立とうとされている貴女でした。昨日は短い時間の中でいろいろ申し上げましたので、理解できない事も多かったと思います。

何よりも真実に直面することの大切さは、十二分に理解できます。昨日も申し上げましたが、『**取り返しのつかない事態＝クライシス・マネジメント**』は避け、『**取り戻すことができる事態＝リスク・マネジメント**』は慎重に判断されるよう、私の体験からお知らせできたら・・・と、思ったところです。**何があっても、生きて帰るように!!!**

真実を求めている人は、この世のどこかに存在します。いつか巡り会え、喜びが分かち合えたら最高です。苦難の末に巡り会い、一瞬で分かり合えた現在の妻と、私は**40年**を共にできる幸運に恵まれました。そんな私と雪の丹沢で巡り会ったあなたにも、ぜひ幸運が届くよう祈念するばかりです!!!

何かありましたら、いつでも、どこからでも、ご連絡下さい!!!
Good luck! Good luck! Good luck!

《2017.04.10 12:40 森田さんからのメール》

とても心のこもったメールをいただき、ありがとうございます。お返事が遅れ、すみませんでした。

とても壮絶な人生で・・・、辛い過去を乗り越え奥様と運命の出会い。そして**70歳**を過ぎてもパワフルに生きられる姿勢に、すごく惹かれました。わたしも、パワフルに、人生を前進していきたいです!

わたしは**33歳**という歳までずっと、朝から終電近くまで働き、職場ではただパソコンに向き合っているだけで一日が終わってしまう虚しさに、どこか心が疲れていました。その中で、**29歳**の頃に出会ったのが、山でした。

初めて登った**3月**の赤岳で見た全ての景色に感動し、身体全体が開放される喜びを感じ、それから幾度も山へ行くようになりました。仕事の限界を感じていた去年、思い切って仕事を辞める決意をしました。プレッシャーを感じながら、辛くても我慢し続けると、どこかで感情が死んでしまいそうで怖かったんです。

なので、知らない土地で大自然に囲まれて、感情も感性も、気持を解放してあげたいと思い、アメリカ行きを決めました。田中さんの忠告を大切に、クライシス・マネジメントとリスク・マネジメントをしっかり意識し、直感を信じていこうと思います。

木曜日**(4/6)**の朝大阪に帰って来てから、疲れなのか風邪なのか、寝ても、寝ても眠気が抜けず、今日まで自宅でゆっくりしていました。落ち着いてから返事を書こうと思っていたら、こんなに日にちが経ってしまいました。

丹沢で、またお会いしたいです。あの日は本当に不思議な巡り合わせで、出会ったことに感謝しています。林道で出会った小動物が“アナグマ”だったとは、驚きです。

田中さんも、元気で穏やかな春を楽しんで下さいね(^^)

《2017.04.03 三ノ塔～仲尾根を登ったわけ》

4月1日(土)、日本山岳文化学会有志による、秦野戸川公園で開園**20周年**記念特別講演会を実施しました。併せて**7万本**のチューリップ鑑賞もおこなう計画だったのですが、丹沢はすっかり雪化粧。チューリップはまだ蕾状態でした。

それならば雪の丹沢を登らぬ手はないと思い、**2日後の4月3日(月)**、一人で三ノ塔尾根～烏尾山仲尾根に行ったわけです。

そこで森田さんと偶然な出会い!

森田利佳さんの早すぎたご逝去に、魂のやすらかなること願い・・・
合掌!!!

【追記 2025.12.21】

この稿は、拙著『**烏尾山仲尾根物語**』に収録したものです。森田さんのご家族や友人・知人が分からず、彼女が丹沢に残した足跡を記録しておきたいと、前記拙著に実名収録したものです。

丹沢で忘れてはならない一人の女性として、『**老いて10年 丹沢NOTE**』にも再収録しておきたいと思った次第。

どなたかご存知の方に繋がれば・・・ありがたいものです!!

〈 三ノ塔お地蔵様の衣替え 〉

秦野市在住・高橋宏雄さんご夫妻により季節ごとに衣替え



2016.1.31



2017.4.3



2018.1.24



2018.2.15



2018.6.17



2019.1.13



2018.10.11



2018.9.16



2018.7.8



2019.3.10



2019.4.20



2019.5.18



2019.6.2



2020.3.30



2020.4.19



2020.5.17



2020.11.4



2020.9.29



2020.8.7



2021.5.24



2021.6.9





2021.9.7



2022.1.9



2022.5.22



2022.5.8



2022.3.20



2022.7.18





2023.3.4



2023.4.29



< 作治小屋からの展望 >

エピローグ

2025年11月16日・記

一人ひとり“**生命の輝き**”は流れ星のように、“**人生**”という“**束の間の軌跡**”を画いて宇宙へと消え去っていく。

その束の間を記録に留めて残すことには、いかなる意味があるのだろうか？

デジタル時代が幕を開け、アナログ手法が時代遅れと言われ始めた昨今にあり、電気通信技術者から出発した私は、アナログとデジタルを融合させる**複素数的視点**から処々思考しているのだが、“**複素数**”は数学概念のために一般的な理解が難しいようだ。

端的に述べれば、**デジタル情報**として瞬時、瞬時をサーバーに残す記録方式は、エンコード（入力方式）とデコード（出力方式）の変換方式（プロトコル）が変われば、せつかくの記録も取り出しできなくなり、「**記録**」は消失してしまう。

また変換するための機器には電源電力が必要となり、電気の無い環境では使用できない。

しかしその「**記録**」が「**紙に印されたアナログ情報**」であるならば、何の変換装置を用いなくても肉眼で即座に再認識することができ、電力を必要としないで、いつでも、どこでも、誰にでも、リテラシー（解読力）の違いこそあれ、情報認識・伝達ができる。

その違いから、**デジタル情報**はホームページで発信しつつ、**アナログ情報**は紙ベースの冊子印刷を組み合わせることにより、「**アナログ情報+デジタル情報=複素情報**」として総体的に情報活用することが可能となる。

従って本冊子はアナログ情報としての存在意味を成し、デジタル情報内容は、「**山と文化のホームページ**」からインターネット検索により解読することができる。

<http://mountain-culture.com/>

68歳で生業を終い、その後10年間で丹沢山中を歩き回ると、若き頃には気づかなかった様々な足元が見えてきた。

それらの断片的部分を冊子に集約することで、丹沢が秘める様々な様相を他の人々にも伝え、残すことができる。

特に① 超古代の富士山（不二山）神話から日本と世界の神話的繋がりが垣間見えたり、② 富士山の日の出方向に拡がる丹沢山塊は「**蓬莱山**」と呼ばれたり、③ 丹沢山塊を包み込む水の流れ＝相模川であったり、④ 超古代の「**寒川**」は富士山麓水源から最初に流れ出す川であったり、⑤ 秦の始皇帝が遣わした「徐福一行」との関わり・・・等々、正規の教育では学ぶことができない歴史の断片に想いを馳せることができた。

小学5年生で大山の頂きに立ち、丹沢の山並みを見渡した時に、まさかこれまでに広範な文明・文化の関わりがあったなど、全く想像できないことだったし、誰一人教えてもくれなかった。

「**学ぶ**」ということは、学校教育諸コースを修了する事だけではなく、自らその中に立ち入って観察・経験し、自らの頭で考えて再構築することに尽きることを、「**60年間山登り**」を通して実感することができた。

学び、再構築した成果を「**作品**」として残すということは、子を産めない男性にとっては“**我が子**”に類する“**情報遺伝子=ミーム**”（meme）のような存在となる。

山中で出会った多くの方々、その方々を丹沢バリエーション・ルートに案内することができた幸せ！作治小屋で津々木さんと交流できた幸せ！中村純二先生を中心とした丹沢山麓山岳文化講座では、南極越冬からヒマラヤ登山、山岳ランニング等々までを秦野戸川公園パークセンターや作治小屋でおこなった幸せ！

記憶だけでなく、デジタル+アナログ「**記録**」により、この幸せが伝えられたら・・・さらなる幸せを招くことでしょう！！

山行記録表と体力データ

※ 同行ガイドは全て無償ボランティア

年	入山日数	体 調	特 記 事 項
2013	20	腰痛がひどく、電車・バスの中で立ち居	最初は腰痛で三ノ塔尾根が登り切れず途中下山。それでも10月＝北ア・八方尾根を登った
2014	46	腰痛（コルセットを試行錯誤するが、いずれも不可）	2月＝日本山岳文化学会有志最初の集い。9月＝八ヶ岳阿弥陀岳南稜～御小屋尾根単独登攀
2015	47	腰痛（コルセットを試行錯誤するが、いずれも不可）	10月＝仲尾根で岩楯さんご夫妻と初対面
2016	49	腰痛（コルセットを試行錯誤するが、いずれも不可） 7月＝坐骨神経痛発症（腰・脇腹・左足）	9月＝八ヶ岳阿弥陀岳南稜～赤岳～横岳～硫黄岳～美濃戸をガイド 12月＝長野県上田市、日本スカイランニング協会で「登山と山岳スポーツのちがひ」を講演
2017	50	腰痛、坐骨神経痛 10月＝左右の白内障手術	6月＝作治小屋に太陽光発電LED照明設置 7～9月＝八ヶ岳、北岳、槍ヶ岳・奥穂高岳をガイド
2018	47	腰痛、坐骨神経痛 11月＝右脚・膝（浮腫み・痛み）発症	2月＝三ノ塔山頂で京大医学部教授・小山先生と初対面、以降バリエーション尾根をガイド 10月＝作治小屋に携帯電話用アンテナ、増幅器を設置
2019	58	腰痛、右脚膝痛み（コルセット、サポータは不可）	5月＝作治小屋風呂増築LED照明設置
2020	48	腰痛、坐骨神経痛 右脚膝痛み（左足を軸として登る）	新型コロナウイルス蔓延により外出自粛、10月21日＝中村先生ご逝去、同日＝書策新道下降中、熊に喰われた直後の鹿の死骸に出会う（砂川さんガイド）、 12月＝神奈川県警依頼の現場検証（登山インストラクター顧客転落死事件）と報告書提出
2021	43	腰痛、坐骨神経痛 右脚膝痛み（左足を軸として登る）	新型コロナウイルス蔓延により外出自粛、2月＝表丹沢林道で鹿を救出、9月＝サガミジョウロウホトトギスを発見、9月＝横浜地検小田原支部・検事の現場見分帯同、意見書の説明
2022	29	脊柱管狭窄症・腰椎・股関節不整合と痛み 鎮痛剤（ボルタレン）を服用して登る	10月＝右股関節が痛く三ノ塔尾根牛首で折り返す 12月＝作治小屋物置新設によりLEDランプ増設
2023	40	—— 同上 —— 12月16日をもって60年間にわたる登山終結	8月＝孫の高校野球（仙台育英）夏の甲子園大会決勝戦応援（慶應が優勝） 上記の様子は『つながる生命の物語』として国立国会図書館蔵書とする

2013	6	9	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	<丹沢に還る>	
		23	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独		
		30	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独		
	7	7	丹沢	三ノ塔～政次郎尾根	単独		
		15	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独		
		21	丹沢	三ノ塔～政次郎尾根	単独		
		28	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独		
	8	11	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独		
	9	28	丹沢	三ノ塔～塔ヶ岳～大倉尾根	単独		
	10	6	丹沢	鍋割山～大倉尾根		ガイド	小屋泊、初冠雪
		11～14	唐松岳	八方尾根（往復）	千鶴子		
		27	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独		
	11	4	丹沢	雨山峠～鍋割山～大倉		ガイド	雨
		16	丹沢	雨山峠～鍋割山～大倉尾根	単独		
		23	丹沢	三ノ塔（往復）	単独		
	12	21	丹沢	三ノ塔（往復）	単独		
		30	丹沢	三ノ塔（往復）	単独		

2014	1	4	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	
		12	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	
		18	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	
	2	1	丹沢	三ノ塔 (往復)	ガイド	
		9	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	
		19	丹沢	おおすみ山居、スポーツセンター	中村先生ご夫妻、佐々木、西本、砂田、相原、有	日本山岳文化学会有志の集い
	3	22	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	
		9	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	
		15	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	
		21	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
	4	29	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
		5	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
		12	丹沢	新茅ノ沢～烏尾尾根	単独	
		27	丹沢	三ノ塔～政次郎尾根	単独	
	5	3	丹沢	三ノ塔～塔ヶ岳～天神尾根	単独	
		10	丹沢	天神尾根～大倉尾根	単独	
		17	丹沢	源次郎沢～大倉尾根	単独	
		25	丹沢	ヤビツ峠～表尾根～政次郎尾根	ガイド	
	6	31	丹沢	源次郎沢～天神尾根	単独	
		14	丹沢	三ノ塔～塔ヶ岳～天神尾根	単独	
	7	12	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
		19	丹沢	鍋割山	有、朋美	雨で大倉へ
		21	丹沢	鍋割山～塔ヶ岳～烏尾尾根	単独	
		27	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
	8	3	丹沢	三ノ塔～政次郎尾根	単独	
		16	丹沢	三ノ塔～政次郎尾根	単独	
		23	丹沢	三ノ塔 (往復)	単独	雷雨
		31	丹沢	三ノ塔～塔ヶ岳～天神尾根	単独	
	9	13～14	八ヶ岳	阿弥陀岳南稜～御小屋尾根	単独	テント泊
		21	丹沢	三ノ塔～塔ヶ岳～天神尾根	単独	
		27	丹沢	三ノ塔～政次郎尾根	単独	
	10	4	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
		11	丹沢	鍋割山～塔ヶ岳～烏尾尾根	ガイド	
		18	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
		19	丹沢	ヤビツ峠～河原	NET山岳会	芋煮会参加
		25	丹沢	三ノ塔～政次郎尾根	単独	
	11	5	丹沢、大倉	紅葉を眺めながら、抹茶と蕎麦を食し、チューリップ球根を植える	中村先生ご夫妻、佐々木、西本、砂田、和田、高崎、田中	日本山岳文化学会有志の集い
		8	丹沢	三ノ塔～烏尾尾根	単独	
		15	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	
		22	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	紅葉
		30	丹沢	青年の森～小丸尾根～塔ヶ岳～三ノ塔	単独	濃霧
	12	6	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	
		14	丹沢	仲尾根～烏尾山～烏尾尾根	ガイド	晴れ→小雪(積雪なし)
		21	丹沢	三ノ塔～往復	単独	
		27	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	

2015	1	4	丹沢	三ノ塔～往復	単独	元日の降雪は溶けていた	
		11	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独		
		18	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	快晴、5.5H	
		24	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	ガス・風、5H	
	2	1	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	快晴、戸川林道=1℃	
		7	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	ガイド	晴れ→曇り	
		14	丹沢	マルガヤ尾根～鍋割山～西山林道	単独		
		20	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独	三ノ塔で雪が舞う	
	3	28	丹沢	源次郎尾根～花立～天神尾根	単独		
		14	丹沢	書策新道～三ノ塔尾根	単独		
		22	丹沢	書策新道～烏尾山～烏尾尾根	ガイド		
	4	28	丹沢	書策新道～木ノ又新道～書策新道	単独		
		2	丹沢	弘法山	倉田、他多数	桜鑑賞	
		11	丹沢、大倉	大倉・講演会(ほうおう座流星群)	中村先生、53名	日本山岳文化学会有志の集い	
		18	丹沢	仲尾根～書策新道(マンソウ鉢山跡)	川浪雅明		
	5	26	丹沢	書策新道～木ノ又新道～仲尾根	ガイド		
		2	丹沢	源次郎沢～源次郎尾根	単独	作治小屋09:20～作治小屋12:30	
		10	丹沢	マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又新道	マルガヤ尾根	ガイド	曇り
		17	丹沢	マルガヤ尾根～源次郎尾根	単独	晴れ→曇り	
		24	丹沢	書策新道～烏尾山～仲尾根	単独		
	6	30	丹沢	書策新道～木ノ又新道～仲尾根	単独	大倉07:40～大倉15:10	
		7	丹沢	作治小屋祭り	多数	モミノ懸垂岩見学	
		13	丹沢	源次郎沢	川浪雅明	曇り、田中の目が不調～F4から引き返す	
		28	丹沢	マルガヤ尾根～書策新道	マルガヤ尾根	ガイド	
	7	12	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	ガイド	仲尾根=小玉さん同行	
		26	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独		
	8	1	丹沢	寄～雨山～マルガヤ尾根下降	単独	新松田06:55～大倉14:35	
		9	丹沢	マルガヤ尾根～源次郎尾根	ガイド	晴れ→曇り	
		15	丹沢	書策新道～木ノ又新道～書策新道	単独	曇り	
		23	丹沢	書策新道～白竜ノ滝まで	川浪雅明		
	9	6	丹沢	三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降	単独	たまご茸	
		12	丹沢	小丸尾根～源次郎尾根下降	単独	たまご茸	
		20	丹沢	マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又新道	単独		
	10	4	丹沢	マルガヤ尾根～源次郎尾根	単独		
		12	丹沢	仲尾根～書策新道下降	単独	仲尾根で岩樞夫妻に会う	
		18	丹沢	マルガヤ尾根～源次郎尾根	ガイド		
		24	丹沢	三ノ塔尾根～表尾根～書策新道	単独		
	11	1	丹沢	マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又新道	塔ノ岳で川浪氏と合流		
		4	丹沢、大倉	大倉・講演会(ポルトガル紀行)	中村先生、27名		
		7	丹沢	仲尾根～書策新道下降	単独		
		15	丹沢、大倉	大倉	ガイド	雨で登山は中止	
		21	丹沢	マルガヤ尾根～小丸北尾根～塔ノ岳西尾根～塔ノ岳 ～木ノ又新道～書策新道	単独		
	12	29	丹沢	仲尾根～烏尾山～烏尾尾根	単独		
		5	丹沢	寄～地獄ザリ～鍋割山～マルガヤ尾根	単独		
12		丹沢	小丸尾根～塔ノ岳～木ノ又新道下降	ガイド			
19		丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山～マルガヤ尾根	単独			
26		丹沢	四十八瀬川本沢(界尾根)～源次郎尾根	単独	界尾根上部小雪が残る		

2016	1	9	丹沢	書策新道～仲尾根下降	単独	曇り	
		16	丹沢	書策新道～三ノ塔尾根下降	書策新道	ガイド	晴れ
		24	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独、仲尾根で宮本氏に会う		曇り→晴れ、膝下ラッセル
	2	31	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独		終日ガス、雨氷が見事、靴がもぐる程度の雪
		6	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根		ガイド	上部積雪=3cm程度、アイゼン不要
		10	丹沢	マルガヤ尾根～鍋割山～大倉		ガイド	快晴、稜線の残雪2～3cm
		16	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根	単独		ガス、積雪=3cm
		22	丹沢	書策新道～三ノ塔尾根下降	単独		曇り、積雪=0
		27	丹沢	源次郎尾根～鍋割山(往復)		ガイド	晴れ、積雪=あり
	3	5	丹沢	書策新道～木ノ又新道～書策新道下降	書策新道下降	ガイド	曇り・ガス
		13	丹沢	マルガヤ尾根～源次郎尾根	単独		ガス
		16	丹沢	三ノ塔尾根(往復)	高崎広子さんガイド		山頂積雪=あり
		21	丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山～マルガヤ尾根下降	コシバ沢	ガイド	ガス、小雪舞う
		26	丹沢	マルガヤ尾根～塔ノ岳～源次郎尾根下降		ガイド	ガス、稜線積雪あり
	4	2	丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山～マルガヤ尾根下降	単独		霧雨、濃霧
		9	丹沢、大倉	大倉・講演会(P29、チャラクサ氷河、スカイランニング)	中村先生、80名		日本山岳文化学会有志の集い
		16	丹沢	仲尾根～書策新道下降	書策新道下降	ガイド	
		23	丹沢	大倉～マルガヤ尾根～鍋割山北尾根～尊杉沢～棚沢ノ頭～丹沢山～塔ノ岳～大倉尾根～大倉	単独(26.8km、10時間25分)		終日濃霧、道間違え
		30	丹沢	本沢界尾根～小丸～塔ノ岳～木ノ又新道下降	単独		晴れ～曇り～霧
	5	7	丹沢	マルガヤ尾根～塔ノ岳～源次郎尾根下降	単独		
		22	丹沢	大倉～マルガヤ尾根～鍋割山北尾根～尊仏土ノ平～塔ノ岳西尾根～塔ノ岳～木ノ又新道下降	単独		快晴
		26	丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山～源次郎尾根～モミソ懸垂岩		ガイド	晴れ～曇り～ガス
		29	丹沢	新茅ノ沢～仲尾根下降	単独		左俣から仲尾根上部に抜ける
	6	4～5	丹沢	作治小屋祭り	約60名		
		10	丹沢	三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降	単独		烏尾山にて高橋宏雄さんご夫妻に会う
		18	丹沢	源次郎沢～源次郎尾根下降	単独		曇り～ガス
		24	丹沢	三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降		ガイド	小雨
	7	2	丹沢	マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又新道	単独		晴れ
		16	丹沢	大倉～マルガヤ尾根～鍋割山北尾根～尊仏土ノ平～塔ノ岳西尾根～塔ノ岳～木ノ又新道下降		ガイド	霧雨～ガス、大倉07:15～作治小屋14:35
		27	休養	坐骨神経痛発症			腰、側腹、左脚の強い痛み
	8	13	丹沢	本沢界尾根～小丸～大倉尾根～天神尾根下降		ガイド	霧
		25	丹沢	源次郎沢～源次郎尾根下降		ガイド	台風直後にて水量多し、F9、F10登る
	9	16～17	八ヶ岳	舟山十字路～阿弥陀岳南稜～赤岳(頂上小屋泊)～横岳～硫黄岳～赤岳鉱泉～美濃戸口		ガイド	曇り～ガス 晴れ
	10	9～10	丹沢	作治小屋泊～仲尾根～三ノ塔尾根下降	単独		作治小屋09:10～大倉12:20
		29	丹沢	三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降	単独		ガス～霧雨
	11	2	丹沢	作治小屋泊(中村先生を囲む会)	20名		囲炉裏を囲んで談話会
		3	丹沢	講演会(北海道の山=中村先生)	42名		朝、中村先生倒れる=救急車要請
		6	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根		ガイド	
		12	丹沢	仲尾根～烏尾山～三ノ塔尾根		ガイド	
		23	丹沢	マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又新道下降	単独		霧
		26	丹沢	作治小屋・芋煮会		ガイド	
	12	27	丹沢	作治小屋～仲尾根～三ノ塔尾根下降		ガイド	
		3	丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山～マルガヤ尾根下降		ガイド	
		10	丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山～源次郎尾根下降		ガイド	寄07:20～作治小屋14:30
		17	長野県	スカイランニング協会で講演(長野大学)			登山と山岳スポーツのちがいがい
	18	上田市	太郎山			ハイキング	
	31	丹沢	書策新道、モミソ懸垂岩	岩橋岳一		岩登り指導	

2017	1	7	丹沢	書策新道～木ノ又新道～書策新道下降	単独		快晴	
		22	丹沢	仲尾根～鳥尾山～三ノ塔尾根		ガイド		
	2	11	丹沢	マルガヤ尾根～源次郎尾根	単独		上部積雪=5cm	
		18	丹沢	寄～雨山峠～鍋割山～西山林道～大倉		ガイド	晴れ～曇り	
	3	25	丹沢	書策新道～木ノ又新道～政次郎尾根下降	単独			
		4	丹沢	マルガヤ尾根～源次郎尾根下降	単独		曇り	
		19 20	西丹沢	石棚西尾根～檜洞丸＝青ヶ岳山荘(泊) つつじ新道～西丹沢		ガイド	快晴、積雪=5cm程度 晴れ	
	4	25	西丹沢	寄～雨山峠～ユーシン～同角山稜～つつじ新道 ～西丹沢自然教室	単独		積雪=10cm程度	
		1	丹沢、大倉	大倉・講演会(公園20周年記念講演) P29登山＝田中、 スカイランニング＝岩橋、南極物語＝中村	中村先生、53名		日本山岳文化学会有志の集い	
		3	丹沢	三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根下降	仲尾根下降＝森田利佳さんガイド		森田さんは7/24アメリカ縦断中に死亡	
		24 30	丹沢 西丹沢	マルガヤ尾根～小丸～大倉尾根下降 つつじ新道～青ヶ岳山荘～犬越路～西丹沢	単独 単独	ガイド	快晴	
	5	4	西丹沢	つつじ新道～蛭ヶ岳～塔ノ岳～源次郎尾根～作治小屋	単独、蛭ヶ岳を過ぎてから佐藤幸子さん と合流、作治小屋(泊)		晴れ	
		5	表丹沢	作治小屋～仲尾根～三ノ塔尾根下降	単独		晴れ	
		14	丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山～塔ノ岳～木ノ又新道下降	単独		曇り	
		20	丹沢	寄～コシバ沢～鍋割山第2北尾下降～尊仏土ノ平～ 塔ノ岳西尾根～塔ノ岳～源次郎尾根下降	単独			
		27 28	表丹沢 西丹沢	寄～雨山峠～ユーシン～同角山稜～青ヶ岳山荘(泊) 檜洞丸～犬越路～西丹沢自然教室		ガイド	晴れ＝寄06:50～青ヶ岳山荘15:20 霧＝青ヶ岳山荘06:50～西丹沢自然教室10:20	
	6	4	丹沢	作治小屋祭り、仲尾根～三ノ塔尾根下降		ガイド		
		11	丹沢	書策新道～鳥尾山～仲尾根下降		ガイド	作治小屋に太陽光発電LED照明取付け工事を開始	
		17～18	丹沢	作治小屋に太陽光発電LED照明取付け工事	津々木、松下、吉原			
		24	西丹沢	西丹沢～犬越路～檜洞丸～石棚西尾根～西丹沢		ガイド		
		25	丹沢	作治小屋に太陽光発電LED照明取付け工事	津々木、松下、吉原			
	7	1 2	南八ヶ岳	観音平～編笠山～青年小屋(泊) 青年小屋～観音平		ガイド	前線の雨と強風で権現岳は登らず	
		8	西丹沢	つつじ新道～檜洞丸～犬越路～西丹沢→作治小屋(泊)		ガイド		
		9	丹沢	作治小屋に太陽光発電LED照明取付け工事	津々木、長坂、吉原、佐藤			
		15 16 17	八ヶ岳	美濃戸口～行者小屋(テント泊) 行者小屋～赤岳～横岳～硫黄岳～行者小屋 行者小屋～美濃戸口		ガイド	柳川南沢 硫黄岳は濃霧と強風 霧雨により阿弥陀岳は登らず	
		27	TV報道	アメリカ縦断トック中カリフォルニア州キングスキャニオンの川で死亡	4/3: 仲尾根ガイドの森田利佳さん		キングスキャニオン国立公園	
		29 30	北岳	広河原～白根御池(テント泊) 霧雨により下山		ガイド	霧～霧雨 停滞前線により霧雨	
		8	10 11 12 13 14	北アルプス	前夜・新宿(高速バス)～上高地～横尾(テント泊) 横尾～檜沢～檜ヶ岳登頂～横尾 横尾～瀧沢 瀧沢～ザイテングラード＝奥穂高岳登頂～瀧沢～横尾 横尾～上高地～新宿(高速バス)		ガイド	晴れ(太平洋岸天候不良～停滞前線) 曇り～濃霧 晴れ～曇り 晴れ 晴れ
	26		西丹沢	西丹沢～下棚～本棚(往復)～作治小屋(泊)		ガイド	ガス	
	27		丹沢	作治小屋～源次郎尾根～花立～天神尾根下降	津々木、高橋、長坂、吉原		晴れ	
	9		3	西丹沢	神ノ川～犬越路～矢駄尾根下降～神ノ川		ガイド	
			9 10	丹沢	作治小屋(泊) 作治小屋～モミン懸垂岩(岩登りの基礎)		ガイド	
		24	丹沢	マルガヤ尾根～鍋割山～二俣		ガイド		
	10	30 1 16 30	南アルプス(北岳) 左目、白内障手術 右目、白内障手術	広河原～大樺沢右股～肩の小屋(泊) 肩の小屋～北岳登頂～八本歯～大樺沢～広河原 ささお眼科医院 ささお眼科医院		ガイド	晴れ 快晴 メガネなしで本が読める 視力=1.0に回復	

2018年 丹沢登山体力データ

月	日	コース	天候	積雪 cm	気温 ℃	同行者	出発		帰着		歩数計 歩=0.8m/歩	歩行距離 km	歩行時間 h	歩行速度 km/h	加算係数 高さ、重さ、量、距離、積	エネルギー消費量 kcal	エネルギー代謝率=RMR=1.2×(7.3-1)=7.56 エネルギー消費量=7.56×80kg×時間	備考
							場所	時刻	場所	時刻								
1	5	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	曇り～曇ちらつく		戸川林道=3℃	単独	大倉	7:05	作治小屋	12:30	38,535	23.121	6.45	3.585	1.00	2,925		
	24	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根下降～作治小屋～大倉	曇り	15		単独	大倉	7:50	作治小屋	13:00	32,294	19.376	6.033	3.212	1.20	3,283	表尾根積雪は踏までもぐる	
2	3	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ～曇り	マルガヤ3～5		単独	大倉	7:07	作治小屋	13:50	38,685	23.211	6.950	3.340	1.10	3,467	鍋割山稜～源次郎上部～積雪膝下	
	12	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ～曇り	後線膝下		単独	大倉	7:03	作治小屋	12:22	31,623	18.973	5.550	3.419	1.10	2,769	三ノ塔～鳥尾尾根=積雪膝下、京大・小山氏	
3	21	大倉～書策新道～改次郎尾根～作治小屋～大倉	曇り	書策上部3～5		単独	大倉	7:03	作治小屋	12:22	35,484	21.290	6.450	3.301	1.00	2,925		
	3	寄～コシバ沢～鍋割峠～鍋割山～源次郎尾根下降～大倉	晴			単独	寄バス停	7:20	作治小屋	13:40	39,138	23.482	6.616	3.549	1.00	3,001		
	10	寄～鍋割山南山稜～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	濃霧(ガス)			単独	寄バス停	7:20			40,968	24.580	6.933	3.545	1.00	3,144		
	17	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根下降～作治小屋～大倉				単独	大倉				31,192	18.715	5.183	3.611	1.00	2,351		
4	24	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋(車)				単独	大倉	7:10	作治小屋	13:10	29,648	17.788	5.600	3.176	1.00	2,540		
	1	大倉～作治小屋～山岳文化講座と作治小屋の夜	晴			単独	大倉				32,967	19.780	5.600	3.532	1.00	2,540		
4	7	作治小屋講演会=山岳文化講座と作治小屋の夜	曇り			35人	作治小屋											
	8	作治小屋～仲尾根～作治小屋	晴れ			松岳・小功	作治小屋				13,308	7.984	3.350	2.383	0.80	1,215		
	12	栗民の森～マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又尾根～書策～大倉	曇り			小山	栗民の森	9:20	大倉		33,908	20.964	6.366	3.293	1.00	2,887		
	22	栗民の森～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ			単独	栗民の森	6:40	作治小屋	11:30	33,614	20.168	6.033	3.343	1.00	2,736		
5	29	大倉～マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又尾根～書策～作治小屋(車)	晴れ			単独	大倉	7:10	作治小屋	13:30	32,948	19.768	5.766	3.428	1.00	2,615	児玉さん&アライグマ	
	3	寄～コシバ沢～鍋割峠～北尾根～塔ノ岳西尾根～源次郎下降～作治小屋～大倉	晴れ			単独	寄バス停	7:25	作治小屋	14:00	42,490	25.494	7.866	3.241	1.15	4,103	荷物=6kg、ロングコース、高低差=中	
6	19	寄大横～雨山峠～ユージン～同角山稜～つづじ新道～西丹沢	小雨～霧			小原	寄大横	7:30	西丹沢	15:50	42,785	25.671	7.950	3.229	1.15	4,147	荷物=9kg、ロングコース、高低差=大	
	2	西丹沢～つづじ新道～権洞丸～登ヶ岳～丹沢山～塔ノ岳～天神尾根～作治小屋(作治小屋祭り=宿泊)	晴れ～後線ガス		28℃、蒸し暑い	単独	西丹沢	8:40	作治小屋	18:50	48,030	28.818	9.416	3.061	1.15	4,911	荷物=8kg、ロングコース、高低差=中	
	9	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根下降～作治小屋～大倉	曇り～後線ガス		28℃、蒸し暑い	単独	大倉	7:40	大倉	13:10	31,256	18.753	5.300	3.538	1.05	2,524		
	17	大倉～作治小屋～仲尾根～三ノ塔尾根～大倉	霧雨～ガス		28℃、蒸し暑い	単独	大倉	7:05	大倉	12:30	27,248	18.148	5.416	3.351	1.05	2,579		
7	30	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ		30℃以上、暑い	単独	大倉	7:10	大倉	15:30	38,535	23.121	6.616	3.495	1.10	3,301	梅雨解除、作治小屋で休憩	
	8	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根下降～作治小屋			30℃以上、暑い	単独	大倉				23,395	13.437	4.050	3.318	1.10	2,020		
8	15	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋	晴れ～後線ガス		30℃以上、暑い	単独	大倉				36,435	21.861	6.780	3.224	1.10	3,382		
	4	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋	晴れ～後線ガス		30℃以上、暑い	単独	大倉		作治小屋	宿泊	27,564	16.538	5.000	3.308	1.10	2,494	作治小屋総会前夜	
	5	作治小屋～大倉	晴れ		30℃以上、暑い	佐藤・吉原	作治小屋		大倉		5,166	3.099	0.800	3.874	1.00	362	作治小屋総会	
	18	大倉～三ノ塔尾根～書策新道下降～大倉	晴れ～曇り		涼しい	単独	大倉	7:40	大倉	14:40	37,822	22.693	6.583	3.447	1.00	2,986		
9	1	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋	曇り～霧	ヒル5匹	蒸し暑い	単独	大倉	7:05	大倉	15:30	39,323	23.593	7.100	3.323	1.00	3,220	作治小屋13:30～14:30	
	8	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根下降～作治小屋	曇り～霧	ヒル6匹	霧	単独	大倉	7:05	作治小屋	10:50	25,103	15.061	4.683	3.216	1.00	2,124	新茅山荘の車で大倉まで	
	16	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋	霧雨模様な濃霧	ヒル30匹以上	涼しい	単独	大倉	7:05	作治小屋	13:00	29,548	17.728	5.750	3.083	1.00	2,608	津々木さんに愛甲石田まで車	
	28	大倉～三ノ塔尾根～書策新道下降～作治小屋～大倉	晴れ～曇り			単独	大倉	7:05	作治小屋	13:00	38,677	23.205	6.883	3.371	1.00	3,122	池上通信機山岳部・岩田氏他4名に会う	
10	6	愛甲石田～作治小屋(泊)	曇り	台風25号	蒸し暑い	津々木			作治小屋		8,665	5.199	2.416	2.152	1.00	1,095	作治小屋に携帯電話用アンテナ設置	
	7	作治小屋～仲尾根～鳥尾山往復(上林夫妻)	晴れ	ヒル4匹	真夏日の曇さ	上林夫妻	作治小屋	10:00	作治小屋	14:30	15,706	9.422	2.833	3.326	1.10	1,413	台風25号の強風で、倒木、枝折れ多し	
	13	寄～コシバ沢～鍋割峠～鍋割山～源次郎尾根～大倉	曇り	ヒル無し	後線の風冷たい	単独	寄	大倉	14:50	38,371	23.022	6.850	3.361	1.00	3,107	台風24号の強風で、倒木、枝折れ多し		
	20	中村先生宅～おおすみ山居～作治小屋～山岳文化講座	曇り	ヒル無し	寒い	19名	作治小屋										山岳文化講座in作治小屋	
	21	作治小屋～仲尾根～鳥尾山～三ノ塔尾根下降～大倉	快晴	ヒル無し	秋晴れの快晴	小林	作治小屋	9:30	大倉	14:30	24,167	14.500	5.066	2.862	1.00	2,297	山岳文化講座in作治小屋から小林さんと	
11	27	大倉～マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又～書策～作治小屋	曇り	ヒル無し		単独	大倉	7:10	作治小屋	14:00	31,406	18.843	5.950	3.167	1.00	2,698	川浪氏と回交差	
	3	大倉～マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又～書策～作治小屋～大倉	晴れ～曇り	ヒル無し	寒くなってきた	単独	大倉	7:00	作治小屋	13:10	39,356	23.613	7.183	3.287	1.00	3,258	塔ノ岳で吉原さんに会う、岩槻氏アソビ作業	
	10	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根下降～作治小屋	晴れ～曇り	ヒル無し		単独	大倉	7:40	作治小屋	11:30	23,190	13.914	4.583	3.036	1.00	2,078	作治小屋(泊):携帯アンテナ調整:岩槻	
	11	作治小屋～仲尾根～鳥尾山～三ノ塔尾根下降～大倉	晴れ～曇り	ヒル無し		木村	作治小屋	7:20	作治小屋	12:50	24,866	14.919	5.083	2.935	1.00	2,305	木村元彦氏案内	
	18	大倉～マルガヤ尾根～源次郎下降～作治小屋～大倉	曇り		寒い	単独	大倉		大倉		30,232	18.139	5.833	3.110	1.00	2,645		
	24	大倉～書策新道～表尾根～仲尾根下降～作治小屋(泊)	晴れ～曇り			単独	大倉	7:00	作治小屋	12:00	25,548	15.328	4.916	3.118	1.00	2,229	日本スカイランニング協会泊漬講習会	
12	23	作治小屋～仲尾根～鳥尾山～塔ノ岳～源次郎下降～作治小屋	晴れ			木村	作治小屋	7:40	作治小屋	12:50	20,087	12.052	3.933	3.064	1.00	1,784	木村元彦氏をガイド 右足異常(浮腫み)	
	8	栗民の森～マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又下降～書策～大倉	晴れ		比較的暖かい	目黒・磯田	栗民の森	7:30	大倉	16:00	36,892	22.135	7.683	2.881	1.00	3,485	目黒証記、磯田宗英氏をガイド	
	9	大倉～作治小屋(バッテリー増強(2倍))宿泊				単独	大倉		作治小屋		11,232	6.739	1.726	3.904	0.80	626	太陽光発電蓄電池追加=2倍容量	
	15	作治小屋～大倉				単独	作治小屋		大倉		10,877	6.526	1.566	4.167	0.80	568	腰痛・足痛でゆっくり歩く	
12	15	大倉～三ノ塔尾根～仲尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ			単独	大倉	7:00	大倉	13:30	31,033	18.619	5.266	3.536	1.00	2,388	腰痛・足痛でゆっくり歩く	
	23	寄～コシバ沢～鍋割峠～鍋割山～天神尾根～作治小屋～大倉	霧雨		比較的暖かい	単独	寄	7:20	大倉	14:50	35,637	21.382	6.900	3.099	1.00	3,129	腰痛・足痛でゆっくり歩く	
		計									1,364,954	821	251	3.272		117,386		

2019年 丹沢登山体力データ

月	日	コース	天候	積雪 cm	気温 ℃	同行者	出発		帰着		歩数計 歩=0.6m/歩	歩行距離 km	歩行時間 h	歩行速度 km/h	加算係数 高低、道幅、橋、急坂、積	エネルギー消費量 kcal	エネルギー代謝率 BMR=1.2×(73-1)=7.54 エネルギー消費量=7.54×60分×時間	
							場所	時刻	場所	時刻							消費	消費
1	4	寒川神社～田村の渡し～前鳥神社	晴れ			単独					15,336	9.20	2.35	3.915	0.80	852	有足汗履のみ	前夜～未明まで初降雪
	5	大倉～作治小屋(片道)	晴れ			単独				15,095	9.057	2.50	3.623	0.80	907			
	8	栗野～栗野市図書館(往復)	晴れ			単独				14,314	8.588	2.13	4.032	0.80	772			
	13	大倉～三ノ尾尾根～烏尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	曇り	2cm		単独	大倉	7:10	大倉	13:30	32,159	19,295	5.63	3.427	1.00	2,653		
	19	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	快晴		塚か	単独	大倉	8:10	大倉	15:40	38,019	22,811	6.63	3.441	1.00	3,007		
2	26	寄～コシノ沢～鍋割峠～塚ノ岳～木ノ又尾根～書葉新道～大倉	快晴			単独	坂田・上林	寄	7:20	大倉	16:00	36,575	21,945	7.00	3.135	1.00	3,175	
	2	戸沢河原～仲尾根～烏尾山～書葉新道下～戸沢河原	快晴	3cm	無風	上林	戸沢	8:20	戸沢	15:30	21,525	12,915	5.10	2.532	1.10	2,544	1日前に降雪	
	10	寄～両山峠～玄倉～ユースン～両角山～鶴割丸(青ヶ岳山荘)	晴れ～曇り	2cm	無風～弱風	上林	寄大倉	7:40	青ヶ岳山荘	17:10	31,609	18,965	7.20	2.634	1.10	3,592		
	11	鶴割丸～笹笹ノ峰～大越路～西丹沢自然教室	ガス～晴れ	2cm	弱風～無風	上林	青ヶ岳山荘	8:45	西丹沢	14:10	19,903	11,941	5.00	2.388	1.10	2,494		
	17	大倉～三ノ尾尾根～烏尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	曇り	無し		単独	大倉	7:15	大倉	12:55	31,816	19,089	5.43	3.515	1.00	2,463		
3	24	大倉～作治小屋～源次郎沢F2～源次郎尾根～作治小屋(車)	快晴	無し	無風	塚々木・松下	大倉	7:40	大倉	15:45	20,491	12,294	4.15	2.962	1.00	1,882	作治小屋にて朝食、昼食	
	2	大倉～マルガヤ尾根～鍋割山北東尾根下降～塚ノ岳西尾根～源次郎尾根下降～作治小屋(泊)	晴れ～曇り	無し		上林	大倉	7:20	作治小屋	17:30	38,660	23,196	7.72	3.005	1.00	3,501	作治小屋宿泊	
	3	作治小屋～おおすみ山荘～戸川公園	小雨	無し			作治小屋			5,638	3,382	0.92	3.676	0.80	333	津々木さんの車、戸川公園内歩行		
	10	大倉～三ノ尾尾根～烏尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ～曇り	無し		単独	大倉	7:10	大倉	13:30	32,280	19,368	6.09	3.190	1.00	2,762		
	14	自宅5階歩行	晴れ				自宅		自宅	4,046	2,427	0.57	4.288	0.80	205			
4	16	大倉～作治小屋	曇り～雨粒			単独	大倉	12:50	作治小屋	14:00	11,199	6,719	1.71	3.929	0.80	698		
	17	作治小屋～源次郎沢～源次郎尾根～作治小屋	晴れ～曇り			単独	作治小屋	8:40	作治小屋	11:50	13,582	8,149	2.81	2.900	1.40	1,784	源次郎沢完登(1時間40分)	
	24	大倉～作治小屋～仲尾根往復	晴れ	表面積雪	3℃	根本	作治小屋	8:00	作治小屋	11:50	25,077	15,046	4.43	3.396	1.00	2,009	塚々木、松下さんはエディンまで	
	25	自宅～二俣川～ガンセンター～中尾郵便局～自宅	夜							5,275	3,165	0.70	4.521	0.80	254			
	26	自宅～二俣川～ガンセンター～中尾郵便局～自宅	夜							5,275	3,165	0.70	4.521	0.80	254			
5	3	嵐民の森～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～戸川林道～大倉	快晴	西高東低型		根本	マルガヤ	8:20	大倉	17:00	35,236	21,141	6.21	3.404	1.00	2,816	源次郎尾根付き+ラーメンランチ	
	8	寄～コシノ沢～鍋割峠～鶴割山～花立～源次郎尾根～大倉	快晴:春霞			単独	寄	7:25	作治小屋	13:30	40,711	24,426	7.00	3.489	1.00	3,175	太郎ちゃんG→キラの芽食	
	13	大倉～仲尾根～表尾根～書葉新道下降～作治小屋～大倉	快晴			単独	大倉		大倉	36,647	21,988	6.87	3.201	1.00	3,116	作治小屋にて餅并焼火薬(千葉)と食う		
	20	車～作治小屋～書葉新道～木ノ又尾根下降～作治小屋(宿泊)	晴れ～曇り			高田	作治小屋		作治小屋	19,689	11,813	3.90	3.029	1.00	1,769	戸沢で田村さんに会う、作治小屋泊		
	21	作治小屋～権左衛門～栗野駅(高田氏の車で移動)	晴れ			高田・田村	作治小屋		栗野駅	3,586	2,151	0.60	3.585	0.80	136	田村さん		
6	27	タクシ～作治小屋(宿泊)	霧雨～雨	積雪は雪		抽羽	作治小屋		作治小屋	3,145	1,887	1.28	1.474	0.60	290	抽羽のお守り		
	28	作治小屋(宿泊)～戸川林道～大倉	晴れ			抽羽	作治小屋		作治小屋	20,080	12,048	3.90	3.089	0.80	884	抽羽のお守り		
	5	大倉～マルガヤ尾根～塚ノ岳～木ノ又尾根～作治小屋～大倉	晴れ	朝日ヒョウ	前日:曇雨	単独	大倉	7:08	大倉	16:20	40,838	24,502	7.00	3.500	1.00	3,175		
	11	大倉～作治小屋(往復)	晴れ～曇り			単独	大倉	7:40	大倉	17:10	26,368	15,820	4.51	3.508	0.80	1,636	作治小屋手伝い(風呂場LED照明完成)	
	18	大倉～三ノ尾尾根～烏尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	曇り			単独	大倉	1:55	大倉	15:35	32,226	19,335	5.50	3.515	1.00	2,494	作治小屋手伝い	
7	22	タクシ～作治小屋～書葉新道～木ノ又尾根下降～戸沢～大倉	曇り～ガス		前日:曇雨	根本	作治小屋	8:30	大倉	16:40	31,619	18,971	6.32	3.002	1.00	2,866	根本さん案内	
	25	作治小屋手伝い	快晴			単独	作治小屋		作治小屋	10,572	6,343	3.87	1.639	0.80	1,404	作治小屋市販干し(風呂場完成)		
	26	作治小屋～仲尾根エディン往復～津々木さん車	快晴			単独	作治小屋		作治小屋	7,764	4,658	1.85	2.518	0.80	755	仲尾根案内=雑峰クラブ		
	1	大倉～作治小屋～戸沢でテント泊(一人)				田村	大倉		作治小屋	11,706	7,023	1.85	3.796	0.80	671	作治小屋祭り		
	2	作治小屋～源次郎尾根～木ノ又尾根～木ノ又尾根～作治小屋	曇り			単独	作治小屋	4:35	作治小屋	8:10	36,462	21,877	6.61	3.310	1.00	2,998	木ノ又小屋に地図を掲げる	
8	18	作治小屋～仲尾根～三ノ尾尾根下降～大倉				単独	作治小屋	9:40	大倉	14:10						田村さん案内		
	18	愛甲石田～車～作治小屋(アンテナ調整)～大倉	晴れ			塚々木・松下	作治小屋	18:35	大倉	18:50	17,099	10,259	3.00	3.420	0.80	1,088	携帯電話アンテナ調整	
	3	天候不順と作治小屋に線気がさし山行する気になれず																
	3	大倉～三ノ尾尾根～仲尾根～作治小屋～大倉	晴れ		高温・高湿度	単独		7:35	大倉	14:50	32,372	18,423	5.97	3.086	1.10	2,978	作治小屋協力不可を懸す。津々木、荒木、川口	
	10	寄～寄沢～コシノ沢～鍋割峠～鶴割山～後次郎尾根～二俣～大倉	晴れ～ガス		高温・高湿度	単独	寄	7:25	大倉	14:50	34,983	20,977	6.28	3.340	1.10	3,133	錦路=ゴウダ氏に西山林道で追い越される	
9	21	大倉～戸川林道～作治小屋(往復)	ガス～霧雨		高温・高湿度	単独	大倉	7:10	大倉	11:00	23,399	14,039	3.63	3.867	0.80	1,317	作治小屋案内設置:津々木、松下、関口、安藤	
	24	大倉～西山林道～小丸尾根～塚ノ岳～源次郎尾根～戸川林道～大倉	晴れ～ガス		高温・高湿度	単独	大倉	7:30	大倉	15:40	42,895	25,737	7.40	3.478	1.00	3,356	鞍馬の風は涼しい=秋の空	
	1	大倉～西山林道～小丸尾根(往復)	晴れ		高温・高湿度	単独	大倉	7:30	大倉	13:00	38,169	22,901	6.45	3.551	1.00	2,925	高志匠を感じ、小丸尾根を引き返す	
	7	大倉～戸川林道～仲尾根～表尾根～書葉新道下降～戸沢～大倉	晴れ		高温・高湿度	単独	大倉	6:50	大倉	15:00	36,601	21,960	6.78	3.239	1.00	3,075	木ノ又小屋:矢後さんと「おおすみ山荘」で休居	
	14	大倉～西山林道～小丸尾根～塚ノ岳～源次郎尾根～戸川林道～大倉	ガス～霧雨		体風16号後	単独	大倉	7:08	大倉	15:00	36,086	21,640	6.35	3.408	1.00	2,880	小丸尾根でワシさん案内、木ノ又小屋、矢後さんの車で作治小屋～大倉	
10	21	大倉～西山林道～マルガヤ尾根～源次郎尾根～戸川林道～大倉	晴れ～曇り		鍋割山頂で15℃	単独	大倉	7:08	大倉	16:25	40,268	24,160	7.23	3.342	1.00	3,279		
	28	大倉～書葉新道～木ノ又尾根～表尾根～三ノ尾尾根下降～大倉	曇り～ガス			単独				39,052	23,431	7.06	3.319	1.00	3,202	木ノ又小屋、烏尾山荘でコーヒー		
	5	西丹沢～石標山～鶴割丸～青ヶ岳山荘(泊)	晴れ			高田	栗野駅		栗野駅	18,364	11,018	5.03	2.190	1.00	2,281	栗野から高田氏の車で往復		
	6	鶴割丸～笹笹ノ峰～大越路～西丹沢自然教室	霧雨～曇り			田村	栗野駅		栗野駅	18,977	11,386	3.45	3.300	1.00	1,564			
	16	大倉～作治小屋(往復)	曇り～ガス			単独	大倉		大倉	24,035	14,421	3.97	3.622	0.80	1,440	台風19号で戸川林道道止り		
11	20	大倉～小丸尾根～塚ノ岳～木ノ又尾根下降～書葉新道～戸沢～大倉	曇り～ガス			単独	大倉		大倉	39,541	23,724	7.17	3.309	1.00	3,252	塚ノ岳で亀井さんに会う		
	26	大倉～マルガヤ尾根～源次郎尾根～作治小屋～大倉	晴れ～曇り			単独	大倉	8:50	大倉	16:00	39,067	23,440	7.00	3.349	1.00	3,175	富士山=令和の初冠雪	
	2	寄～寄沢(台風被害)～モモレーン～鍋割山～源次郎尾根～大倉	晴れ			単独	寄	7:25	大倉	15:00	38,879	23,327	6.70	3.482	1.00	3,039	源次郎尾根で川原・児玉さんに会う	
	9	寄沢～コシノ沢～鍋割峠～鶴割山～マルガヤ尾根下降～大倉	曇り～晴れ			高田・大里	寄	大倉		大倉	29,387	17,632	5.45	3.235	1.00	2,472	鍋割峠にて大里さんに会い、合流	
	17	渋沢～寄～コシノ沢～鍋割峠～鶴割山～マルガヤ尾根下降～大倉	快晴			磯田・村山	寄	大倉	8:50	大倉	16:10	32,525	19,515	6.57	2.970	1.00	2,980	磯田・村山さんを案内
12	30	寄～両山峠～玄倉～ユースン～両角山～つづじ新道～西丹沢	快晴		初雪	両角	寄	8:45	西丹沢	18:05	43,377	26,026	8.48	3.069	1.00	3,846	大石山から初雪=足が撃る	
	8	新茶山荘～仲尾根～書葉新道下降～作治小屋～新茶山荘	快晴	無雪	表層積雪=9℃	大里	新茶荘	7:10	作治小屋	13:10	24,726	14,829	5.06	2.931	1.00	2,295	大里さんを案内	
	14	新茶山荘～木ノ又尾根～塚ノ岳～源次郎尾根～作治小屋～新茶山荘	快晴	無雪		大里	新茶荘	6:45	作治小屋	13:50	27,749	16,649	5.75	2.895	1.00	2,608	大里さんを案内	
	21	大倉～源次郎沢F1～作治小屋～大倉	曇り～積りガス			単独	大倉	7:08	大倉	26,112	15,687	4.00	3.917	0.80	1,451	作治小屋庭掃除、川原氏と大倉まで		
	29	タクシ～新茶荘～源次郎沢(F1～F10)～源次郎尾根～戸川林道～大倉	晴れ	無雪	草付=10℃	目黒	新茶荘	7:20	大倉	14:40	25,494	15,296	5.00	3.059	1.20	2,721	目黒さんを案内	
計											1,503,860	901	280	3,221		124,583		

2020年 丹沢登山体力データ

月	日	コース	天候	積雪 cm	気温 ℃	同行者	出発		帰着		歩数計 歩=0.55m/歩	歩行距離 km	歩行時間 h	歩行速度 km/h	加算係数	エネルギー消費量 kcal	エネルギー代謝率=RMR=1.2×(73-1)=7.56 エネルギー消費量=7.56×60kg×時間	備考
							場所	時刻	場所	時刻								
1	5	大倉～作治小屋往復	快晴	無し		単独	大倉		大倉		19,300	10.615	2.90	3.660	1.00	1,052	作治小屋標示板に宮原さんとマラヤ昇天を掲	
	13	新茅荘～書葉新道～鳥尾山～仲尾根下降～新茅荘	晴れ	無し	4℃	大里	新茅荘 7:20	新茅荘	14:00		25,462	14,004	4.93	2.841	1.00	2,236	仲尾根でラーメン、ツェルトのテスト	
	18	タクシー～作治小屋～仲尾根～鳥尾山～仲尾根～大倉	油雪	3～10	-4℃、風速15m	磯田	作治小屋 9:00	大倉	15:10		22,948	12,621	4.68	2.697	1.30	2,759	強風雪、風速15m、気温-4℃、凍傷になりそう	
	23	自宅風呂5周									4,521	2,486	0.63	3.927	0.60	172		
	25	寄～コシバ沢～鍋割峠～鍋割山～マルガヤ尾根～大倉	ガス	無し	鍋割峠0℃、風速5m	単独	寄 7:25	大倉	14:45		36,099	19,854	6.80	2.920	1.00	3,084	足が重い	
2	1	寄沢～コシバ沢～鍋割峠～北尾根～玄倉林道～閉山沢～寄沢	晴れ	オガラ沢残雪	4℃	大里	寄 7:00	寄	15:30		37,978	20,888	7.73	2.702	1.00	3,506	オガラ沢トバース(残雪)、玄倉林道荒廃	
	9	大倉～作治小屋～仲尾根～鳥尾山～三ノ塔尾根下降～大倉	快晴	未明の降雪	戸川林道=0℃	鳥田	大倉 7:00	大倉	14:40		31,842	17,513	5.45	3.213	1.00	2,472	未明の降雪はバラバラ程度	
	13	作治小屋～仲尾根～鳥尾山～書葉(マンガン鉱山)～戸沢～大倉	ガス～晴れ	未明の降雨	鳥尾山頂=14℃	小山	作治小屋まで 7:45	大倉	16:25		29,344	16,139	4.80	3.362	1.00	2,177	山はガスに覆われ、晴れ間が去来する	
	19	大倉～作治小屋(往復)	晴れ～曇り	無し	暖か	単独	大倉 11:40	大倉	14:30		23,223	12,772	3.40	3.756	0.80	1,233	作治小屋へ写真貼付け	
	23	鳥民の森～本沢～界尾根～マルガヤ尾根下降～鳥民の森	快晴	無し	冬の冷風	大里	鳥民の森 7:00	鳥民の森			24,133	13,273	4.80	2.765	1.00	2,177	界尾根～本沢沢で一冊の急斜面	
3	29	寄～後沢～鍋割山～花立～源次郎尾根～戸川林道	晴れ～曇り	北斜面	暖か	単独	寄 4:20	大倉	14:20		35,260	19,393	6.22	3.118	1.00	2,821	戸川林道で木ノ又小屋・神野さんの車	
	7	寄～鍋割山～北尾根下降～塔ノ岳尾根～鍋割山～寄	曇り～時々晴れ	無し	冬型、南東低気圧	大里	寄 7:00	寄	15:00		41,790	22,984	8.63	2.663	1.10	4,306	鍋割山北尾根でカシカ2頭と出会う	
	15	新茅荘～源次郎尾根～花立～天守尾根～新茅荘	晴れ～降雪～曇り	10cm程度	上の草付=0℃	大里	新茅荘 7:10	新茅荘	12:15		19,961	10,978	4.35	2.524	1.10	2,170	前日降雪～積雪≒10cm、途中で降雪	
	21	新茅荘～源次郎沢～源次郎尾根～作治小屋	快晴	無し	暖か	大里	新茅荘 7:10	作治小屋	12:10		17,167	9,441	4.63	2.039	1.20	2,520	乾いて快適、腰痛、膝痛	
	30	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山仲尾根～戸川林道～大倉	曇り	10cm程度	鳥尾山頂=4℃	大里	大倉 6:50	大倉	14:30		32,223	17,722	6.58	2.693	1.30	3,880	前日降雪～積雪≒10cm、後継で雨水	
4	6	鳥民の森～本沢～左俣～マルガヤ下降～鳥民の森	晴れ	無し	暖か	大里	鳥民の森 6:50	鳥民の森	13:00		21,564	11,860	4.60	2.578	1.20	2,503	左俣は道で詰めが難しい	
	19	寄沢増水で中止、三ノ塔尾根～仲尾根下降～戸川林道～大倉	快晴～晴れ	無し	前着1枚	大里	寄、大倉 6:50	大倉	15:30		36,527	20,089	7.07	2.841	1.00	3,206	前日の雨で寄沢増水で渡歩できず	
	25	寄～コシバ沢～地獄ザリ～モノレールルート～寄	晴れ	暖か	大里	寄 6:50	寄	13:00		23,918	13,153	5.07	2.594	1.30	2,989	岩場基部から標本等ヘトラバース		
	1	大倉～作治小屋(泊)	晴れ		夏日	単独	大倉 8:45	作治小屋	10:50		10,795	5,937	1.70	3.492	0.80	616	コロナ自前で小屋清掃	
	2	作治小屋～木ノ又尾根～政次郎尾根～作治小屋(泊)	晴れ		夏日	大里	作治小屋 8:30	作治小屋	14:20		19,142	10,528	4.25	2.477	1.00	1,927	夏日で暑い、木ノ又小屋の「カキ水」	
5	3	寄～閉山峠～閉山～岳岳～伊勢沢ノ瀧～栗野峠～寄	晴れ		夏日	大里	寄 6:30	寄	13:30		33,730	18,551	6.08	3.051	1.00	2,757	作治小屋標示作品撤去	
	17	大倉～三ノ塔尾根～仲尾根下降～作治小屋～大倉	下部ガス～後継晴れ		早朝まで降雨	大里	大倉 6:50	大倉	14:00		32,407	17,822	5.67	3.143	1.00	2,571	コロナ自前で登山者は極少数、ヒル4匹	
	24	大倉～西山林道～小丸尾根～鍋割山～マルガヤ尾根～大倉	晴れ1000m以上ガス		16℃	単独	大倉 6:35	大倉	13:00		37,457	20,601	6.63	3.106	1.00	3,008	寄年層はランナーが多い、ヒルいない	
	3	大倉～作治小屋～仲尾根～鳥尾尾根～大倉			蒸し暑い≒20℃	単独	大倉 7:15	大倉	13:00		32,286	17,757	5.45	3.258	1.00	2,472	作治小屋標示、おおすみ山居(斎藤さん)	
	10	大倉～鳥尾尾根～表尾根～書葉新道～戸沢～大倉	晴れ～曇り		蒸し暑い≒20℃	単独	大倉 7:15	大倉	14:00		38,570	21,213	6.72	3.159	1.00	3,046	書葉新道で柳沢氏(42歳)を案内	
6	17	鳥民の森～小丸尾根～塔ノ岳～源次郎尾根下降～大倉	晴れ～曇り		蒸し暑い≒18℃	鳥田	鳥民の森 7:20	大倉	14:30		36,800	20,240	7.15	2.831	1.00	3,243		
	24	大倉～作治小屋～仲尾根～鳥尾山～鳥尾尾根～新茅荘～大倉	ガス		蒸し暑い	単独	大倉 7:15	大倉	13:20		33,753	18,564	5.83	3.183	1.00	2,645		
	2	大倉～大倉尾根～花立～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	ガス		蒸し暑い	単独	大倉 7:15	大倉	14:10		33,238	18,280	6.12	2.989	1.00	2,774	仲尾根で熊に遭遇(松本こずえ)	
	21	大倉～西山林道～小丸尾根～大倉尾根下降～大倉	ガス		蒸し暑い	単独	大倉 7:15	大倉	14:30		37,894	20,841	6.62	3.150	1.00	3,001	ヒルに噛まれ出血	
	1	大倉～寄～モノレール～鍋割山～マルガヤ尾根～大倉	曇り		蒸し暑い	松本	寄 7:05	大倉	14:00		32,975	18,136	6.00	3.023	1.00	2,721	ヒル数いれず	
7	7	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根～戸川林道～大倉	晴れ～曇り			単独	大倉 7:10	大倉	13:30		33,516	18,433	6.02	3.063	1.10	3,002		
	28	大倉～西山林道～小丸尾根～花立～源次郎尾根～大倉	晴れ～曇り		積雪23℃	単独	大倉 7:10	大倉	15:25		40,494	22,271	7.77	2.868	1.10	3,874	ヒル数は1匹のみ	
	5	大倉～作治小屋(往復)				大倉	10:30	大倉	14:00		20,000	11,000	3.00	3.667	0.80	1,088	標示板、パネル貼り(津々木、松下、太郎)	
	9	大倉～戸川林道～書葉新道～政次郎尾根下降～戸川林道～大倉	曇り		蒸し暑い	単独	大倉 7:10	大倉	15:00		37,888	20,838	6.63	3.143	1.00	3,007	サガミジョウロウホトギス(無し)	
	16	寄～寄沢～コシバ沢～鍋割峠～鍋割山～南山麓～西山林道～大倉	曇り～後継ガス		蒸し暑い	単独	寄 7:20	大倉	14:50		35,000	20,500	6.50	3.154	1.00	2,948	若者3人組(コシバ沢～モノレール)案内	
8	22	鳥民の森～マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又下降～戸川林道～大倉	晴れ～曇り		積雪20℃	単独	鳥民の森 6:50	大倉	15:00		37,912	20,851	7.00	2.979	1.00	3,175		
	29	大倉～作治小屋～仲尾根～三ノ塔尾根下降～大倉	霧雨～ガス		鳥尾山頂13℃	砂川	大倉 7:05	大倉	15:00		32,783	18,030	6.00	3.005	1.00	2,721	作治小屋で砂川理穂氏に会い案内	
	6	大倉～戸川林道～書葉新道～塔ノ岳～源次郎尾根～戸沢～大倉	曇り		梅りの作治小屋18℃	砂川	大倉 7:10	大倉	18:00		44,095	24,252	8.25	2.940	1.00	3,742	大倉で砂川氏と偶然に再会案内する	
	14	大倉～西山林道～小丸尾根～鍋割山～後沢奥越～二俣～大倉	曇り		曇り	砂川	大倉 7:10	大倉	15:00		40,973	22,535	7.43	3.032	1.00	3,371		
	21	鳥民の森～マルガヤ尾根～塔ノ岳～木ノ又下降～戸川林道～大倉	曇り	申料先生ご逝去	曇り	砂川	鳥民の森 7:00	大倉	17:00		38,867	21,376	7.72	2.770	1.00	3,499	書葉でシカの死骸(クマ)	
9	4	大倉～作治小屋～仲尾根～鳥尾山～三ノ塔尾根～大倉	晴れ		秋晴れ～曇り	単独	大倉 7:10	大倉	13:20		31,585	17,371	5.35	3.247	1.00	2,426	鳥尾山で保野園児がに会う	
	12	寄～コシバ沢～鍋割山～マルガヤ尾根～西山林道～大倉	晴れ		秋晴れ	砂川	寄 7:10	大倉	15:30		32,256	17,740	6.43	2.759	1.00	2,916		
	18	大倉～西山林道～マルガヤ尾根～小丸尾根～西山林道～大倉	晴れ～曇り			平田?	大倉 7:10	大倉	15:20		39,780	21,879	7.03	3.112	1.00	3,188	単独者を案内	
	30	鳥民の森～マルガヤ尾根～小丸尾根下降～鳥民の森	晴れ		秋晴れ	大里	鳥民の森 7:30	鳥民の森	13:00		27,740	15,257	5.33	2.862	1.00	2,417	本沢、界尾根をマルガヤ尾根へ変更	
	8	大倉～作治小屋～仲尾根～鳥尾山～三ノ塔尾根～大倉	快晴		秋晴れ	単独	大倉 7:10	大倉	13:00		32,253	17,732	5.47	3.244	1.00	2,479	作治小屋に「無注意」の標示	
12	8	玄倉林道～女郎小屋沢尾根滑降現場～赤根ノ沢～玄倉林道	快晴		秋晴れ	松田賢吾	玄倉林道 9:10	玄倉林道	11:20		11,350	6,242	2.28	2.738	1.00	1,034	滑降現場検証:警備員4名同行	
	25	寄～栗ノ木洞～鍋割山～マルガヤ尾根下降～西山林道～大倉	晴れ		晴れ～曇り	単独	寄 7:20	大倉	14:45		39,851	21,918	7.48	2.929	1.00	3,394	寄沢:工事中通行止め	
	31	大倉～西山林道～小丸尾根～花立～源次郎尾根～戸川林道～大倉	快晴		西高東低	単独	大倉 7:10	大倉	14:25		39,403	21,671	6.65	3.259	1.00	3,016	小丸尾根で-2℃:寒い	
		計								1,478,053	814	274	2,973		127,341			

2021年 丹沢登山体力データ

月	日	コース	天候	積雪 cm	気温 ℃	同行者	出発		帰着		歩数計 歩=0.55m/歩	歩行距離 km	歩行時間 h	歩行速度 km/h	加算係数 高さ、重さ、暑 さ、距離、積	エネルギー 消費量 kcal	エネルギー代謝率=RMR=1.2×(73-1)=7.58 エネルギー消費量=7.58×60kg×時間	
							場所	時刻	場所	時刻							備	考
1	7	大倉～西山林道～小丸尾根～源次郎下降～戸川林道～大倉	晴れ	-	4℃、風速20m	単独	大倉	7:07	大倉	14:00	40,808	22,444	6.90	3.253	1.00	3,129	西高東底の強風(20m/s)	
	31	県民の森～マルガヤ尾根～鍋割山～南山～西山林道～大倉	快晴	鍋割山積雪	温暖	鳥田	県民の森	6:50	大倉	13:40	32,554	17,904	5.85	3.061	1.00	2,653	マルガヤ～3組に出会う	
コロナ禍で非常事態宣言																		
2	5	大倉～戸川林道～書架新道～木ノ又尾根～政次郎下降～大倉	快晴	木ノ又小屋:雪	温暖	砂川	大倉	7:08	大倉	16:40	39,361	21,648	7.18	3.014	1.00	3,258	カモシカ(本谷)、木ノ又小屋工事中	
	17	寄～鍋割山南山～後沢乗越～西山林道～大倉	快晴		10℃、風速20m	単独	寄	7:20	大倉	12:00	32,684	17,976	5.50	3.268	1.00	2,494	松田警察:深尾、秋山氏(謝礼):洗沢駅14:30	
	23	寄～鍋割山南山～後沢乗越～小丸尾根下降～西山林道～大倉	晴れ		温暖	鳥田	寄	6:50	大倉	14:35	40,610	22,335	7.28	3.067	1.00	3,303	タクシー2,800(洗沢～寄バス停)	
	28	大倉～三ノ塔尾根～仲尾根～戸川林道(直救出)～大倉	快晴		朝1℃	単独	大倉	7:00	大倉	14:00	31,205	17,162	5.50	3.120	1.00	2,494	直救出(真樹、健田)	
コロナ禍で外出自粛																		
3	7	大倉～戸川林道～烏尾尾根～三ノ塔～三ノ塔尾根下降～大倉	曇り		烏尾山頂:0℃	鳥田	大倉	6:40	大倉	12:30	32,262	17,744	6.20	2.862	1.00	2,812	直尾根積りで指先が痛い	
	14	大倉～小丸尾根～鍋割山～花立～源次郎尾根下降～大倉	快晴		おおずみ山居:20℃	鳥田	大倉	7:00	大倉	14:15	41,486	22,817	6.87	3.321	1.00	3,116	両上がりで遠くがよく見えた	
	23	大倉～戸川林道～仲尾根～烏尾尾根～戸川林道～大倉	曇り	前日:降雪	烏尾山頂:3℃	単独	大倉	7:10	大倉	14:00	32,588	17,923	6.00	2.987	1.00	2,721	救出シカがヒゴノ沢で出迎え	
	30	大倉～西山林道～マルガヤ尾根～小丸尾根～西山林道～大倉	高曇り		積雪で28℃	単独	大倉	7:10	大倉	14:40	40,477	22,262	7.43	2.995	1.00	3,371	半袖、大倉で写真撮影	
コロナ禍で21日、外出自粛解除																		
4	7	県民の森～本沢界尾根～小丸～小丸尾根～県民の森	晴れ			大里	県民の森	7:00	県民の森	13:00	25,447	13,995	4.95	2.827	1.00	2,245		
	9	寄大橋～寄沢～雨山峠～鍋割山～鍋割山～後沢乗越～大倉	晴れ、曇り、雪	雪片が舞う	鍋割山頂:6℃	砂川	寄	7:10	大倉	15:40	36,094	19,851	6.93	2.863	1.00	3,144		
	15	大倉～西山林道～小丸尾根～花立～源次郎尾根～戸川林道～大倉	ガス		寒い	単独	大倉	7:10	大倉	15:00	40,891	22,490	6.93	3.244	1.00	3,144	寒い	
	21	大倉～戸川林道～仲尾根～三ノ塔尾根～大倉	快晴	夏目	烏尾山頂:28℃	単独	大倉	7:10	大倉	13:30	32,057	17,631	5.43	3.247	1.00	2,463	日当たりで30℃	
	27	寄～コシバ沢～鍋割山～鍋割山～マルガヤ尾根～西山林道～大倉	晴れ、曇り、晴れ			単独	寄	7:25	大倉	14:25	35,764	19,670	6.30	3.122	1.00	2,857		
	30	渋沢～タクシー～大倉:戸川公園～徒歩～桑野	快晴	夏目		単独					19,177	10,547	2.80	3.767	0.80	1,016		
コロナ禍で20日から外出自粛																		
5	9	大倉～三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降～戸川林道～大倉	晴れ、曇り、晴れ	夏目	大倉積り27℃	鳥田	大倉	6:40	大倉	13:10	32,747	18,010	5.63	3.197	1.00	2,555	作治小屋で津々木、松下、小木曾さんに会う	
	15	大倉～三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降～戸川林道～大倉	高曇り			単独	大倉	6:50	大倉	13:10	32,928	18,110	6.07	2.985	1.00	2,751	作治小屋で小木曾さんのメールアドレス記載	
	24	大倉～三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降～戸川林道～大倉	高曇り、晴れ		仲尾根22℃	単独	大倉	7:10	大倉	14:00	32,180	17,699	5.55	3.189	1.00	2,517	ヒルは出ず	
	29	大倉～西山林道～小丸尾根～花立～源次郎尾根～戸川林道～大倉	高曇り、晴れ		タクシー:松本、岩井、?	単独	大倉	6:50	大倉	15:10	38,779	21,328	6.60	3.232	1.00	2,993	小丸～農協学生:澤(物理)、◎(システムデザイン)	
6	11	モデルナ・ワクチン接種:1回目																
	13	大倉～戸川林道～仲尾根～烏尾山～烏尾尾根～戸川林道～大倉	晴れ			鳥田	大倉	6:50	大倉	13:20	32,512	17,881	5.45	3.281	1.00	2,472	エデンの園で冷凍スイカ、ストック紛失	
7	14	大倉～戸川林道～仲尾根～烏尾山～烏尾尾根～戸川林道～大倉	曇り～露雨			単独	大倉	7:15	大倉	13:35	33,997	18,698	6.00	3.116	1.00	2,721	烏尾山頂で露雨	
	18	大倉～戸川林道～作治小屋～政次郎尾根積林限界まで	快晴～曇り	森林帯=27℃	平地=33℃	単独	大倉	6:55	大倉	14:10	33,805	18,592	5.90	3.151	1.00	2,676		
8	11	大倉～西山林道～小丸尾根～花立～源次郎尾根～戸川林道～大倉	晴れ		鍋割山積21℃	単独	大倉	7:07	大倉	15:35	42,194	23,206	7.58	3.061	1.05	3,610	大倉16時:28℃ 猛暑の平地34℃	
	7	大倉～三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降～戸川林道～大倉	晴れ、上部ガス		積雪は寒い	単独	大倉	7:07	大倉	14:00	34,506	18,978	7.00	2.711	1.00	3,175	2月28日救出したシカを発見	
	12	大倉～作治小屋～政次郎尾根～行者ヶ岳～仲尾根(阿部)～大倉	曇り～上部ガス		蒸し暑い	単独	大倉	7:08	大倉	15:40	37,700	20,735	6.90	3.005	1.00	3,129	サガミジョウロウヒトギス(阿部さん)	
	19	大倉～西山林道～小丸尾根～花立～源次郎尾根～戸川林道～大倉			蒸し暑い	単独	大倉	7:08	大倉	14:50	39,499	21,724	6.90	3.148	1.00	3,129	作治小屋で川道、瀬戸冬郎(高校生)目標=エベレスト最年少	
	26	大倉～三ノ塔尾根～烏尾山～仲尾根下降～戸川林道～大倉	曇り～上部ガス～雨		積雪は寒い	単独	大倉	7:40	大倉	14:20	33,218	18,269	5.50	3.322	1.00	2,494	作治小屋で川道、瀬戸冬郎(17歳、高校生)再会	
寄行きバス一番が7:50発、(6:55の一番は廃止)																		
玄倉～赤銅ノ沢尾根(消発現場、快事現場見分立会)																		
10	3	大倉～西山林道～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋	晴れ～曇り		夏目:暑い	単独	大倉	7:30	作治小屋	13:20	33,392	18,365	6.36	2.888	1.00	2,884	作治小屋から小木曾さんの車	
	10	大倉～作治小屋～仲尾根(下部落葉樹林帯)～戸川林道～大倉	曇り～露雨		夏目:暑い	単独	大倉	7:10	大倉	13:00	26,875	14,781	4.67	3.165	1.00	2,118	作治小屋で虎玉さんに会う	
	20	寄～コシバ沢～鍋割山～鍋割山～マルガヤ尾根～西山林道～大倉	快晴			大倉	寄バス停	7:20	大倉	15:30	34,956	19,225	7.18	2.678	1.00	3,256	大島崎舎を案内	
	30	大倉～作治小屋～木ノ又尾根～塔ノ岳～大倉尾根～大倉	快晴			単独	大倉	7:00	大倉	16:30	38,689	21,278	7.27	2.927	1.00	3,297	木ノ又小屋で小林さき子さんに会い大倉まで	
11	8	大倉～西山林道～マルガヤ尾根～源次郎尾根下降～作治小屋	晴れ～曇り		冷風	単独	大倉	7:00	大倉		39,732	21,852	7.00	3.122	1.00	3,175	菅原重信さんとマルガヤを登る、以降別	
	13	大倉～作治小屋～仲尾根～書架新道～作治小屋～大倉	快晴		暖か	単独	大倉	7:15	大倉	15:35	40,051	22,028	7.00	3.147	1.00	3,175	作治小屋でカレーのランチをもちそうになる	
	21	西丹沢～つづじ新道～楕圓丸～青ヶ岳山荘(往復)	曇り～露雨～曇り	石樹山積7℃		単独	西丹沢	8:35	西丹沢	15:10	29,928	16,460	5.51	2.967	1.00	2,499	青ヶ岳山荘で理生さんと念珠(田中慶子さん)	
12	29	作治小屋(車)～書架新道(マンガン鉱)～烏尾山仲尾根～作治小屋	晴れ～曇り		冷風	大倉	作治小屋	8:00	作治小屋	13:30	22,096	12,152	4.45	2.731	1.00	2,018		
	4	大倉～西山林道～小丸尾根～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ～曇り			単独	大倉	7:10	大倉	14:40	41,452	22,798	7.40	3.081	1.00	3,356	小丸尾根で小山さん(空襲管理)	
	15	作治小屋(車)～書架新道～木ノ又尾根～烏尾山仲尾根～作治小屋	快晴		暖か	大倉	作治小屋	7:50	作治小屋	13:45	23,429	12,885	4.85	2.657	1.00	2,199		
	19	大倉～西山林道～マルガヤ尾根～源次郎尾根～作治小屋(車)	晴れ		冷風	単独	大倉	7:10	作治小屋	13:30	32,597	17,928	5.91	3.034	1.00	2,680	作治小屋から津々木さんの車で風の吊橋まで	
	30	タクシーで作治小屋～木ノ又尾根～塔ノ岳～源次郎尾根下降～大倉	快晴		冷風	阿部	作治小屋	7:30	大倉	14:15	34,759	19,117	6.50	2.941	1.00	2,948		
計											1,385,887	762	250	3.055	113,081			

2022年 丹沢登山体力データ

月	日	コース	天候	積雪 cm	気温 ℃	同行者	出発		帰着		歩数計 歩=0.5m/歩	歩行距離 km	歩行時間 h	歩行速度 km/h	加算係数	エネルギー消費量 kcal	エネルギー代謝率=RMR=1.2×(7.3-f)=7.55 エネルギー消費量=7.55×60kg×時間	備考
							場所	時刻	場所	時刻								
1	9	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根～作治小屋～大倉	快晴	日陰=5cm	暖か	単独	大倉	7:10	大倉	13:10	34,505	17,252	6.66	2,590	1.00	3,020	鳥尾山荘・三木さん、作治小屋・津々木、小木	
	13	寄大橋～コシバ沢～鍋割山～マルガヤ尾根下降～大倉	晴れ・曇り・雪・積れ	無し	鍋割山頂=0℃	砂川親子	寄大橋	7:20	大倉	16:05	33,893	16,946	6.68	2,537	1.00	3,030	マルガヤ尾根下降中雪がテラテラ	
2	26	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根～作治小屋～大倉	晴れ～曇り	日陰に残雪		アライさん	大倉	7:10	作治小屋	12:00	33,657	16,828	5.85	2,877	1.00	2,653	三ノ塔尾根からアライさん同行	
3	5	大倉～小丸尾根～花立～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ	日陰に残雪	鍋割山稜14℃	単独	大倉	7:05	作治小屋	13:00	41,359	20,679	7.05	2,933	1.00	3,197		
	12	大倉～西山林道～マルガヤ尾根～小丸尾根～西山林道～大倉	晴れ		鍋割山稜17℃	単独	大倉	6:55	大倉	14:15	38,444	19,222	6.80	2,827	1.00	3,084	西山林道・吉岡さん	
	20	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根～作治小屋～大倉	曇り・ガス	無し		吉岡	大倉	7:15	作治小屋	13:00	35,137	17,568	6.18	2,843	1.00	2,803	鳥尾山荘・三木・高瀬、作治小屋・津々木、安	
	25	寄～鍋割山南山稜～鍋割山～マルガヤ尾根～西山林道～大倉	晴れ	無し	鍋割山稜15℃	単独	寄バス停	7:20	大倉	14:50	39,421	19,710	7.00	2,816	1.00	3,175	鍋割山稜残雪あり	
4	2	タクシー～作治小屋～仲尾根～鳥尾尾根～戸川林道～大倉	晴れ			吉岡	作治小屋	7:10	大倉	13:40	27,055	13,527	5.00	2,705	1.00	2,268		
	8	タクシー～県民の森～本沢界尾根～小丸尾根～西山林道～大倉	晴れ～曇り			砂川	県民の森	7:00	大倉	15:50	33,694	16,847	6.65	2,533	1.00	3,016		
	16	タクシー～県民の森～小丸尾根～源次郎尾根～作治小屋～大倉	ガス～曇り			吉岡	県民の森	7:00	大倉	14:45	38,020	19,010	6.82	2,787	1.00	3,093	作治小屋・大勢	
	23	タクシー～県民の森～マルガヤ尾根～小丸尾根～西山林道～大倉	晴れ～曇り			高崎	県民の森	7:15	大倉	15:40	33,441	16,720	6.50	2,572	1.00	2,948		
	30	西丹沢～つつじ新道～檜洞丸～青ヶ岳山荘(往復)	晴れ～曇り			吉岡	西丹沢	8:45	西丹沢	14:55	31,429	15,714	7.10	2,213	1.00	3,220	青ヶ岳山荘・鈴木さん	
5	8	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根～作治小屋～大倉	曇り・ガス			単独	大倉	7:10	作治小屋	11:30	33,166	16,583	5.58	2,972	1.00	2,531	津々木さんとランチしながら2時間話す	
	21	渋沢駅～作治小屋(タクシー¥3,900)	小雨			単独	渋沢駅	13:20	作治小屋	14:00	1,723	0.861	0.68	1,266	0.80	246		
	22	作治小屋～仲尾根～鳥尾山～三ノ塔尾根～大倉	曇り時々晴れ			大田	作治小屋	7:30	大倉	11:55	21,483	10,741	3.90	2,754	1.00	1,769	仲尾根・大田さん案内	
6	1	寄～寄沢～コシバ沢～鍋割山～鍋割山～マルガヤ尾根～大倉	晴れ～曇り			水谷	寄	7:20	大倉	15:30	36,887	18,443	6.97	2,646	1.00	3,161	鍋割山～マルガヤ尾根～大倉(水谷さん案内)	
	18	大倉～小丸尾根～鍋割山稜～源次郎尾根～戸川林道～大倉	曇り		鍋割山稜16℃	単独	大倉	7:10	大倉	15:30	41,731	20,865	7.18	2,906	1.00	3,256	作治小屋で江藤節吉(仲尾根物語)¥3,000-	
	26	大倉～西山林道～小丸尾根～鍋割山稜(往復)	晴れ		鍋割山稜22℃	単独	大倉	7:10	大倉	14:30	38,774	19,387	6.75	2,872	1.10	3,367	平地で34℃、鍋割山稜22℃(田中林業)	
7	18	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根～作治小屋～大倉	曇り・ガス		蒸し暑い	神引	大倉	7:15	大倉	14:15	35,390	17,695	6.50	2,722	1.05	3,095	三ノ塔尾根で神引さんと前後し、仲尾根案内	
8	14	大倉～作治小屋(往復)	小雨～曇り		蒸し暑い	単独	大倉	7:10	大倉	11:30	24,764	12,382	3.77	3,284	1.05	1,795	前日台風8号通過、戸川林道異常なし	
	27	渋沢駅～作治小屋～源次郎尾根～行者ヶ岳～仲尾根～大倉	晴れ～曇り		蒸し暑い	高崎	作治小屋	7:50	作治小屋	13:20	29,121	14,560	6.47	2,250	1.05	3,081	蒸し暑い、サメシヨウのホトトギスは開花前	
9	4	大倉～作治小屋～仲尾根～行者ヶ岳～源次郎尾根～作治小屋	曇り～ガス		蒸し暑い	上村、田口	大倉	7:10	大倉	15:10	29,718	14,859	5.68	2,616	1.00	2,576	作治小屋で上村、田口さんを紹介されて案内	
	11	作治小屋～書葉新道(ホトトギス)～表尾根(ホトトギス)～仲尾根～作治小屋	晴れ		秋風を感じる	大里	作治小屋	8:00	作治小屋	13:10	22,836	11,418	4.72	2,419	1.00	2,140	書葉新道のサメシヨウのホトトギスを発見	
10	1	大倉～小丸尾根～鍋割山稜～花立～源次郎尾根～大倉	晴れ		暑い=稜線で25°	単独	大倉	7:07	大倉	16:30	42,926	21,463	8.30	2,586	1.00	3,764	作治小屋物置解体、出会、高田、川浪、瀬戸	
	8	大倉～牛首～作治小屋(手伝)～大倉	曇り			単独	大倉	7:10	作治小屋	9:00	25,221	12,610	4.05	3,114	0.80	1,469	右足股関節が痛く、牛首～作治小屋(手伝い)	
	12	志津温泉～リフト～月山分岐点	曇り		リフト終点4℃	千鶴子	志津温泉	9:00	志津温泉	14:00	3,807	1,903	1.30	1,464	1.00	589	右足股関節が痛く、月山・虎ヶ岳分岐点まで	
11																		脊柱管狭窄症、腰椎・股関節不整合
12	18	大倉～作治小屋(往)				単独	大倉	10:00	作治小屋	11:30	17,897	8,948	3.31	2,703	1.00	1,501	作治小屋までゆっくり歩く、丹沢の初雪	
	24	大倉～作治小屋(泊)				単独	大倉	13:00	作治小屋	14:40	13,588	6,794	2.61	2,603	1.00	1,183	作治小屋バッテリー交換	
	25	作治小屋(泊)～大倉				単独	作治小屋	13:40	大倉	15:00	12,284	6,142	1.88	3,267	1.00	852	物置にLED取り付け	
		計								851,371	426	158	2,695		71,882			

2023年 丹沢登山体力データ

月	日	コース	天候	積雪 cm	気温 ℃	同行者	出発		帰着		歩数計 歩=0.5m/歩	歩行距離 km	歩行時間 h	歩行速度 km/h	加算係数	エネルギー消費量 kcal	エネルギー消費率=RMFR=1.2×(2.3-1)=7.56 エネルギー消費量=7.56×60kg×時間	備考
							場所	時刻	場所	時刻								
1	8	大倉～作治小屋(往復)	晴れ	前日積降降雪		単独	大倉	10:00	大倉	13:20	25,232	12.616	3.88	3.252	1.00	1,759	作治小屋:蓄電池交換を結核	
	15	大倉～作治小屋(往路)～帰路(車)	曇り(霧雨)	積降:霧雨		単独	大倉	7:07	大倉	12:30	16,637	8.318	2.57	3.237	1.00	1,165	作治小屋:ソーラーパネル20枚搬入確認	
	21	大倉～作治小屋(途中で車)～帰路(徒歩)	曇り			単独	大倉	8:20	大倉	15:10	21,180	10.590	3.38	3.133	1.00	1,533	作治小屋:携帯電話ブースター調整	
	28	大倉～作治小屋(途中で車)～帰路(徒歩)	晴れ～曇り		9時:作治小屋-2℃	単独	大倉	8:05	大倉	14:00	19,415	9.707	3.20	3.033	1.00	1,451	作治小屋:携帯電話ブースター完了	
2	5	大倉～牛首～表丹沢林道～作治小屋	晴れ	2～3cm		単独	大倉	7:07	牛首	8:10	19,747	9.873	3.42	2.887	1.00	1,551	作治小屋:インバーター起動:丸ノコOK	
	11	大倉～作治小屋(往復) 仲尾根:下の植林帯上まで登る	晴れ	無し	9時で5℃	単独	大倉	7:07	大倉	13:00	26,173	13.086	4.35	3.008	1.00	1,973	作治小屋本館:携帯アンテナ:OK	
	18	大倉～鳥尾尾根～鳥尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	快晴	無し	仲尾根15℃	単独	大倉	7:07	大倉	16:40	33,913	16.956	6.18	2.744	1.00	2,803	作治小屋本館:携帯アンテナ地中埋設:OK	
	26	大倉～作治小屋～仲尾根～鳥尾尾根～戸川林道(車:松下)	快晴	2～3cm	洗沢駅4℃	単独	大倉	7:07	戸川林道	13:30	30,890	15.445	5.75	2.686	1.00	2,608	前夜に積雪、戸川林道で松下さんの車	
3	4	大倉～三ノ塔尾根～鳥尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ	無し	暖か	単独	大倉	7:07	大倉	15:30	35,686	17.843	6.37	2.801	1.00	2,889	作治小屋新館へ携帯アンテナ張り	
	11	県民の森～マルガヤ尾根～小丸尾根下降～西山林道～大倉	晴れ	無し	積降20℃	百岡	県民の森	7:30	大倉	14:00	34,257	17.128	6.31	2.714	1.00	2,862	洗沢駅で吉岡さんから声を掛けられる	
	19	大倉～作治小屋:往路、帰路は車(津々木)	曇り			単独	大倉	7:07	愛甲石田	車	15,057	7.528	3.05	2.468	1.00	1,383	作治小屋:千葉県船橋市:長尾住治さん	
	21	甲子園2回戦:慶応2-1勝利																優勝:甲子園:ベンチメンバー
	28	甲子園3回戦:阪谷大平安0-1勝利:優勝初登板																優勝:甲子園:ピッチャー
4	29	甲子園準々決勝:報徳学園5-4敗戦:優勝敗戦投手																優勝:甲子園:敗戦投手
4	2	大倉～作治小屋:往復	晴れ			単独	大倉	8:35	大倉	14:10	23,303	11.651	3.60	3.236	1.00	1,632	作治小屋:太陽光発電:蓄電池残量計取付	
	9	大倉～作治小屋:往復	晴れ			単独	大倉	8:40	大倉	15:10	23,605	11.802	3.66	3.225	1.00	1,660	作治小屋:インバーター出力コンセント取付	
	23	県民の森～マルガヤ尾根～花立～源次郎尾根～大倉	曇り		鍋割山稜14℃	高崎	県民の森	7:05	大倉	16:20	33,327	16.663	6.58	2.532	1.00	2,984	電神ノ景付近から木小屋の神野さんの車	
5	29	大倉～三ノ塔尾根～仲尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ		鳥尾山頂19℃	単独	大倉	7:07	大倉	15:10	35,210	17.605	6.73	2.616	1.00	3,052	作治小屋:津々木さんが丸ノコでマキ作り	
	5	県民の森～小丸尾根～源次郎尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ		鍋割山稜20℃	長尾	県民の森	7:00	大倉	15:10	37,874	18.937	7.15	2.649	1.00	3,243	電車であった長尾さんを案内	
	27	大倉～作治小屋(泊)	晴れ				大倉	9:15	作治小屋	9:50	4,073	2.036	0.83	2.453	1.00	376	戸川林道:小木曾、松下さんの車	
6	28	作治小屋～書斎新道～木ノ又尾根～政次郎尾根下降～作治小屋	晴れ～ガス				砂川、利谷	作治小屋	7:15	大倉	15:20	21,113	10.556	4.83	2.186	1.00	2,190	焼炉は津々木さんの車～おおすみ山居
	17	大倉～三ノ塔尾根:牛首～表丹沢林道～作治小屋～大倉	晴れ		夏日	帯り:菅原、菊池	大倉	7:10	作治小屋	9:25	29,698	14.849	5.11	2.906	1.00	2,317	前日コロナワクチン接種により無理しない	
	24	県民の森～小丸尾根～鍋割山稜～花立～源次郎尾根～作治小屋	曇り～ガス		高温多湿	単独	県民の森	7:00	作治小屋	12:30	31,864	15.932	6.65	2.396	1.00	3,016	ヒル20匹、2箇所獲られる	
7	29	大倉～作治小屋(泊)	晴れ		酷暑	単独	大倉	8:40	作治小屋	10:10	12,260	6.130	2.18	2.812	1.00	988	作治小屋の冷蔵庫電源整備	
	30	(泊)作治小屋～車～大倉	晴れ		酷暑	単独	作治小屋	12:45	大倉	13:00	4,011	2.005	0.68	2.949	1.00	308	同上～津々木さんの車	
8	23	優勝の甲子園決勝(仙台育英-青森県11:準優勝)	曇り		酷暑	家族応援			甲子園		9,854	4.927	1.76	2.799	0.80	638	決勝=仙台育英2-8慶応義塾	
9	2	大倉～作治小屋～政次郎尾根(登り30分まで)	晴れ		作治小屋30℃	単独	大倉	7:10	大倉	15:00	26,298	13.149	4.48	2.935	0.90	1,828	作治小屋の物置電源復旧	
	9	大倉～作治小屋(往復) LED照明用太陽電池100W増設	霧雨(濃霧)		高温多湿	単独	大倉	7:17	大倉	16:00	18,591	9.295	3.48	2.671	0.90	1,420	戸川林道陥没復旧:津々木、小木曾、牛垣	
	16	大倉～作治小屋(泊) LED照明用蓄電池移設(川浪)	曇り		高温多湿	単独	大倉	10:10	作治小屋	12:10	12,406	6.203	2.15	2.885	0.90	877	作治小屋泊(津々木さんと二人)	
	17	作治小屋～大倉(車)	曇り		高温多湿	単独	作治小屋	10:10	大倉	10:30	4,362	2.181	0.73	2.988	0.90	298	津々木さんの車に便乗	
10	1	大倉～作治小屋(往復)	曇り		高温多湿	単独	大倉	7:10	大倉	13:00	25,747	12.873	4.15	3.102	0.90	1,694	作治小屋屋外指示板:写真10枚更新	
	7	大倉～萩山林道～牛首～表丹沢林道～作治小屋～大倉	曇り			単独	大倉	7:17	大倉	16:00	27,631	13.815	4.43	3.119	1.00	2,009	作治小屋:光センサー交換(不成功)	
	14	大倉～鳥尾尾根～鳥尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ		20℃	単独	大倉	7:17	大倉	14:40	36,057	18.028	6.66	2.707	1.00	3,020	作治小屋閉鎖中	
	22	大倉～作治小屋(往復) 仲尾根上の植林帯入口(往復)	晴れ			単独	大倉	7:10	大倉	14:50	31,573	15.786	5.60	2.819	1.00	2,540	仲尾根往復:40歳夫婦を案内	
11	28	大倉～鳥尾尾根～鳥尾山～仲尾根下降～作治小屋～大倉	晴れ			単独	大倉	7:10	大倉	16:00	35,736	17.868	6.63	2.695	1.00	3,007	ゆっぴり登る、鳥尾山往で三木さんと談笑	
	11	大倉～作治小屋(往復)	霧雨(濃霧)		作治小屋朝=7℃	単独	大倉	7:10	大倉	14:50	25,794	12.897	4.07	3.169	0.90	1,661	作治小屋:光センサー交換	
	18	大倉～戸川林道～鳥尾尾根～鳥尾山～仲尾根下降～大倉	快晴		山頂10℃、強風	単独	大倉	7:08	大倉	16:30	33,690	16.845	6.21	2.713	1.00	2,816	電神ノ景で心霊を見る:白のブライム&ロックス	
	25	大倉～作治小屋(泊)	曇り			5名	大倉	10:00	作治小屋	11:30	9,142	4.571	1.58	2.893	0.90	645	高崎、三好、石塚カブル	
12	26	作治小屋～仲尾根少し～おおすみ山居(紅葉鑑賞)	曇り～霧雨		作治小屋=6℃	石塚カブル	作治小屋	8:10	大倉	12:10	7,218	3.609	2.13	1.694	0.90	869	石塚カブル:おおすみ山居	
	9	大倉～戸川林道～鳥尾尾根～鳥尾山～仲尾根下降～大倉	快晴		鳥尾山頂15℃	単独	大倉	7:10	大倉	15:00	34,982	17.491	6.45	2.712	1.00	2,925	作治小屋と決別決意	
	17	大倉～作治小屋～表丹沢林道～牛首～三ノ塔尾根下部～大倉	晴れ		気温15℃	単独	大倉	7:08	大倉	14:00	23,697	11.848	4.11	2.883	0.90	1,677	作治小屋指示物撤去:決別	
計											897,303	449	161	2,785		71,667		

老いて10年
丹沢NOTE
(第3版)

著 者 田 中 文 夫
制 作 私 製 版
発 行 者 田 中 文 夫
発 行 所 山 岳 文 化 研 究 所
横浜市旭区東希望ヶ丘 23 番地 1
「山と文化のホームページ」
<http://mountain-culture.com/>

印刷製本 冊子印刷社
終 稿 2025 年 12 月 20 日 (第 3 版)
発 行 日 2026 年 12 月 22 日 (HP 公開)

非 売 品